



行政法
總論

14
746



始



筧博士講述

(非賣品)

行政法

總論

東京帝國大學講義

寬博士講述

(非賣品)



行政法

總論

東京帝國大學講義

大正
14. 3. 18
丙

政治論ト云フ部分ヲ述フルコト、ス

緒論 事物根本觀念略説

事物ハ唯ダ孤独ノ存在ヲナスモノナラス、必ラス他ノ事物ト相俟ツ事物
カ他ノ事物ヲ包蔵シ其ノ淵源トナル場合ニ於テ又同類ナリ。故ニ事物ハ其
ノ間ノ相互ノ關係トハナラス始メテ其ノ存在ヲ觀念シ得、例ハハ五尺ノ身
体ヲ有スル事物モ他ノ事物ニ對スル關係ニ應シテ或ハ肉塊ナリ、或ハ太郎
ナリ、或ハ家屋ナリ、或ハ山田氏ナリ、或ハ日本人ナリ、或ハ人間ナリ、
或ハ生物ナリ、地球ナリ、宇宙ナリ、神夫自身ナリ、又例ハハ一塊ノ石ト
覺ユルモノモ牆壁ナリ、或ハ家屋ナリ、或ハ財產ナリ、或ハ太郎ナリ、或
ハ山田氏ナリ、國家ナリ、地球ナリ、宇宙夫自身ナリ、
何レモ他ノ事物トノ關係ニ應シ始メテ太郎ナリ石塊ナルモノニシテ其自

身他ヲ排斥シテ存在スルモノナラス、今五等ノ事物觀念ヲ根本的ニ大別ス
ルトキハ独立關係及ヒ表現關係ノ二種トナスヲ要スヘク又二面關係ノ各々
ヲ二分シテ、全部相對關係、全部對部關係（表現相對關係）、表現對立
關係、表現歸一關係ノ四種トナス、以下一章ニハ之等各種ノ關係ヲ説キ、
二章ニハ之等諸關係ノ間ノ相互ノ關係ニ説キ及ブス。

第一章 事物根本關係ノ種類

第一、独立關係

相互ニ異別ナル事物トシテ各自ノ獨特ナル目的並ニ存在ヲ主張シツ、僅
ニ自己ノ自由ニヨリテノミソレヲ制限スルコトヲ要スル關係ヲ獨立關係ト

三フ

細別シテ全部相對關係、全部對部分關係トス。

(1)

全部相對關係

數多ノ事物相互ニ他ニ對シテ差シ當リ全部者タルヲ主張シ全然其ノ独立ヲ要求スル關係ハ全部相對關係ナリ、自己獨立ノ全部者タルヲ許ス故ニアラユル目的ヲ以テ自己ノ目的トシ、自己ノ價值ヲ以テ一切ヲ計ル又度トナサントスルナリ、個人主義ノ人生觀、唯物主義ノ世界觀、如キハ全部相對關係ヨリ出發シ其ノ極端ナルモノハ他ノ根本關係ヲ排斥シ故リ此ノ關係ノミヲ以テ一貫セントス、事物相對關係ニ立ツ事物間ヲ支配スル正義ハ均一的正義ナリ、各事物ハ各自平等ニ取扱ハル、偏重セザルコト、不足ナルカヘキヲ要求ス、例ハハ太郎ハ次郎ニアラス、市町村ニアラス、國家ニアラス、親ハ家屋ニアラス、家屋ハ土地ニアラス、甲ノ土地ハ乙ノ土地ニアラス、此等ノ事物ハ各自全部トシテ他ヲ考慮スルヲ要セス、共ニ互ニ他ニ從ヒ自己ヲ制限スルヲ要セス、他人ノ自由ヲ制

限スルトキハ則チ他人ヲ侵害スルコトナレ、

(2)

全部對部分關係(表現相對關係)

事物カ差當リ獨立ノ目的ニテ存在スルニ拘ラス、其ノ背後ニ存存スル表現關係ニ留意スルヲ要求スル結果トシテ尚ホ一方ハ他ヲ包括スル全部ニシテ他方ハ包括セラル、全部タルコトナリ、部分ト云ヒ自己獨特ノ目的ヲ有シ、此ニノツトリ自己ノ自由ニ已レテ制限スルモノナレトモ全部ト部分間ニハ又平等ノ關係ナリ、部分ハ全部ノ要求ニ盡キ自ラ違フ自己ノ目的ヲ定メ自ラ已ラ制限セサルヲ得ス、又シ部分ニシテ其ノ範圍有タル全部ノ要求ヲ無視セハ全部ニ其ノ侵害ナルカニシテ、部分ヲ欺正スルコトヲ要ス、假テ兩者間ヲ支配スル正義ハ部分的正義ナリ、例ハハ太郎ハ市町村ニアラス、國家ニアラス、市町村等モ亦國家ニアラス、各獨立セル人際者ナリ、保シ太郎ハ市町村ノ分子、國家ノ分子トシテ國家又ハ市町村ノ目的ニ盡キ其ノ範圍内ニ於テ自己ノ目的ヲ定ムルヲ要スヘキ方面アリ、市町村ヲ國家ノ分子トシテ國家ノ目的ニ添テ其如ク自己

目的ヲ定ムヘキ方面アルコトモ亦同様ナリ、全部対部分關係ハ又表現
相對關係トモ云ヒ、其ノ中ニハ嚴格ナル意味ニ於ケル全部対部分關係ノ
外ニ部分対部分關係ニ念ム、併シ部分対部分關係ハ歸スル所ニ依リ上ノ
全部対部分關係ヲ相結合ヘサレゾ、アルモノ故全部対部分觀念ヲ取扱フテ
之ヲ解スヘシ、

第二 表現關係

表現關係トハ各事物互ニ其ノ存在ヲ一ニシテ相互ニ他ヲ包藏スル他
ノ別源トナリツ、アル關係ヲ云フ、

(1) 表現歸一關係

表現歸一關係トハ多數ノ事物カ一ニ歸ヘシニナラザル關係ヲ云フモノサ
ルカ一方ノ事物ハ表現セラル、事物トシテ凡テ表現スル一切ノ事物ノ歸
ハスル別源トナリ、他方ノ事物ハ表現スルモノトシテ各々即チ一ノ別
源ソレ自身ニ外ナラザル關係ヲ云フ、例ヘハ全部ト人間トハ表現歸一關

係ニ立ツヲ得、此ノ場合ニ全部則チ人間ニシテ人間ハ又全部次部等ノ歸
一スル存在ヲナシ、全部次部ノ別源トナレトモ唯全部次部トシテ存在シ
得ルノミ、人間ヲ認メスシテ全部次部アルコトナキモ全部次部ヲ捨テ、
又人間ナルモノアルコトナシ、此ノ場合ニ人間トハ表現セラル、事物ナ
リ、全部次部ハ表現スル事物ナリ、其ノ間ノ關係ハ表現歸一關係ナリ、表
現スルモノトセラル、モノトハ當初ヨリ相離レズ、全然同一物ナラザル
モ全然異物タルニアラス、異物ナラストシテ見レハ全部即チ人間ナリ、
目的ナラストシテ見レハ人間即チ全部ナリト云フヲ得ス、

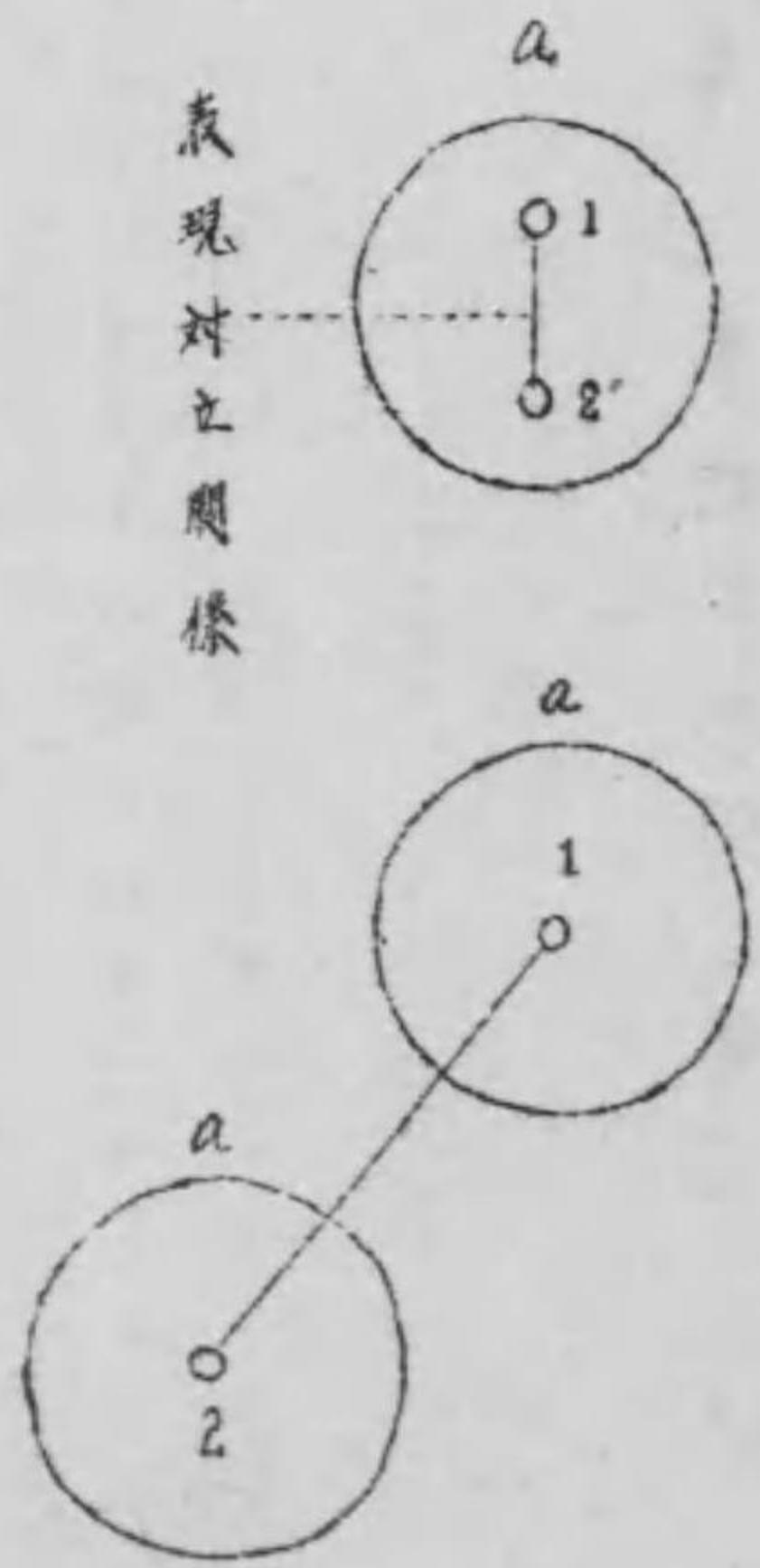
(2) 表現對立關係

表現セラル、事物ハ表現スル事物トハ絶対的同一ナリトハ云フヲ得ス、
従テ一事物ヲ表スル數多ノ事物ハ表現者トシテ乃尚對立ス、相對立ス
ルト云モ皆即チ表現セラル、唯一ノ事物ニ外ナラザルカ故ニ對立關係ニ
於ケル相對ト其ノ趣ヲ異ニシ自己對立ノ目的ナリ、自由ナリ、目的トス
ル所ハ表現セラル、全一體ノ目的ナリ、主張スル自由モ亦同シク全一體

自由ナリ、而も調一体系ナルモノカ孤放ニ有スルモノニアラサレハ全一ノ目的並ニ自由ハ實ニ表現スル一切ノ事物ノ歸一スル目的ナリ、自由ナリ、表現者ノ有スル目的ナリ、自由ナリ、換言スレハ表現対立關係ニ於テ主張スル目的及自由ハ表現者タル事物方他ノ一切ノ事物ヲ包藏シ、其ノ淵源トナリツ、ナル場合ニ有スル目的ナリ、自由ナリ、故ニ表現者タル自己ノ自由ハ即チ全体ノ目的、自己ノ自由ハ則チ全体ノ自由ナリ、独立關係ニ立ツ事物間ニ於ケル如ク自己ノ目的ニヨリ自己ノ自由ニ已ラ制限スルモノナレハ外部ノ目的又ハ自由ニヨリ自己ヲ拘束スルコトヲ要求セラルハコトナシ、例ヘハ内務大臣及ヒ前錄知事ハ共ニ皇國ヲ表現シ、日本臣民モ各自國家ヲ表現ス、皇國トシテハ唯一ナルモ表現スル人格者則チ表現人トシテハ其ノ數ヲ定ムヘカラス、而シテ之等ノ表現人ハ皆各自國家ニ歸一シ各則皇國ナレトモ何レモ國家ヲ独占シ皇國ト絶對的ニ合一ナルモノニアラス、表現人トシテ相對立シ、其ノ分担ニ付キ即チ皇國ト相對立ス、相對立スレトモ自己獨立ノ目的ト自由トヲ有スルニテラス、皇國ノ目的ヲ有シ皇國ノ自由ヲ主張スルノミ、而シテ皇國ノ

自由及目的ハ表現人カ表現人トシテ有スル自由及目的ナリ、此ニ於テ多數表現人ノ存在ハ秩序ト組織トヲ離ルハ得ズ、表現人ニハ必ス此ニヨリ定ムル權利アリ、獨立關係ニ立テル人格者ニハ制限ナキヲ本則トスルモ表現人ニハ必ス制限アリ、

(註)



表現対立關係

表現ト代表ハ異ル、代表ハ元素相異ナルモノカニアリテ而シテ一方カ又ハ一部カニ者ヲ表ス、即チ



表現ハ表現セラル、モノト表現スルモノトハ一切一時ニ存スルナリ、
ニ者相異レルモノニアラス、然レトモ絶対ニ同シナラス、

第二章 事物根本相互關係

事物ハ差當リニ於テ常ニ何等カノ事物根本關係ニ立ツ、從テ或ハ愈々之
ヲ肯定シテ進ムヲ得ヘリ、或ハ却テ之ヲ否定シテ抑圧スルヲ得、全部者カ
全部者ノタメニ其目的ヲ保持スルヲ得ス其自ラ侵害セラレ、部分カ全部ノ
意味ナキ背圧ニ遇ヒ、全部カ部分ノ爲メニ破壊セラレ、表現者カ相互ニ孤

立シ自己ノ目的ヲ固守シ表現セラル、モノト表現者ト相離レテ代理代表ノ
形跡ヲ有スルニ至ル如キ皆四種ノ根本關係ノ地盤ニ立テ之ヲ否定シツ、ア
ルモノト云フヘシ、

第一 客觀的觀察

事物根本關係ニテ肯定スルニ當リテモ否定スルニアリテモ其ニヨルコト
ヲ要スルモノニシテ四種ノ關係ハ相係ヲ離ル、ヲ得ス、相係ヲテ其ノ一ツ
ヲモ離スヘカラサル故其ノ同本末ノ差アリ、表現關係ハ根本ニシテ獨立關
係ハ枝葉ナリ、更ニ詳細ニ云ハハ表現層ハ關係ハ元ニシテ之ト離レサル表
現對立關係アリ、之等ノ表現關係ヲ基礎トシテ差當リニ於テモ尚ホ此等ニ
留意シツ、獨立關係ヲ見ル場合ニ全部對部分ノ關係アリ、更ニ之等ヲ根柢
トシテ始メテ全部相對關係ヲ定メ得、故ニ一事物根本關係ノ肯定ハ則チ他
ノ事物根本關係ノ肯定トナリ健全ニ一關係ヲ察揚スルハ健全ニ一切ノ關係
ヲ察揚セシムルヲ必要トス、例ハ差當リ各個人ノ差別ヲ前提トシ各自ノ

目的ト自由トヲ主張スルカ如キハ歸スル處ハ全部対部^カ關係及ヒ表現關係ノ根本ヲモ運運用スル所以ニシテ且ツ表現關係ノ根本ヨリ發生シツ、アレ^好ニ外ナラス、全部対部關係ニ立ツ各個人間ニ認ハラル、自由平等博愛ノ如キハ表現關係ニ立ツ人格者間ノ至高至大ノ普遍的自由、普遍的平等、普遍的博愛ヲ實現スルニ付キ此等ヲ念及立人ニ分認スルニヨリ認メラル、之ノニ外ナラス、

獨立關係ヲ以テ表現關係ノ單純ナル手段ト云フニアラス、其ニ目的ナリ手段ナリト云フヲ得ルニ表現關係ハ常ニ元ニシテ獨立關係ハ常ニ末ナリ、末ハ元ヲ養ヒ本ヲ定メナカラズ恒久ニ元ノ純粋ヲ受ケサルヘカラス、例スレバ表現歸一關係ニテハ同一ナル水ヲ見ル、而シテ氷ナルモノカ空間ノ高低温度ノ高下ニヨリ雲トナリ、雨トナリ、海河トナリ、氷トナリ存在ス、此等ノ差別アル獨立存在ニヨリ全一ニ表現セラル、コトナリ、同一ナル水ノ存在、其作用ヲ察現スルヲ得セシムルナリ、

第二 主觀的實行

事物根本關係ハ之ヲ客觀的ニ觀察セハ以上ノ順序ヲ經ルカ吾人カ事物ノ其ノ根本關係ニ從ヒ運用スルニ當リテハ其ノ何レヲ表面ニ現シ其ノ何レヲ背後ニ隱スヘキヤヲ豫定スル能ハス、其ノ欲宣ヲ見、運用ノ妙ヲ得ルハ吾人ノ方寸ニアルノミ、

固ヨリ事物根本諸關係ノ本末ノ秩序ヲ忘却スルヲ許シ、レトモ此ノ秩序ニヨリ當ツテ何レカノ一關係ヲ捕ヘ、他ヲ活用スルヲ得ヘキナリ、一關係ノ現ハスコトハ之ヲ本トシ、他ヲ末トスルニアラス、一關係ヲ隱スコトハ之ヲ末トシ他ヲ察現スルノ意ナラス、

皇國ト事物根本關係

以上ノ事物根本關係ニ從從ヒテ、諸關係ノ本末ノ秩序ヲ察現セシ、其ノ要求ニ從ヒ自在ニ之ヲ運用スルカ我立國ノ精神ニシテ神德(性神)ヲコトトセス國ト蘇スル所以ナリ、昔ク事物根本諸關係ヲ定メ無理ナキヤウニ之ヲ活用スルカ我カ大精神ナリ、

第一編 行政法上ノ人格者

行政法學ノ職分ハ行政法ノ領域ニ付キ先ツ已レトハ何ソヤト云フコトヲ
包覺セシメ、己ヲ實現スルニ必要ナル智識ヲ精査スルニアリ、吾斯ル要
ヲ有スル已ヲ行政作用ノ領域ニ於テ法ノ智識トシ、表現セシムルニアリ、
行政作用ノ領域ニ於テハ己カ如何ニ已レテ創設シ融通セシメ、如何ニ己ニ
自ヲ分配セラレ、且ツ己カ己ヲ分配セシムルモノナルカニ關スル法ノ智識
ヲ明カニスルニアリ、行政作用ヲソノ領域トシテ人格ノ、創設及分配等ニ關
スル法ノ智識ヲ明カニスルニアリ、

第一章 創設

行政法上ニ於テ人格者ヲ認ムルモノハソノ範圍ヲ廣クシ固体上ノ人格者
等ノ悉皆ヲ網羅スルニ本編ニ於テ此等ノ人格者中斯ニ行政作用ヲソノ存在
ノ本トスル人格者ヲ説明セントス、
但シ之等ノ行政目的ノ前々特ニ認メラレタル人格者ヲ論スルニ付テハ先
ツ其ノ基礎タル國法上ノ人格者ヲ反省スル必要アリ、皇國並ニ天皇及皇族
臣民ノ本儀ニナリ、

第一節 人格者ノ概念

人格者トハ精神生活ノ根源ニテ智識ニ先テ存在シ、智識ニヨリ推論
ル結果存スルモノニアラス、今先ツ一般的ニ人格者ヲ説明スルハ最モ広義
ニ於テハ大生今スハ其ノ顯現者（表現者並ニ察現者）トシテ其ノ創設作用
ヲ行フモノヲ云ヒ、狹義ニ於テハ人類スハ顯現者トシテ相互ニ活動關係ノ
主体たり客体タルモノヲ云フ、然レトモ法律學上ノ人格者ハ更ニ狹義ニシ
テ規律（規範）普遍意思ノ主体タル我スハ斯ル吾レノ顯現者タル根拠ヲ有

スルモノニシテ、当該現律普通意思ニヨリ其ノ定メ且ツ規律スル活動關係ノ
主体タルコトヲ認ムラレツ、アルモノヲ云フ、人格者ハ法律上ノ人格者ト
受テ自他ヲ包含シナカラ、尚本自命トシテ他人ト相對立シ、自他相對立シナ
カラ自他トテ己ニ包含スルコトヲ性復トシテ、コレニヨリ存在ス、コレト
同時ニ人格者ハ自他ノ事實トシテ存在スレトモ、單體ナル自然事實ノミナラ
ス少クモ信仰及ヒ認定ニヨリ自ラ創設シツ、アルノミナラス、又體エス
創設セラレツ、アルモノヲ云フ、此ノ體エサル創設ハ法ト雖ルヘカラスシ
テ人格者夫レ自身ハ法ト雖レテ存在スルヲ認ス、人ヲ檢テテ法ナキモ亦法
ヲ離レテ人存在セス、法トハ其然トシテ、彼ヲニ外部ニ存在スルモノニテラ
ス、秩序ヲ以テ存在スル人ニ内在スル規則ナリ、各人ニ内在スルモノニテラ
シテ自他ニ付キ異レル偶然ノモノニテラスシテ、分ヲ以テ一休トナリツ、
アル自己ノ一切ニ法マキ規則ナリ、法ハ自他ノ一心同體ソレ自身ニ屬ス
ル規則ニシテ此ノ一身同體タル我ノ表現者ニヨリテアル法ニヨリテ表現者
ニ表現セラル、念一休モテレトモ法モ亦之等ノ表現者、表現者ニヨリテ
存在スルモノナリ、斯リノ如キ法ニヨリ其ノ屬スル念一休又ハ其ノ表現者

ト認メラレツ、アルモノニシテ、法ヲ定ムル創設作用
ヲ行ヒツ、アルモノヲ人格者ト云フ、

人格者中ニ於テ、自他ヲ包含シテ之ヲ統括スルヲ主タル性復トシテ自他
ノ對立ヲ復タル性復トセルモノハ自他ノ本來ノ一身同體タル自主獨立ナル
國家ナリ、之レニ及シ自他ノ對立スルコト、離レテ君臣其他各自ノ分ヲ担
當スルヲ主トシツ、而モ自他ヲ包含シツ、アル人格者ハ皇國ニアリテハ天
皇、皇族及ヒ臣民ナリ、此等人格者中天皇ハ自主者ニ在ハスニ皇族及ヒ臣民
ハ非自主者ニシテ、常ニ天皇ノ輔翼者タル性復ヲ有ス、

第二節 皇國ノ本質

皇國ハ其ノ信仰ニ基キ成立存在スル普通意識ニシテ最高主權ト領土トヲ具
備セシ自主國体ナリ、朕言スレハ皇國ハ神ナカラノ一身同體ナル領土國体
ナリ、

第一款 最高主権ヲ有スル自主領土団体

國家ト云フ國家ハ何レモ皆自主領土団体タル普通法ヲソノ本質トナスモ此ノ本質ヲ發揮スルニ付テハ各國其ノ條路ヲ一線ニセス、且ソ國家トシテソノ本質ヲ發揮セシメワ、アル程度ヲ異ニス、皇國ハ天祖ノ當初ヨリ遺憾ナク國ノ本質ヲ發揮シツ、アリ、此ノ異ニ於テハ万邦中ニ在リテ万邦ヲ拔

第一 皇國ハ普通法ナリ

皇國ハ天皇又天皇ヲ戴キ天皇ヲ輔翼シツ、アル皇族及臣民ノ神體ヲ一身體ヲ云フ、神體トハ、マコトノ要求ニ基キ自他ノ牽連ヲ尊重スル義ナリ、個人ノ任意ノ要求ヲ超越セル永遠高大ナル本系ノ所發タルヲ云フコト右ニ述フルカ如シ、

普通法トハ多數人ノ本系ノ一身體ヲ云ヒ秩序アル多數ノ人格者ニヨリ

表現セラレツ、而モ之等ノ超越セル我則人格者ヲ云フ、天皇又ヒ之ヲ輔翼スル皇國人ニヨリテ皇國アレトモ皇國ニヨリテ天皇ハ皇國人アルナリ、天皇及皇族臣民ハ神體ノ一心同體タル大生命ヲ時間空間ヲ超越シテ進進シ、系榮エツ、アル過程トシテ存在スルト同時ニ又事ニ皇國及其輔翼者ノ止マサル進進ニヨリテ益々神體ノ一心同體タル大生命ノ創設シツ、アルナリ、之ヲ神體ノ一心同體ハ天皇又ヒ皇族並ヒニ臣民ニヨリテ表現セラルト云フ表現歸一ノ關係ト云フハ此ノ一心同體トソノ内部ノ人格者トノ關係ヲ云フナリ、

(註) 我トハ、神體自在広狭無礙

第二 皇國ハ自主法普通法ナリ、又自創者ナリ

皇國ハ嘗ニ本表ノ一心同體タルニ止マラス、自己ノ表現者ニヨリ己ノ存在ヲ創定スルニヨリ完全ナル存在ヲナスノミナラス、此ノ創定ニヨリ、之レニ對立スル人格者ノ認定ヲ統括シ得ル優等ナル認定ヲナシ得ル義ナリ、

自己ヲ存在ニ付テハ最高ノ認定カヲ有スル人格者ナリ、此ノ点ニ於テ自派
団体タル普通派ハ自治団体タル普通派ト異ル、

皇國カ自主者タルコトハ皇國ノ自創者タルコトヲ離レズ、皇國ハ根本ニ
於テ自ラ己ノ範圍ヲ定メ己ノ生命ヲ特定有限ナル行動トシテ實現スルモノ
ナリ、外來ノ強制者ニ基キテ機械的ニ勵クモノナラス、之ト同時ニ皇國カ
其ノ臣民ヲ統治スルコトハ皇國カ自己ニアラサル他人ヲ創スルコトニアラ
スシテ根本ニ於テハ常ニ皇國カ己レ自身ヲ創スルモノナリ、皇國臣民ハ必
シモ皇國以外ノ存在ニアラスシテ皆則國家ソレ自身ニ外ナラス、皇國ハ人
民ヲ除外シテ存在スル一人入ハ少數者ノ集團ヲ意味スルナリ、皇國臣民ノ
一切ヲ網羅スル一心同体ニ外ナラス、

第三 皇國ハ領土団体ナリ

自主団体タル普通派ハ概シテ國家ナルモ必シモ独リ國家ノミニ限ラレ、
モノニアラス、自主団体中ニ於テ特ニ領土ヲ以テソノ存在ヲ要件トスルモ

ノニ限リ之ヲ國家ト云フ、皇國ハ帝國ノ時ヨリ完全ナル領土団体ナリ、

(註) 皇國ハ自主団体ナリ、然レトモ國家ニアラス、領土ヲ有セザレ
ハナリ、

第四 皇國ハ最高主権國ナリ

最高主権國ハ又單ニ主権國トモ云フ、通常主権ナル語ハ或ハ自主主権ノ意
ニモ用ヒラレ、或ハ最高主権ノ義ニモ採用セラレ又自主団体タル國家ノ普
通派ヲ意味スルコトモアリ、自主表現人ノ表現概念ヲ表ハスコトモアリ、
自主主権トハ自己ノ意思ニヨリ自己ノ人格ヲ創定スルコトヲ同時ニ己ト
対立スル人格者ヲシテ之ヲ是認セシメ得ヘキ創定力ノ義ナルカ最高主権ト
ハ相々ノ場合ニ於テ最終局ナル所ヲ單独ニテ有效ナル活動ヲナシ得ル意思
ノカヲ云フ、他人ノ許可又ハ同意ヲ要セズシテ独立独行シ得ル有效ナレ意
思ヲ指ス、故ニ最高主権國トハ其ノ力ニ於テ自足セル國家ノ義ナリ、自足
者タル國家ハ常ニ自主主権ヲ有スルモノナルカ自主主権ヲ有スル國家ハ必スシ

最高主権ヲ有スルモノナラス、常ニ自足セルモノトハ云々難シ、皇國ハ
 自主^五体タルニ止マラス、当初ヨリ自足団体ナリ、國際聯盟ノ成立並ニ之ニ
 加入スルニヨリ其ノ本質ヲ損スルコトナシ、聯盟ノ成立並ニ加入カ皆皇國
 ノ自由意志ニ由ルモノニシテ此ノ程ノ聯盟ノ健全ナル成立奉運ハ我立國
 精神ノ要求ノ實現ニ外ナラス、而シテ皇國ノ最高主権ヲ表現シ給フ自主者
 ハ天皇ナリ、天皇ハ皇國人ノ一切ノ精翼ヲ以テ皇國ノ自主主権並ニ最高主権
 ヲ表現シ給ヒ表現人格者トシテ自主者ニ在ハスト同様に恒々ノ表現行為ニ
 付テモ結局何人ノ統括ヲ受ケサル最高主権者ナリ、天皇非最高主権者ト
 ルコトモ憲法ノ許サレトコロナルカ皇國カ非最高主権國タルコトモ亦同
 シク違國ノ精神ニ反ス、

(註)



第二款 誠ノ信仰ニ基キ成立存在ス

皇國ハ誠ノ信仰ニ基キ成立存在ス、此ノ信仰ハ國法ノ規定ニヨリ存在ス
 ルニアラスシテ國法等カ此ノ信仰ノ上ニ制定セラレツ、アルナリ、誠ノ信
 仰ハ國法ヲ捨テ、又空漠ト存スルニアラス、國法等ニヨリ定キテ得ルモノ
 ナルモノモ之等フシテ誠ノ要求ニ背反スルヲ許サス、誠ノ要求ニヨリ國法
 フ改廢スヘキモ國法ニヨリ誠ヲ廢止スル能ハス、誠ニヨリ社会ヲナスコト
 ハ独リ皇國ノミニ限ルニアラサルモ我民族ハ其理想トシテ之ノ歴史ニ於
 テモ他ニ覆例ナキ程度キヲ置テ、皇國ハ神靈ソノ一心同体ナリト云々神ナ
 カラ古奉セ又同ト云々、神國ナリト云フモ亦皆之レヨリ来ル、誠ハ皇國ニ
 通シテ唯一ニシテ且ツ万邦ニ亘リニナシ、故ニ今古東西ノ皆誠及ヒ經驗ヲ
 尊重シ、之レヲ探知シ、之ニヨリ愈々誠ヲ陶冶スルコトヲ要スルト共ニ皇
 國ノ内部ヨリ祭シテ広ク外邦ヲ美化シ、諸民族、異人種ヲ善導スルヲ要ス
 ルハ明カナリ、之我五國ノ精神ナリ、

然レトモ識ハ天地ノ公道（真理）ヲ指スノミナラス民族ノ内部ニ備ハルル自然ノ事象ヲ示フ、宇宙ノ第一事實ヲ表現スル事實ヲ意味ス、此ノ第一事實ヲ尊重シ之レヨリ離脱セザルコトヲ定ニ皇國ノ神體ソノ一心同体タル所以ナリ、

（註）第一事實トハ說明出來ス一巻ノ行詰リノコトヲ表ハス意ナリ、例ヘハ金カ黄金、銀カ白色ナリト云フカ如キコトハ第一事實ナリ、トナルハ何故カ說明ハ出來ス、之レ宇宙ノ第一事實ナリ、

皇國ハ各個人カ善美ト認ムル所ヲ実行セシメテカメノ手做トシテ設ケタル關係又ハ狀態ニアラス、故カ服従又ハ利益ノ關係論ハ之レニヨリ保持セラレツ、アル状態ニアラス、各個人ノ所存ヲ超越セル根本ノ秩序ト生命トヲ自然ノ牽連ノ前提トシ振興トセル等ノ自然ノ秩序生命及ヒ其牽連ハ天地ノ公道ト相俟ラズニ背馳セザルモ吾人推理ノ結果断定スル程度ニアラス又公道ニ振属スルモノニアラス、寧ろ公道ノ其ノ中ニ存セシメ之レヲ通シテ公道ヲ認メ得セシメ其ノ高メニ公道ヲ必要トスル事實ナリ、真理ナリ、

皇國ハ昔ヨリ善美ノ要求ヲ尊重スルコト勿論ニシテ又故カ服従ノ關係及ヒ利害關係ヲ整頓セザルモ神聖ノ信仰ヲ根本トシテ之等善美ノ一切ヲ包括シ誠ヲ本トシ此等ヲ使用スルコトヲ旨トス、故ニ皇國ヲ奉ケテ高徳者賢人アラシメントスルノミナラス、降フテハ故カ服従ノ關係ヲ擴ヘ利害關係ヲ念ラサルト同時ニ是當リ従ラニ徳高キヲ探ヒ國政ヲ擔擲セシムル國ニモアラズ、特定ノ高徳者又ハ賢人ト号スルモノヲシテ其ノ者ノ隨所ニ定ムル善美ヲ標準トシツ、世ノ一切人ヲ支配スルコトヲ主旨トセズ、サテハトテ善美ノ標準ヲ以テ多數ノミ定メ少數者ヲ圧スル流ナラス、

皇國ハ又強者カ振勢ヲタノミ弱者ヲ威圧スルニ起レル國ナラス、故ニ人氏ノ絶対服従ヲ實現セシムルヲ建國ノ主旨トセズ、
皇國ハ又最大多數ノ偶然ナル慾望ヲ満足セシムルタメ安插ニヨリテ道リ上ケラレタルニアラス、假テ強者ニ委任シテ制度ヲ建テ人民相互ノ利益主張ヲ調和スルヲ存在ノ根本トナサズ、祖先代々ノ眞面目ナル生活經驗ト夫ニ民族ノ内部ヲ照シ輝カシツ、アル神ナカラノ誠ヲ以テ善ク進退スルコトニヨリ始メラレタル國政ニシテ神ナカラノ生活ノ止マサル實現カ皇國ノ存

スル所以ナリ、徒テソレカ其根本目的ナリ、故ニ神ナカラ言譽又ス國ト云フ、

第三節 皇國ニ於ケル表現人及独立人

人格者及ヒ私ハ單純ナルモノナラス、伸縮広狭無礙ニシテ一方ヨリ見ルトキハ表現人格者ニシテ他方ヨリ見ルトキハ独立人格者ナリ、皇國內部ノ人格者ハ皇國ノ表現人ニアラサルナリ、而モ各ニ独立人ナリ、抑々國家ハ表現人ト雖ル、能ハ人、國家ト表現人トハ不ニ存在ヲナシ表現人ノ關係ニ立ツ、斯ル根本ヲ有スル人格者ヲ依リニ第一級ニ於テ獨立關係ニ立タシムルトキハ國家ト其ノ介子タル獨立人トニ見ユ

第一款 皇國ノ表現人ノ性質

皇國ノ表現人第一級ニ於テ始メヨリ既ニ皇國ト一體ナリ、皇國ナリシテ表現人ナケレトモ表現人ナリシテ又皇國ナシ、二者絶對ニ同一ナルニアラ

カルモ其異ル存在ト認ムヘキハ只第一級ノ本ニ於テノミナリ、徒テ表現者ハ代表者ト異ナル、代表者トハ根本ニ於テ存在ヲ異ニセルニ人格者ノ存在ヲ前提トシ、然ル後ニ或ル行動ニソキ依リニ本人ニ歸ハスル人格ヲ云フ、故ニ表現人ノ特性ハ代表者ニ付キ之ヲ認ムヘカラス、

(註)

表現 依リニ離セルニテ

代表



此ノ表ニ於テAノ行動ハBノ行動ト見ル

第一 表現人ハ本来則皇國タル人格者ヲ云フ、

ニレヲ詳説スレハ

(1) 表現人ハ皇國ノ内部ニ於テ特定有限ノ存在ヲナシナカラ尙ホ其數ノ

相人ヲ包蔵シ、永遠ニ生クヘキ皇國ソレ自身ナリ、表現人則普通感ナリト云フハ普通感ハ表現人ニヨリテ存在スト云フコトナリ、

(2) 表現人トハ一ノ有限ナル存在中ニ無數ノ他ノ人格者ヲ包蔵スルモノナリ、一ハ一切ニアラスシテ一ハ尚一切ヲ概括ス、

(3) 表現人トハ公平無私ノ心ノ働ク人格者ノ義ナリ、更ニ正確ニ云ハハ公平無私ナリト云フ或マモ超越シ万人万歳ノ歸ハスル普通感ニシテ平ケキ心ヲ以テ行動スル人格者ナリ、

(4) 表現人トハ利害關係、服従關係更ニ尊敬、愛慕及信仰ノ中心タル人格者ニシテ此等ノ社会心理ニヨリ作ラレソ、アル人格者ナリ、

(5) 表現人トハ外部ニ向ヒ尊敬及愛慕信仰等ノ帰屬スル人格者タルト共ニ自己ノ内部ニ於テハ自信ノ存在スルモノナリ、皇國ニ於テハ神體ヲ我ノ神ノ普通感ノ自覺ヲ有スルカ表現人ノ所以ナリ、表現人トハ神ノ子ノ自信ヲ有スルヲ意味スルカ故ニ即チ皇國タル自信ヲ有スルヲ得ルナリ、

(6) 表現人トハ必ラス其ノ職命スハ权限ヲ有スル人格者ナリ、表現人ハ

自覺
神體

則チ國家タルトモ恰モ然ルカ故ニ皆有限ノ分担ナリ、其分担ヲ通シテ一切ヲ美化スル人格者ナリ、ソノ分ヲ以テ強豪ヲ實現スルモノナリ、分トハ之ヲ主觀的ニ見ルトキ分際秩序ニシテ之ヲ主觀的ニ見ルトキハ同シモノカ則職命ナリ、分担ナリ、此ノ職命ニ付チ自信ヲ有スル人格者カ表現人ナリ、

(7) 表現人トハ其ノ分ヲ通シテ一切ヲ美化スル人格者ナリ、「ムスビ」ノ働ヲ行ヒ様(ミソギ)及^ミミタマシヅメ^レヲ行フ人ノ意ナリ、各自ノ職命ヲ行フコトニヨリ一切人ノ責任ヲ引受ケ之ヲ辨ヒテ莫ノ明キ清キ階級ヲ普ク分ツモノナリ、

(8) 表現人トハ其ノ分担ヲ以テ相互ニ対シ、相互ニ保障スルコトヲ性質トスル人格者ナリ、一國內ニ唯一ノ表現人アルノミナラハ實ハ表現人ナヤナリ、而シテ其ノ分担ハ同等ニアラスシテ本表上下内外ノ別アリ分担ハ分際ニシテ則チ保障ヲ意味ス、本表上下ニ分ツテ以テ相互保障スルモノニテ保障スル但ニ表現人間ノ秩序ナリ、此ノ相互ノ相互ノ關係ヲ表現對立關係ト云フ、

第二、表現人トハ存在カ目的ニシテ手段ニアラサル人格者ヲ云フ

然レトモ表現人ノ内部ニ於テハ其ノ存在カ絶対ニ目的タルモノト云レニ
奇シテ此ノ種ノ表現人ハ活動ノ手段トシテ設定セラレタルモノトノ大別ヲ

リ、
1) 表現人トハソノ存在カ目的タル人格者ナリ、表現人タル存在ヲ手段
ト觀念シ、表現セラル、人格者ノミヲ目的ト思フコトモ誤リナレハ又
独立人トシテ他人ヲ排斥シツ、自己ヲ存在ノミヲ主張スル人格者ヲ以
テ唯一ノ目的トスルモ亦誤リナリ、独立人タル存在ヨリモ表現人タル
存在ヲ以テ更ニ高等ナル目的タリト云フヘク、表現セラル、存在ト表
現人トノ相俟ツ所ニ確實ナル目的ヲ認メ得ヘシ、而シテ之ヲ分テ見ル場
合ニモ表現人ノ存在ハ目的テアリ之レニヨリ表現セラル、普通或ノ存
在ニ亦目的ナリ、
表現スルモノモ表現セラル、モノモ共ニ目的ニシテ相俟シテ存指セ

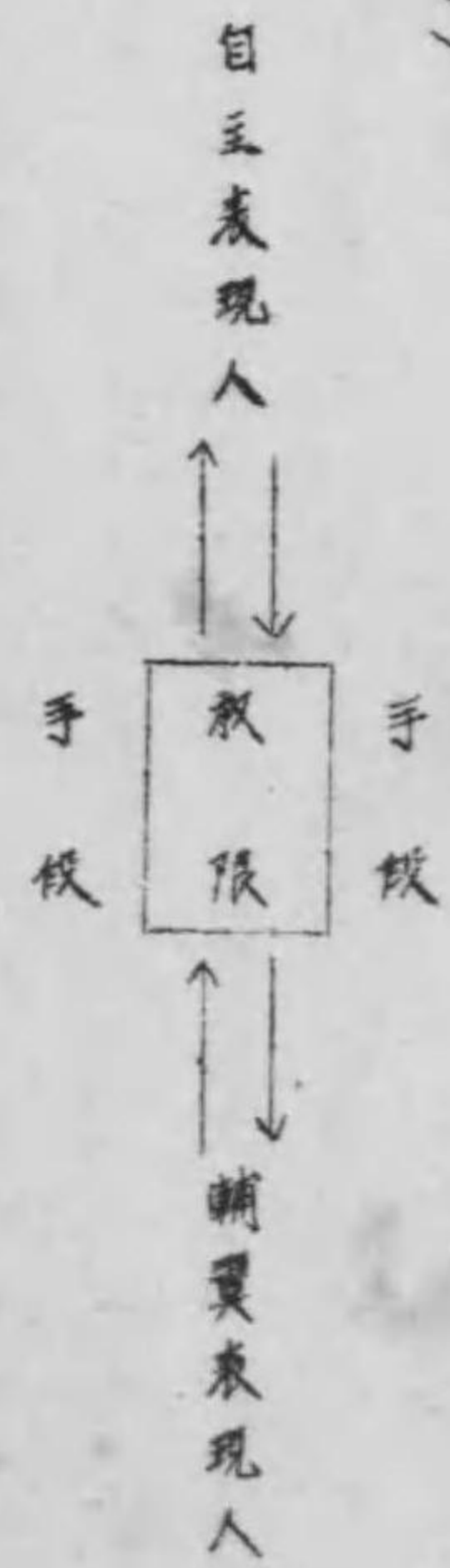
サルハ表現者カ代表者又ハ代理人ト其ノ性質ヲ異ニスル所以ナリ、

12) 表現人ノ存在ハ目的ソレ自身ナルモノソノ内部ニ於テハ目的タル表現
人トソノ表現人ノ活動スル手段トシテ依リニ設定セラレフ、アル表現
人トナリ、自主表現人タル天皇及輔翼表現人タル皇族及臣民ノ存在ハ
皇國ノ存在ト共ニ絶対ノ目的ナリ、独立人トシテノ皇國ノ存在ニ於テ
大切ナル目的タルカ如ク、表現人タル天皇及臣民ノ存在ニ於テ亦目的
ナリ、次シテ手段、方便トラス

然ルニ斯ノ如キ目的トシテ存在シ給フ天皇カ統治ノ大权ヲ行使シ給
フニ當リ時ト場合ノ宜シキヲ見、輔翼表現人ヲシテ輔翼ヲ分担シ之レ
ヲ実行セシムルヲメニ設定セル表現人ハ天皇大权ノ実行ノ手段ナリ、
而シテ又此ノ手段タル表現人ハ輔翼表現人自己本来ノ輔翼ノ職分ヲ行
フニ付キ天皇ノ大御心ニ基キ進ンテ成立セシメツ、アル手段ナリ、天
皇大权実行ノ手段ニシテ皇族臣民輔翼ノ手段ナリ、故ニ時ニ誤謬又ハ
機關ト称スルヲ妨ケサルニ尚法理上輔翼実行ノ必要ニ應ジ其ノ職分ト
準レズ、依リニ存在シツ、アル表現人感者ニ外ナラス、

行政表現人（行政上ノ表現人格者ト云フヨリ狭ク特ニ行政行為ヲソノ
存在ノ本拠トセルモノヲ云フ）ノ如キ此ノ種ノ表現人ナリ、

（註）



第二款 独立人ノ性質

第一 性質

独立人トハ独立ナル自己ノ存在ヲ主張スル人格者ナリ、自己ト他人トノ
団体タル方面ハ之ヲ有様ニ思シ、差當リ最極ニ自己ト他人トヲ区別シ、自
己ノ行動ニ對テハ自己全責任ヲ負ヒ、之ヲ他人ニ分ツコトナリ、其ノ内部

ノ成立ル所ニ從ヒ、自由ニ己ノ特色ト分相トヲ創設スル人格者ナリ、國家
上獨立人ト云フハ國家スハ國家ニヨリ斯ノ如キモノト認メラレゾ、アル人
格者ヲ云フ、

第二 獨立人ノ存在スル所以

獨立人ハ孤独ノ存在ヲナス外部ニ於テ之ヲ保障スル人格者アルヲ前提ト
セ、相互ニ異別セル存在ヲ主張シ、存在スル獨立人モ亦之等ノ獨立人
ノ限本ニ於テ構成シ、アル人々表現人トシテハ互ニ表現對立關係ニ立テ
反々保障スルニ獨立人ソレ自身トシテ單ニ差別ヲ以テ相競争スルノミ、表
現人トシテハ必ス相互ニ保障スル存在アリ、互ニ誘導信賴シ、相互ニ全部
ノ責任ヲ負ヒ、全部ノ效果ヲ享樂ス、皇國人ハ悉皆天皇ノ統治大威ノ下ニ
アルニヨリ皆表現人トシテアルナリ、之ト同時ニ一人ノ行動結果ハ其ノ
他ノ一切人ニ及ヒ一切人ノ能クノ行動ノ結果ハ其ノ一人ニ及ビ、
此ノ表現人トシテノ性質ハ此ノ表現人ヲ構成スル獨立人ヲ認ムルニ及ビ

完成せラル。蓋シ善美ナル結果ハ結局分配セラレ、靜止スル処ヲ要スヘク
 常ニ変遷シテ停止スル所ナケレハ又善美アレヲ得サレハナリ。責任モ亦必
 テ又他ヲ排シテ之レヲ引受ケル時定人ヲ要ヘハ、絶エズ勤キ義務ヲ担ナ
 ケレハ又責任ナルコトアリ得ス。責任ノ觀念ソレ自身カ結局他入ヨリ誰レ
 一人責任ヲ負ヒ不都合ヲ引キ受ケ、持テサスラヒ失フ人アルヲ要ス。果シ
 他人ニ及ホサス、一人引受ケル一人ナカラサルヘカラス、人格者カ結局ソ
 ノ善キ結果又ハ悪キ結果ヲ他人ヲ指キ引受ケル方面ニ於テハ孤立人ナリ
 孤立人ノ存在ハ又普通成金般ノ善美ナル存在並ニ作用ヲ生マシハル所以
 ナリ。蓋シ普通成金般ノ行動ハ全体ヨリ出ツル行動ナルモ必ズ特ニ全体ヲ引繼
 メ之レヲ改造シテ活動セシムルコトアルヲ要ス。斯ル全部ヲ包含セシ特定
 人ノ行動カ則チ普通成金般ノ行動ニ外ナラズ、此種人ニ重キヲ置キ之ヲ限定シテ觀念セシカ極大ニ
 結局ナル処責任ヲ引受ケ創設ノ刺激ナル人格者ハ其ノ最小限度ニ於テ内
 体ヲ存在ノ範圍トスル孤立人ナリ、之レヲ個人又ハ小群ト云ヒ、又孤立群
 個人ト云フ、其ノ數多ノ自身ニ亘リ同等ヲ一體タル範圍トスルモノヲ孤立
 団体人トス、要スルニ孤立人ハ表現人ト雖ル、然ハス、之レヲ基礎トシテ

始メテ存在シ得ルモノナルカ表現人モ亦孤立人ノ存在ヲ要件トシテ之レニ
 ヨリ形成セラル、タメニ存在シ得トナス。孤立人ト孤立人トノ關係ニハニ
 程アリ。

11) 表現相對關係
 12) 全部相對關係

前者ハ全部對部分及ヒ部分對部分ノ關係ニテ公法關係ト云ヒ、後者ハ全
 部相互ノ關係ニテ私法關係ト云フ、公法關係ハ相對者間ニ相對セラルモノ
 中權限ノ差アリシヲ前提トシテ從テカノ優劣ヲ以テ相對立スル關係ナリ、私
 法關係ハ平等ナル權限ヲ以テ相對立ス。

第四節 天皇

天皇ハ皇國一人一統ノ模範トシテ表現人タル方面ト孤立人タル方面トヲ兼
 備シ卷ヒ、表現人トシテ又同シク天皇ト稱ス、而モ表現人タラシメ給フコ
 ト

ト乃存在ノ中心ニテ表現人ト見奉ルトキハ、天皇則チ神皇ナリ
神皇ハ應國法ト同時ニ存在シ給フ國法ハ、淵源ニシテ國法先ヨリヲ兼レ
敬誠定メラレタル存在ナラス、彼ヲ國法上ノ觀念ノミニテ尽スヲ得ス

以下脚カ神皇ノ本復ヲ反自ス

神皇ハアラユル臣民ノ誠ニヨリ存在スルニ同時ニ一切ノ臣民ノ誠ヲ所應
セシメ給フ、神皇ノ誠ニ基キ皇國ハ、一切ハ具體的ニ善ク觀テ居ルヲ得
唯一ノ誠ニ歸スルヲ得レトモ、御國ハ、誠ニ唯一ノ神皇トシテ各白ヲ起ル
客觀的ノ存在トシテ能島シ、自己ノ第一原因、第一事實ニ基キ創設作爲ヲ
行フモノナリ、永遠ノ命ニヨリ誠アルニ誠ニハ内外ノ區別ナシ、天皇ト皇
族臣民トノ確實ナル分アル故皇國ヲ奉テ唯一ノ誠アルニ、天皇ハ天皇
ナリ給ニ、皇族臣民ハ皇族臣民ナルモ、誠ニ代々テハ相傳テ相入ノ關係ヲ
有ス

神皇ハ天照大神ノ御建長トシテ殊蒙ノ五百御尊統ノ統ニ御位禮子天神ヲ
御本尊トシ給フ

第一 天皇ハ弥蒙ヲ本復トシ給フ

殊蒙トハ誠タル故ニ愈々誠ヲシムル働キヲ云フ、天皇ノ本復ハ、人前ニ
仮定セル莫善美ナラス、自然ニ定マル莫善美ナリ、彼ラニ因定セル莫善美
ナラス、自然ト人前トヲ兼不且ツ之レヲ超越シソ、アルカ故ニアラハハ
莫善美ナリ、愈々進進シ益々奉進シソ、アル莫善美ナリ、殊蒙トハ愈々美
愈々善、愈々美ト云フコトナリ、神皇ハ弥蒙ヲ本復トシ給フ故皇國モ亦弥
蒙ノ因依ナリ、神ヲホラテハ心同体ナリ、皇國ノ神國ナルコト、神皇ノ誠
ヲ結衆ナリ

第二 天皇ハ万世一系ナリ

天皇ノ万世一系ナルコトハ先ツ天照大神ノ御本尊ニ在シマスコト
次ニ唯一系トシテ蒙ヘ給フ同時ニ群生ヲ傳スコト、終ニ此ノ一系ハ永成ト

シテ千代八千代変遷アルニモ拘ラス御世々々ヲ通シテ唯一ノ御生命、唯一ノ人格者タラマ給フコトノ義ナリ、

而シテ天皇ノ万世一系タラマ給フハ天照大神孫孫ノ当然ノ結果ナリ、

第三 天皇ハ天照大神御靈ノ御延長ナリ

従テ自主表現人、總攬表現人ヲ御本復トスル最高表現人ナリ、天皇ハ表現人ナリ、表現人トシテ皇族並ニ臣民ト表現対立關係ニ立ツ、
天皇ハ表現人ナリ

衆ニヨリ一切人ヲ包庇シ、一切人ノ創設カヲ受ハレテ一切ヲ美化シ御ノ地方ニテ強制者アラス、是當リ強制シ給フ場合ニ突ハミテ愛ニヨル美化ノ手段ナリ、天皇ハ天照大神ノ御延長ニシテ和魂ヲ主トシ、荒魂ヲ従トシ、和魂ノタメニミ荒魂ヲ用フ(和魂トハ万般万物ヲ真善美化スル事ナル大ナル心ノ愛ヲ云ヒ、荒魂トハ矛盾反對ヲ歡迎シ、之ヲ己ノ人

格ニ同化スル勇健心ナリ) 天皇ハ和魂ヲ体トシ、荒魂ヲ用ヒ給フ故統治者ヲ本復トスルニ必スシモ強制者、压制者トスルコトヲ本復トセス、

(2) 天皇ハ自主總攬者ニオ、シ最高表現人トシテ價値ノ起源ナリ

天皇ハ表現人ナル第一事實ニ根拠シ、絶エズ此ノ事實ヲ奉揚シ皇國人ノ一切ヲ總ヘテ日々己ヲ創設シ皇國ハヲ創設シ給ヒツ、アル皇國人トシテハ一人モ創設作用ニ異ラサルモノナケレトモ天皇ノ總攬ノ下ニ於テミ然リ特ルナリ、天皇及ヒ皇族臣民ノ命ニヨリ各々皆表現人ナルコトヲ得ルモノトシ、天皇ハ表現人トシテ自主者タルコトヲ性發トシ給フ、各個人ニ超越セル自主者タル天皇ノ御本復ハ生活ニ於ケル真善美ノ最高ノ尺度ナリ、天皇ノ誠、和魂ヲ主トシテ存存スルコトハ價値ノ起源ナリ、天皇ヲすめらみことト敬シ、天皇ノ御本復タル天照大神ノ靈ヲ御位禊子ノ神ト申スモ此故ナリ、

スメラミコトハ最高表現人ノ意ナリ、
(註) すめら(統べ) 最高

天皇ハシロシメス

天照大神ノ靈ハ普テ創設カナリ、本心ニアラス。大宇宙最高ノ皇座
 聖ノ表現ニシテ御一人ニ偶然ナル御カテラス。大神ノ靈ヲ以テ御本懐ト
 ナス天皇ノ御力ニ亦普通力ナリ。皇國大土全神體ノ一心ノ表現ナリ。小
 五ノ私心ナラス。天皇ノ正統則皇國ノ主カナリ。天皇ノ統治大权野皇國
 統治カナリ。或ニ天皇ハ皇族臣民ノ輔翼ヲ以テ統治ヲ行ハシ給フ人ナ
 リ。天皇ノ統治大权ハ天皇ノ私存スル物ニアラス。皇國ノ統治カハ以テ空
 莫ト多数ノ小成ノ集合國ニ屬スルモノニモアラス。天皇ノ統治大权ハ以テ空
 皇族ノ統治カハ亦亦未嘗ハスルモノナリ。本末不二ナルモノナリ。則
 テ表現者ハ關係ニ立ツ、要スルニ神皇ハ御神勅ノ信仰ニカハハ当然且
 ツ必然ニ存在シ、アトツテノムダ深工給フ、万世一系ノ自主表現人最高
 表現人ナリ、而シテ帝國憲法ハ天皇ノ御本懐ヲ轉授トシテ成立存存シ、

皇國ノ行政法ハ之ヲ基礎トシテ之ヲ行政行前ノ命令ニ執行シ実行セル
 モノニ外ナラス、

第五節 臣民

天皇ト永遠ニ其ノ分ヲ異ニシナカラ、恰モ其故ニ天皇統治ノ大权ノ下ニ
 於テ絶エス天皇ヲ輔翼スルヲ皇族及ニ臣民トス。臣民モ亦独立人タル存在
 フ有シナカラ之ヲ以テ皇國ノ表現人トシテ存在シツ、アリ、併シ独立人タ
 ルコト臣民ノ根本性ニアラス。皇國ノ表現人ナルコトカ本性ナリ、有限タ
 ルコトヲ以テ其ノ低普通被ナルコトカ根本ノ存在ナリ、表現人タル方面ヲ
 主トシテ臣民ノ本懐定マレ、

天皇ヲ輔翼シ奉リツ、アル臣民ヲ見レハ個人ハ見エスシテ先ツ國家ヲ見
 ルカ故ニ臣民トハ天皇ノ輔翼者タル永遠ノ命ヲ以テ表現人タルコトヲ根本
 性トスル独立單體人ナリト云ヒ得ヘク天皇ノ統治者タルニ對シ天皇ヲ輔翼
 スヘキ命ハ絶對且テ永遠ナリ、

1927. 9. 14.

第一款 表現人トシテ見タル臣民

四二二

表現人タルコトハ臣民ノ基礎的性質ナリ、表現人トシテ臣民ヲ見レハ天皇ノ永遠ノ輔翼ナリト云フコトヲ以テ足レリ、天皇ヲ輔翼シ奉ルニ付皆神ナカラノ一心同体ナル普遍性ノ實現者ナリ、臣民ハ一人トシテ皇國ノ大生命ヲ創設シツ、アラサルナク、一人トシテ國權、國法ノ創設ニ與ラサルモノナシ、而シテ輔翼トハ常ニ天皇ノ統治大權ノ命スルニ從ヒ行フモノナリ、輔翼ハ奉命ト不可分ナリ、自ラ統治ノ大權ヲ行使スル義ナラス、皇國ハ統治權ノ主体ニテ自主政並ニ最高主權ヲ有ス、之レヲ表現スルモノハ天皇ニシテ臣民ニアラス、天皇ハ自主表現人ニシテ且ツ總體表現人ナリ、天皇ハ統治大權ノ主体ニシテ統治大權即チ皇國ノ統治權ナリ、

(所謂天皇主体說ハ皇國ノ人格ヲ否定スルカ故ニ暴力主義專制主義トナリ天皇機關說ハ天皇ノ存在ヲ目的トセス、其自ラ目的タル意思ヲ認メサルカ故ニ天皇ハ団体ノ存在ノ手段ナリト云フコトニナル)

第一項 輔翼ノ觀念

輔翼トハ天皇ノ定メ給ヒシ各自ノ分ヲ以テ天皇ノ統治ヲ完フシ奉ルコトヲ云フ、天皇ノ御光ニヨリ榮揚シ得タル神ナカラノ存在ヲ以テ臣民タル分ヲ嚴守シナカラ天皇ノ御庭長トナルコトヲ云フ、更ニ換言スレハ神ナカラノ存在ノ全部ヲ奉ケテ天皇ノ御爪髪ヲ愈々榮ヘシムルコトナリ、サレハ輔翼ハ

- 第一、天皇ヲシテ天皇タラシメルコトヲ意味シ
 - 第二、ミコトトシテミコトヲ仰キ奉ルコトヲ意味シ
 - 第三、マコトヲ以テマコトヲ保障スルヲ意味ス
 - 第四、大御心ニサカウコトヲ旨トス、大御心ヲ貫徹シ奉ルヲ意味シ
 - 第五、直接又ハ間接ニ天皇ノ定メ給ヒシ世界美化ノ職分ヲ以テ天皇ノ御庭長トナルヲ意味ス(奉命ハ輔翼者ノ本質タルヲ示ス)
- 皇國人カ天皇ノ輔翼者タルコトハ神ナカラノ本質トシテ將ニ天皇ノ奉命

四五

ヲ持タス、天皇ノ命令ニヨリテ始メテ臣民力或ハ輔翼者トナリ或ハ自主者トナルニテラス、君臣ノ命ハ開闢以來嚴トシテ定マル、天皇ト云モ任意ニ変更スルノ自由ナシ、但シ輔翼ヲ実行セシムルタメノ权限ノ分配ハ終局トスル必ス天皇ノ定メ給フ限ナリ、臣民力最後ノ效力ヲ以テ自ラ自由ニ輔翼ノ性徳、範圍、方法、效力ヲ定ムルモノナラハ最早輔翼者ニアラスシテ自由者ナリ、故ニ輔翼ヲ奉命ナルコトニアラザルモ奉命ハ輔翼中ニ含まレ一要素ナリ、

臣民力輔翼者タルコトハ建國法ニヨリ定ムル立國精神ノ能対ノ要素ナリ臣民ノ輔翼ハ高天ヶ原ニ於テ臣民ノ祖先タル八百万ノ神カ一人モ漏レナク高祖天照大神ノ御本儀ヲ跡察ヘシメ給ヒシマコトノ總ヘサル實現ナリ、皇草原ニ於ケル臣民ノ祖先カ天孫降臨ノ準備ヲナシ、永遠ニ皇孫ノ御守護トナリ給ヒシマコトノ変ラザル實現ナリ、高祖天照大神ノ御神勅ヲ奉シ、皇孫ヲ輔翼シ、高天原ヨリ降り給フ臣民祖先ノ生活ノ開闢ナキ更新ナリ、神體ヲノ理想進行行事實ノ一貫セル繁栄ナリ、則テ天皇ノヨサシ(依ヤシ)給ヒシ職分ヲトホシツ、先ツ天皇ヲ天照大神ノ御延長タル現人神トナシ、

臣民自ラモ八百万ノ神ノ御末トナリ、愈々此ノ上下ニ通シテ不ニナルマコトヲ實現セシメントスルコトナリ、

第一 輔翼ト服従トノ差別

(1) 古語ニ「マツロフレ」ト云フハ輔翼ノ義ナリ

輔翼トハ清明心ノ要求ニ基キ天皇ノヨサシ給フ各自ノ命ヲ以テ表現人トシテ自動的ニ自ラ地位ニ立テ天皇ヲ主位ニ仰キ己ヲ捧ケテ天皇ノ御本儀ヲ奉揚シ奉ルニトヤリ、

然ルニ天皇ハ根本的ニ一切ノ皇族及ヒ臣民ヲ包養シ給フ御方救輔翼トハ又皇國人ヲ奉ケテ相奉ヒテ念ミ天皇ニ攝取セラレ、天皇ノ御延長トナリ奉ルコトヲ云フ、是ヲマツロフレト云ヒ、マツロフレコトカ皇國人ノ本儀ナリ、マツロフレトハ輔翼ノ義ニシテ服従ノ義ナラス(在来服従ナル漢語ニ誤訳マラレツ、アトシハアラス)服従トハ相對的ノ一方カ其ノ目的ノ

如何ヲ問ハス、其ノ本心ノ要求ニ出ツルト云トヲ論セス、外部ナル他方ノ優越セルカノマ、ニ動ク意ナリ、殊ニ威力ニ対スル服従トハ通例力足ラザルカ故ニ自己ノ意思ニ反シテ止ムナリ、強カニ屈スルコトヲ意味シ、善セ進ンテ相手ニ合一スルノ義ナラス、

マツロウトハ自己内部ノ清明心ノ要求ニ基キ身ミテ命ヲ奉シ、命ヲ奉スルコト、離レスシテ天皇ヲ天皇トナシ奉ルヲ目的トスルナリ、皇國人カ白奉的ニ大御心ヲ奉シ、大御心ヲ貫徹セシメ天皇ノ御本懐ヲ完成シ奉ルナリ、義務心ニ馳ラレテ備テ義ニアラスシテ又強カノタメニ止ムヲ得ス行動スレニモアラス、皇國人ハ皆天皇ニ己ヲ奉呈シ、天皇ノ御建長トナリ奉ル故ニ大御心其低カ臣民ヲ通シテ完全ニ實現セラル、コト頭首服従ノ關係ニ外ナラス、故ニマツロフトノ意義ハ当然奉命ノ義ヲ含ムニ強制ニ対スル服従ヲ意味セス、

(2) マツロフト又ハ輔翼ト云フ内ニハ奉命ヲ含ム

輔翼ハ奉命ヲ要素トスルニ奉命ト服従トハ似テ大イニ異ル、
奉命トハ、

「ミコトモチテ」トハ單純ニ消極的ニ受動的ニ弱者トシテ外部ノ強者ニ余威ナリヒラル、ニアラス、積極的ニ能動的ニ清明心ノ要求ニヨリ天皇ニ己ヲ奉ケ、マコトヲ以テ天皇ノ御本懐ヲ愈々深クシメ天皇ノ統治ヲ愈々完成シ奉ル順序結果トシテ天皇ニ歸ヘシ奉ル義ナリ、奉名ハミコトモチテヲ漢字ニ當テタルモノニシテ服従ノ義ニハアラス、天皇ヲ背負ヒ奉リ大御心ヲ貫徹シ奉ルコトナリ、終始輔翼ト雖レモ其ノ反面ヲナシ、輔翼者タル臣民ハ永遠ナル奉命者ナリ、輔翼ト雖レモ其ノ反面タル故奉名ナルコトナリ、

輔翼ハ奉命ヨリモ広ク奉命ハ輔翼ヨリ狭シ、輔翼及ヒ奉命ノ義ヲ忘レテ徒ニ服従ヲ解キ絶対無限ノ服従ヲ以テ臣民ノ建國法上ノ本懐トスルハ誤レリ、天皇ハソノ輔翼者タル臣民ノ命ヲ定メ人君者間ノ秩序ヲ立テ給ヒ、臣民ハ之レニ基キ輔翼ス(建國法上ニテ行ヒ給フニモ常ニ匡其阿諛ニ臣ノ輔翼ヲ以テス)

皇國ニ於ケル人格者タル愛敬トハ天皇ノ興廢ニ給フ所ナリ。而モ天皇一
皮因茲ニ於ケル人格者ヲ定メ其ノ威令ヲ定メ給フトキハ之ト共ニ存在スレ
臣民ハ常ニ天皇ノ輔翼者ナリ。輔翼ヲ内容トスル奉命者ナリ。臣民ハ輔翼
ヲ本復トシ之レニ付キテハ絶対ナリ。但シ此ノ故ニ直チニ以テ所謂絶対兼
限ノ服従者ナリトスヘカラス。

第二 輔翼ト服従トノ關係

建國法上天皇ハ常ニ自主者最高表現者ニオハシマシ。常ニ臣民ヲシテ輔
翼セシメ。臣民ハ天皇ノ永遠絶対ノ輔翼者ナリ。此ノ輔翼セシメ輔翼セン
トスル普キ要求ヲ実行スルニ當リ。一方ニハ憲法、法律命令等ヲ定メ國家
事務ノ分配及ヒ運行ノ方面ヲ定メ。社会ノ事實ヲ尊重シ。者明心ノ振興ヲ
自トスルト共ニ他方ニ於テハ臣民ノ参政ノ取扱等少クモ臣民服従ノ義務ヲ
認ム。此等ノ兩方面ハ相俟テ離レズ。政體ノ変遷モ變遷モ此等兩方面ノ変
遷亦達ニ外ナラス。

天皇カ权力ヲ以テ臣民ノ服従ヲ要求シ給フハ建國法上ノ輔翼ノ基礎ヲ完
フスル前ノ憲法以下ニ於テ認メ給フ所ナリ。第一段ノ輔翼ノ第一級以下ニ
於ケル建國ナリ。臣民ノマツロフ所以ヲ或ル事件ニ基キ實現スルタメ是當
リ手段ニ於テトル変則ナル手段ナリ。服従ナリ。而シテコノ變則ナル手段
ニ結局ハ臣民一般ノ輔翼ヲ前提トシテ行ヒツ、アルモノ政尚臣民輔翼ノ本
復ニ除外例ヲナスモノニアラス。其ノ尚メ臣民ハ事實上根本ヨリ其ノ意ニ
反シテ強制力ニ服従スルニ至ルモノニアラス。天皇ハ臣民ヲシテ輔翼セシ
メ。臣民カ天皇ヲ輔翼シ奉リツ、アル基礎ノ上ニ成立シツ、アル國法上ノ
義務ナリ。義務トシテ服従スルナリ。假テ臣民ノ本復絶対兼限ニ強カニ反
スヘキ弱者ト変スルコトナシ

天皇ハ永遠ニ絶対ニ其ノ主权ヲ行使シ臣民ハ永遠絶対ニソノ輔翼ヲ実行
スルニアタリ。國法上臣民ノ義務トシテ少クモ权力ニ對スル服従ヲ要求
ス。コノ服従ノ義務ハ絶対兼限ニアラサレトモ輔翼ニソノ服従ヲ有スルカ
故ニ绝对的、開始的性質ヲ有ス。服従ノ義務ハ奉命力其ノ最小限度ニ於テ
現ハレントスルモノアレハ結局的ナリ。臣民ハ國法ニ從ヒテ服従スルモノ

ニシテ唯政ナキ臣職ニ甘ンシ又ハ首級及服スルヘキモノニアラス、惟シ何
ノ場合ニ何レカ違國法ナルカ憲法タルカノ辭叙ハ歸スル也天皇ノ大御心
ニヨリ定マレモノニシテ何人モ次シテ天皇ニ勝ル能ハス、國法ハ天皇御一
切ノ獨斷任意ナル御意思ニアラスシテ一切ノ皇國人ヲ包攝シ、ソノ一切ノ
輔翼ヲ以テ天地ノ公道ヲ定メ給フモノアレトモ天皇ノ大御心ハ常ニ最高ノ
創設力ナリ、國法ハ皆天皇ノ大御心ニヨリ完成セラレソ、アリ、従テ國法
ニ準拠スルコトモ終局スル所天皇ニ服従スル所以ナリ、
服従ノ義務ハ以上ノ理由ニヨリテ又開始的ナリ、臣民ハ如何ナル職分ヲ
行ヒ天皇ヲ輔翼シ奉ルカニ付テハ常ニ直接間接ニ天皇ノ定メ給フ所ニシテ
天皇ノ大御心ヲ奉シテ天皇ヲ輔翼シ奉ルナリ、故ニ服従ノ義務ハ開始的ナ
リト云フ、終リニ臣民ノ服従義務ハ當然的ナリ、憲法及以下ノ法令ノ領域
ニ於テモ之等ノ人格者ソレ自身ノ輔翼奉命スヘキ本領ノ一端現ハレソ、ア
ルモノナリ、故ニ臣民カ其ノ個人的承諾ヲ條件トナシ其範圍内ニ於テノミ
天皇ニ服従スルモノニアラス、又或ル事項ヲ限定シ、或ハ領土内ニ居住ス
ト云フカ如キ偶然ナル事實ニ要セテレテ服従スルニアラス、其ノ活動事

項、其ノ理由、其ノ場所、其ノ時間等ニ條件セラレズ、ソノ何レタルヲ問
ハス、常ニ必ス服従スヘキ義務ヲ有スルナリ、
臣民ノ服従ノ義務ハ斯ノ如ク開始的、開始的且ツ本領ヨリ出テ來ル當然
ノモノナルモ次シテ絶対無限ナリト云フ能ハス、輔翼奉命ノテラハレタル
カ故ニ終局的、開始的、當然的ナリ、而シテ輔翼奉命ノ現レタルカ故ニ絶対
無限ニアラス、従ラナル旨に従服ト區別ナキモノタルニ至ルヲ許サス、臣
民カ其ノ表現人トシテ其ノマコトヲ以テ國法ニヨリ天皇ノ御延長トナリ奉
ル順序トシテ止ムヲ得ル場合ニ少クモ服従ノ義務トシテ奉命ノ最少限度
ヲ要求スルナリ、積極的奉命スル場合ニハ將ニ積極的ニ服従義務ヲ要求ス
ルノ必要ナキナリ、服従ノ義務ハ又上下ノ秩序ヲ維持スル最少限度ノ價值
ヲ有スルニ過キサレトモ輔翼ニ至リテハ秩序トアラエルマコトノ要求トヲ
網羅シテ之ヲ實現スルモノナリ、

第二項 輔翼ノ種類

第一目 総説

臣民ハ悉ク天皇ノ永遠ノ輔翼者ナリ、建國法ニヨリ天地ノ公道ヲ踏ミ、
智識ヲ世界ニ求メ清明心ヲ以テみことトシテオホウみことヲ仰キ念ミソノ
本復ヲ崇ヘシメ奉ルヘキコトハ臣民ノ本懐ニシテ一人トシテ然ラザルモノ
ナシ、一人ニ漏ナク同シ神隨ヲノ存在ヲ以テ唯一ノ天皇ノ御定長トナリ奉
ル所ニ完全ナル輔翼ヲ認メ得ヘク少数ノ臣民ノミカ其ノ餘ヲ排テ行フ
輔翼ハ実ハ輔翼ト云フヘカラスシテ偶然ナル少数者ノ私怨ナリ、輔翼ハ各
人ノナスヘキ所ナレト又次シテ排外的ノモノニアラザルノミナラス、国ヲ
舉ケテ之レヲ行ハサレハ成立セズ、一人々々ノ各別ニ行ヒ得ル処ニシテ而
又相互ニ分ツヘカラザルモノナリ、

輔翼トハ只服従スルノ義ニアラス、誠ヲ以テ天皇ノ御本復ヲ念ミ崇ヘシ
メ奉ルコトナリ、誠ヲ以テ此ノ目的ニ向ヒ、追進スルニハ必ラス凡テノ皇
國人ト手ヲ引キ手ヲ引カレテ行ハレサルヘカラス、みことトシテ誠ヲ行フ
ニハ秩序ヲ前提トシ相互ニ擁ヒテナスコトヲ要求ス、又一人ノミニ附屬ス

ルモノ只一人ノミニヨリ行ハル、又ノハ誠ニアラス、此ノ故ニ各人ハ輔翼
ニツキ必ラスソノ特殊ノ分担ヲ有ス、一人トシテ全然他人ト同一ノ分担ヲ
有スルモノナシ、其ノ特殊ノ一心同体ヲ徹進リテ輔翼スル場合ニ於テモ其
ノ範圍内ニ於テハ尚各々異リタル分担ヲ有ス、斯ル分担ハ天皇ノ大御心
ニヨリテ定ムル所ナレトモ其ノ分担ヲ有スヘキコトハ輔翼ソノモノノ性質
ニ附屬スル所ナリ、茲ニ於テカ輔翼スルニ付キ各人ノ尚スヘキ所ハ次シテ
一様ナルヲ得ス、輔翼ノミナラス、輔翼者ヲモ分類シ得ル所以ハ實ニ茲ニ
存ス、

第二目 輔翼ハ分担ノ形式及ヒ之ニ基テ
輔翼者ノ分類

輔翼ハソノ本復上全国民カ一人モ漏ル、コトナク行フニヨリテ始メテ完
キヲ得ルモノナルカ其ノ実行ニ当リテハ第一級以下ニ於テ種々ノ形ヲ生セ
シム、單独ノ輔翼アリ、共同ノ輔翼アリ、之レ等ノ政式ハ天皇カ臣民ヲシ

テ輔翼セシムルニ必要ナルト給フ所ニヨリ定メル手段ニシテ又臣民カ
輔翼スルニ当リ必要トスル手段ナリ、臣民ハ或ハ夫々单独ニテ天皇ヲ輔翼
シ奉リ、或ハ多數人カ必ラス一身トナリテ輔翼シ奉リ、或ハ各々单独ニ行
動シテカラ相共ニ連帯シテ輔翼シ奉ル臣民カ表現人タルコトヲ其ノ限
存存トスルコトハ動力サレトモ如何ナル表現人カ必ラス如何ナル限
ヲ依拠シ給フカニ恣シテ表現者タル方面ニ於テ聯合集散ス、或ハ各各別
表現人ナリ、或ハ多數表現人ノ為ス一心同体ナリ、故ニ輔翼表現人ハ之ヲ
分類シテ表現單純人及ヒ表現団体トナスコトヲ要ス。

第一 表現單純人

臣民カ各々其ノ表現ノ制限ヲ異ニシ单独ニ一箇ノ表現人トナリ、輔翼ス
ル場合ニハ莫ノ輔翼表現人ハ表現單純人ナリ、凡ソ表現單純人ト云フハ單
独ナル独立人ニヨリ構成セラレツ、アルモノヲ云ヒ、万世一系唯一ノ天皇
ヲラマシ給フ、代々ノ天皇モ亦自主表現單純人ニ在リシ、皇族モ亦各々輔翼

表現單純人トシテ存在セラル、表現單純人ナルコトハ手段ト云フコトニア
ラザルコトハ論ナク、其ノ中ニハ絶対ノ目的タルモノモアルヘク又手段ノ
性復ヲ有スルモノモアルヘク何レニモ表現單純人ハ之ヲ構成スル独立
人ノ交還ト共ニ交還スルモノニテ之レニ超越スル存在ナラス、自主者ト輔
翼者トノ永遠ノ分ヲ前提シテ皇国人ハ一人ノ例外ナク皆表現單純人ナリ、
而シテ之レヲ可能ナラシムル中心ハ自主表現人ノ存在ナリ。

第二 表現団体人

臣民カ天皇ヲ輔翼シ奉ルニ付テハ各々其分担ヲ異ニスルニ尚本或ル事項
ニ付テハ相互ニ一心同体トシテ行動スルニヨリテノミ可能ナルコトアリ、
此ノ場合ニハ或ハ各自表現心ハ当然一ノ心トナリ、或ハ便宜上依リニ一心
トナリテ行動ス、従テ其ノ事項ニ付テハ忠ツ多數ノ單純ノ表現心ヲ見ツシ
テ唯一ノ団体心ヲ見、此ノ団体的表現心ノ主体ハ則チ表現団体人ナリ、
表現団体人ヲ個別々ハ表現普遍人及ヒ表現集合人トナル、但シ此ノ區別

ハ独立団体人ノ場合ニ於ケル如ク明瞭ナラス。

五八

(1) 表現普通人

皇国人カ或ル事項ニ付キ天皇ヲ輔翼シ奉ルニ当リテハ必ラス本末ノ一心
同体トシテ行動スルコトヲ要シ、本末ノ一心同体ト雖レスシテ其ノ構成者
タル各自モ亦將衆ノ表現軍總人ナリ得ル場合ニソノ本末ノ一心同体タル表
現人ヲ輔翼表現普通人ト云フ、例ハ帝國議會、貴族院、衆議院、裁判所
其他行政諸官庁等之レナリ、表現普通人ハ必ラス多數ノ表現軍總人又ハ表
現団体人ニヨリテ構成セラル、是レニヨリ表現セラル、而モ構成者タル表
現者ノミ主ニモアラス、構成セラル、表現普通人ノミカ主ニモアラス、而
者ノ相俟ツ所ニ皆各ニ主タルコトヲ失ハス、而シテ斯ノ如キ表現普通人ニ
モ亦二種アリ、

(1) 單独性表現普通人

時間ヲ同シクシテハ又一人ノ表現軍總人アルノミナルカ前後相継続シテ

本末ノ一心同体タル輔翼表現人ヲ單独性表現普通人ト云フ、例ハ各省大
臣、三ノト離レサル國務大臣、府縣知事、郡長等ハ此ノ種ノ輔翼表現普通
人ナリ、

天皇ハ手假ヌレ存在ニオハシマサス、且ツ輔翼ヲ命シサセ給フ自主表現
入ヲラセ給フトモ万世一系唯ハノ天皇トシテ時ヲ同シクシテハ必ス單独ニ
オハス、故ニ單独性ノ自主表現普通人ナリ、單独性ノ輔翼表現普通人ハ單
竟天皇ノ御光ニ輝ラサレ天皇ノ此ノ種ノ御存在ヲ反對シツ、アルモノナリ、
但シ天皇ハ手假ヲ超越シ、天地ノムダトコトハニ價值ノ淵源タル人格者タ
ラセ給フモ輔翼表現普通人ニアリテハ天皇ノ創設シ給フ人格者ニシテ法理
上決シテ永遠ナルモノニアラス、憲法及ヒ法律命令ノ改廢ト共ニ成立ス。

(10) 合議性ノ表現普通人

時間ヲ同シクシテ又異ニシテモ常ニ二人以上ノ表現人アリテ本末ノ一心
同体ヲナシツ、アルトキハ之レヲ合議性表現普通人ト云フ、例ハ帝國議
會、貴族院、衆議院、樞密院、會計検査院、中央衛生會、古社寺保存會等

五七

ノ類ナリ、

枢密院ハ表現集合人中ニ入ル、ヤモ知レス、疑問ナリ、

五八

(2) 表現集合人

多数ノ表現單純人カソノ权限ニ付キ天皇ヲ輔翼シ奉ル手続トシテ依リニ
一心同体ヲ形成セシムルトキハ一心ノ主体ハ表現集合人ナリ、例ハ内閣
大臣ハ多数人ナリ、此等ノモノ數モヨリ輔翼ノ任務ヲ尽スルメ官制ヲ以テ
内閣ト云フ一心ノ主体ヲ形成スヘキコトヲ規定ス、内閣カ主ニアラシテ
國務大臣タルコトカ主ナリ、

第三 表現人ノ集合

表現單純人又ハ表現団体人ハ各々其ノ权限ニヨリ天皇ヲ輔翼シ奉ルタメ
ニ集合シテ相互ノ連絡ヲ保テ、上級表現人カ其ノ下級表現人ヲ指揮監督ス
ルヲ便トナシ、又下級表現人カ其ノ上級者ヲ補助シ、之レニ代理スル等ヲ

便トスルコトアレハシ、俾シ之等ノ集合ハ直チニ之レヲ表現集合人又ハ表
現普通人ト認ムルヲ得ス、表現人ノ集合ト表現団体人トハ嚴ニ區別セサル
ヘカラス、表現人ノ集合ニハ常置ノモノニ各省、各府縣庁、神宮司庁、税
關、財務省等下リ、其ノ一時的、臨時ノモノニハ地方長官會議等ナリ、此
等ハ皆單ニ表現人ノ集合タルニ止マル、

第三目 輔翼事項及之ニ基テ輔翼者ノ分類

輔翼者カ天皇ヲシテ愈々天皇タラシメ奉ルタメニ天皇ノ依サシ給フ分担ヲ
主トシツ、各々スメラミコトヲ仰キ奉ルコトヲ一線ニスレトモソノ分担ノ
差異アルト共ニマコト實現ノ順序並ニ奉命ノ方法等ヲ同シクセス、如何ニ
セハ天皇ノ御本願ヲ完全ニセシメ奉ルヘキカ、如何ニシテ大御心ヲ貫徹シ奉
ルヘキカハ各臣民ノ職分則テ奉仕スル立場ニヨリテ態度ヲ一線ニセサルヘ
シ、茲ニ於テカ表現人ノ種類モ亦之レヲ分タル、コトヲ得、

五九

第一 自治表現人

皇国人ハ皆各自ノ人格ノ全体ヲ天皇ニ捧ケ天皇ノ御延長トナリ、大御心ヲ翼成シ奉ルコトヲ生活ノ根本義トセサルモノナシ、此ハソレカ尙メニ皇国人自ラ「ウジ」トナルノ意ニアラス、自己ヲ失フノ意ニアラス、愈々自己ヲ克成シツ、茲ニ此レヲ天皇ニ奉呈スルコトナリ、各自ノ存在独立ヲ確實ニシ、之レヲ眞善美化シツ、全部ヲ奉ケテ之レヲ轉シテ大御心ヲ翼成シ天皇ノ御養ヲ輔翼シ皇國ヲ表現スルナリ、

茲ニ於テカ己ヲ奉呈シテ天皇ノ御延長トナリ、皇國ヲ表現シツ、アル基礎ノ上ニハ自己ノ自由独立ヲ尊重シ、自己ノ内部ノ要求ニヨリ自己ノ目的ヲ定メ自己ノ力ニヨリ之レヲ實現セントスル行動力皆即チ天皇輔翼ノ行動ナリ、皇國ノ進進ソレ自身ナリ、各自力独立人トシテ特色ヲ主張スルコトカ即チソノマ、表現人トシテ行動スルコトナリ、例ヘハ農業者カ農業ニ従フコトカ、天皇ヲ輔翼シ、皇國ノ繁栄ヲ表現スル所以ナリ、
医業、工業、商

業ニ従フモノ皆然リ、老若男女、貴賤都鄙ヲ問ハス、一人トシテ此ノ種ノ表現人トラサルハナシ、之ヲ自治表現人ト云フ、

皇国人ハ一人トシテ自己ノ独立ヲ主張シ、ソノ心証ニヨリ自己ノ特性ヲ發揮スルコトヲ表現人トシテ权限トセサルモノナシ、官吏、議員等ニヨリ構成セラル、少数ノ表現人ノミ皇國ノ輔翼表現人タルニアラス、一切ノ皇国人ハ自治者トシテ天皇ノ輔翼者タルニヨリ悉ク皇國ノ表現人ナリ、皇国人ハ皆表現人ナリ、みことナリト云フハ皆少クモ自治表現人タルモノナシト云フ意味ニ於テ正確ナリ、之レ証云ヘキ各人ノ行動ハ其ノ如何ナルモノタルヲ問ハス、皆天皇輔翼ノ行動タルヘキ性質ヲ有セサルヘカラス、天皇ヲ輔翼シ、天皇ヲ通シテ皇國各級ノ生活々動ヲ實現セシメツ、アルモノナリ、自治表現人ノ行動ハ皆皇國ノ繁栄ヲ表現セサルモノナシ、皇国人ノ行動ヲ實業、農林等ナリト云フハ其ノ人ヲ天皇ニ奉仕スル表現人ト見テ云フナリ、其輔翼行動ナリト云フハ其ノ人ヲ天皇ニ奉仕スル表現人ト見テ云フナリ、其ノ行動カ國家ノ進進ソレ自身ナリ、國家ノ繁栄タリト云フハ國家ト表現人ノ一ノ關係ニ立ツ表現人ノ行動ト見ルタメナリ、國家自ラ進進シ愈々繁栄ス

ル作用ヲ國家ノ自來作用ト云フ、然シ自來作用ハ他ノ人格者ニ對スル法律
行爲ニアラス、

天皇ハ何人ニモ先々其ノ獨立人トシテノ存在、其ノ特異ノ祭場、ソノ
獨立ノ行爲ヲ以テ皇國ノ自來作用ヲ表現シ給ヒ、且ツ其ノ統治大政ヲ行儀
スル所以トシ給フ、故ニ天皇ノ一舉一動ハ皆表現行爲ニ外ナラス、臣民カ
自治表現人タル方面ヲ有シ、其ノ行動カ悉ク表現行爲ナリ得ルハ天皇ノ此
ノ御性復ノ反射ナリ、臣民ノ睡眠、飲食其他ノ情慾ノ満足等ノ事實上ノ自
立行動ニ至ル迄天皇ノマミツロフスメラミコトノミコトモチテ、スル自己
内外ノ保証及根拠ヲ有スル以上、國家自來作用ノ表現タルヲ失ハス、

自治表現人ニモ表現單純人アリ、表現団体人アリ、臣民ハ悉ク自治表現
單純人ナリ、臣民ト云ハハ獨立人ヲ意味スルノミナラス、必ス此ノ種ノ表
現人タルコトヲ意味ス、此等ノ自治表現單純人カニ人以上相集リ成立セシ
メツ、アル特種ノ自治表現人カ自治表現団体人ニテ例ヘハ地方自治団体、
公共組合、株式會社等ハ一面獨立人ナルモノノ根本ヲ見レハ自治表現団体
人ナリ、自治団体、株式會社等ハ獨立人トシテモ臣民ナリトハ云ハサレト

モ表現人タル方面ニ於テモ臣民ニアラス、職權者ナリ、輔翼表現人タレ
トモ臣民ト云フヘカラス、當ニ共ニ多數ノ臣民ニヨリ成立シツ、アレ団体
人格者ナリ、

第二 治他表現人

自治表現人ハ其ノ構成者タル獨立人ノ特異ヲ發揮シ獨立行爲スルヲ权限
トスルモ治他表現人ハ自治表現人トシテ發揮セル全部ヲ奉テテ天皇ヲ輔翼
シ奉リ自己獨立ノ存在ヲ觀ミルコトナキヲ性質トシ、治他表現人ハ天皇ノ
依リシ給フ範圍程度ニ於テ自己ノ獨立ヲニノ次トナシ、他人ノ表現人タル
所以ヲ祭場トシメ他人ノ獨立自由ヲ保証シツ、之ヲ以テ天皇ヲ輔翼シ奉ル
所以トナスモノナリ、治他表現人ハ其ノ輔翼ノ权限ヲ異ニスルニ從ヒテテ
色々ニ類別スルヲ得、

(1) 天皇ヲ二目ニ説ケルカ如ク輔翼ノ形式上ノ差異ニ基キ則表現人ノ構成
ノ單複ヲ標準トシテ治他表現人ヲ分テ、治他表現單純人ト治他表現団体

人トナスコトヲ得、国法上官吏ト云ヒ議員ト云フモノハ概シテ自他表現準
他人ヲ意味シ、本義ニ於テ官庁(官庁)議會等ト称スルモノハ自他表現
団体人ナリ、

(2) 議員ノ代表ヲ標準トシテ治他表現人ヲ分テ、行政表現人ト内政表現人
トス、

治他表現人ハ何レモ天皇ノ大御心ヲ養成シ奉レモノナレトモ其ノ中ニ
於テ天皇ノ大御心ノ下ニ其ノ輔翼表現行高其ノ俟ヲ以テ皇國ノ独立行高
ヲ完全ニ表現シ得ル限ヲ有スルハ行政表現人ナリ、
行政表現人ハ各々外部ニ對シテ完全ニ國家ノ作用ヲ表現シ得ルト共ニ
相互ノ間ニ於テハ嚴密ニ上下級ノ區別アリ、行政表現人ト異ナリ軍ニ
天皇ノ大御心ノ下ニ表現人相互ノ間ニ於テノミ有テハ行政高ヲナシ得ル
ニ止マリ其ノ表現行高力其ノ俟立テニ因テ完全ニ獨立行高ヲ表現ス
ル限ナキモノナリ、例ハ行政裁判所、各省大臣、府縣知事、郡長等
ハ行政表現人ナリ、之レヲ官庁ト云フ、又議員者タル國務大臣
憲政者タル憲法院、中興衛生會、古社寺保存會等及ヒ協賛者タル帝國議

會ノ如キハ皆内政表現人ニ屬ス、

内政ノ方法ハ必ラスシモ一限ナラザレモ其ノ表現行高力表現行
立關係ノ上ニ效力ヲ有スルニ止マリ、其ノ俟完全ニ國家ノ獨立行高ヲ表
現シ得ヌヲ等シクス

(3) 輔翼ノ實績ヲ標準トシテ治他表現人ヲ分テトセハ天皇ハ臣民ノ輔翼
ヲ以テ表現シ給フ國家ノ活動ノ分類ト云ニ相關連スルヲ見ル國家活動ノ
分類ハ國家ノ目的ニヨリ定マリ其ノ結果輔翼ノ方法ノ違ヲ要求スルモ輔
翼ニ應々異アルコトヲ必妥トスル結果又國家活動ノ區別ヲ生セシムル
ニ至ルモノトス、今次ニ輔翼ニハ種々ノ方法アルヲ例示ス、

(4) 輔翼ニハ先ツ天皇ノ表現人タル御存在ノミナラス、獨立人タル御存
在ヲモ尊重シ、獨立人トシテノ御行動ヲ實績シメ奉ルコトヲ以テ天皇
ノ表現人タル御存在ヲ完成セシメ、表現行高ヲ可致ナラシメ奉ルヲ要
ス、此ノ立場ヨリ大御心ヲ奉戴シ御大トナク大御心其ノ俟ヲ實現シ奉
ラントスルヲ要ス、天皇ノ輔翼ハ天皇ノ獨立人タル御存在ニ同階シ奉
ルヨリ始マル、之レ即チ表現人タル神皇ノ御徳ヲ盛ニシ奉ル所以ナリ、

臣民輔翼ノ此ノ方面ヲ主トシテ分担スルハ宮内官ナリ。

(四) 輔翼ニハ天皇ノ大御心ノ中ニ於テマコトヲ見、大御心ヲ通シテマコトヲ見、且ツ大御心ヲ成シ奉ランタメニマコトヲ見ル所ニ切ナル方面アリ、斯ル場合ニハ客観論トシテ正否ヲ主トセス、寧ロ天皇ノ思召ヲ標準トシテ理ト非理トヲ判別ス、天地ノ公道ヲ無視セス、天地ノ公道ヲ見シタメ、更ニ天皇ノ思召ニヨルモノナリ、サレハ天皇ノ主観的御存在ニツキ天皇ノ御延長トナリ奉リ客観的存在ヲ判断スルモノト云フヘク、此ノ場合ニハ表現人タル神皇ト独立人タル人皇トヲ區別シテ輔翼シ奉ルハキ餘地多カラズ、天皇ノ思召ハ常ニ人皇ノ思召ナリトノ心得ハ誤リナシ、之レ同時ニ天皇モ亦此ノ理ノ輔翼者ニ対シテハ差当リノ生活ニ於テモ殆ント一切ノ独立生活ヲ奉ケテ天皇ノ御延長トナルヘキコトヲ要求シ給フ、軍事表現人又ハ其ノ構成者ハ時ニ輔翼ノ此ノ理ノ方面ヲ分担スルモノナリ。

(ハ) 輔翼ニハ又客観的精神ヲ以テ天皇ノ客観的方面ノ御延長トナルコトヲ要スル方面アリ、根柢ニ於テハ天皇ノミコトモテテ行動スル故其人

清明心ヲ以テ愈々客観的精神ヲ以テ學術技術ヲ研究練習シ自己ノ経験及ヒ心証ヲ明ニシテ大御心トマコトヲ愈々暴露シ奉ルヲ必要トス、大御心ヲ軽スルニアラス、大御心ノ中ニマコトヲ見奉リ益々之レヲ崇ヘシメ奉ルタメニ却ツテ嚴格ニ客観的精神ヲ養ヒ之ヲ以テ天皇ノ御延長トナリ奉ルナリ、學者ハソノ主ナルモノニシテ技術官ノ如キモ亦之レニ屬ス、

(ニ) 輔翼トハ又内ニテリテ大御心ヲ輔翼シ奉リ外ニ對シテハ大御心ヲ奉行シ且ツ時ニ輔翼ノ責ニ任スルモノアルヲ要求ス、則一方ニ於テハ各省大臣トシテ奉行ヲ司リ他方ニハ輔翼ヲ制限トセル國務大臣ハ輔翼ノ此ノ理ノ方面ヲ職介トスルモノナリ、國務大臣ハ憲法上ノ輔翼表現人ナリ、

(ホ) 輔翼ニハ單ニ天皇ノ諮詢ヲ俟ワテ輔翼者ノ心証ニヨリ受取ノ者合同審議シ、自由ニ可否得失ヲ判断シテ意見ヲ奉リ、天皇ノ御決意ヲ奉考ニ依シ奉ルモノ念マサルヘカラス、故ニ天皇ハ帝國憲法ニヨリ極盛院顧問ヲシテ極盛院官制ノ定ムル所ニヨリ天皇ノ諮詢ニ應ヘ、重要ノ國務

ヲ庶幾セシメ且ツ皇室典範ニヨリテ之等ノ者ヲシテ一定ノ諮詢事項ヲ
審議セシム、然るに憲法上ノ審議表現人ナリ、

(ハ) 輔翼ニハス者用心ノ要訣ニヨリ侃々訶々ノ説ヲナシ、討議態度スル
ノミナラス、認定法ノ效力ヲ可忝ヲ決スルコトヲ含マサルハカラス
素ヨリ神皇ノ大御心ヲ翼成シ奉ラントスルハ骨子ニシテ従テニ否定ス
ルカ主義ニアラサルニ有明心ノ命スル如ク自由ニ或ハ協賛シ或ハ否定
スルナリ、又又客觀的ノ精神ヲ以テ理論ヲ研究スル意味ニテ可忝スル
ニアラス、相携ヘテ天皇ヲ輔翼シ、実行セシムルニ自由ニ議決スル
ナリ、例ハハ帝國議會及ヒソノ構成者タル貴族院及ヒ衆議院ヲ法權
ヲ長クシ、討議態度シ、豫算案ヲ議定スルカ如キハ此ノ種ノ輔翼ヲス
ルナリ、帝國議會ハ協賛表現人ナリ、

(イ) 輔翼ニハ何人モ具備シ得ヘキヲ性質トスル條件スハ貴族ヲ具フルト
キハ國法ノ命スル處ニ從ヒ各自ノ自由心証ヲ以テ或ハ意見ヲ開陳シ、
或ハ可否ノ投票ヲ行ヒ、或ハ國家ノ表現人タルヘキ人ヲ選定シ、或ハ
國家ノ活動ヲ開始セムコトヲ含ム、斯ノ如キ輔翼ヲ行フモハハ皇室

ノ治他表現人ナリ、現行ノ制度ニテハ衆議院議員選擧人ノ如キハ明カ
ニ衆議院議員ノ選擧ヲ制限トセル治他表現人ナリ、諸縣ヲナシ、新設
ヲ提起スルカ如キハ尚ホ治他表現人トシテ有スル制限ト認ムヘシ、

(ウ) 輔翼ニハ又法律ニヨリテ皇國ノ認定法ヲ解脫適用シ、之ニ執行力ヲ
附與スルコトヲ司リ、但々ノ解脫適用ニ付テハ上級表現人ノ指揮ヲ受
ケサルノミナラス、大御心ノ如何サヘモ問ハス全無自己ノ自由心証ニ
ヨリ解脫適用ヲナスコトヲ必要トス、例ハハ裁判所ニヨリ司法權ノ狀
立カ表現セラレツ、アル如シ、裁判所ヲ構成スル裁判官ハ天皇ノ依サ
シ給フニヨリ存在シ且ツ徒ラニ自巳ノ心証ノミニヨリ裁判スルヲ得ス、
必ラス國法トシテ定メ給ヒシ天皇ノ大御心ヲ解脫適用スヘキモノナレ
トモ之レヲ行フニ當リテハ不羈放立ナリ、裁判所ノ判決ハ其ノ依外部
ニ對シ國家ノ判決タル故ニ裁判所ハ憲法上行使表現人ニ屬ス、
(ロ) 輔翼ニハ又天皇ノ指揮監督ノ下ニ於テノミナラス、上級輔翼表現人
ノ指導監督ヲ受ケナカラ、憲法、法律命令ノ範圍内ニ於テ自由心証ヲ
以テ國家ノ行政事務ヲ行フ方面アリ、此ノ種ノ制限ヲ有スルヲ行政表

現人トス、行政表現人中勅令ヲ以テ自由ニ改廢シ得、キハ裁裁ノ行政表現人トス、裁裁ノ行政表現人ニ屬セサル行政表現人ハ会計検査院、行政裁判所ナリ。

第三目 結論

要スルニ皇国人ハ一人ニ滿テ一人ノ輔翼者タルコト、裁裁スシテ自治表現人ナリ、而シテ其ノ自治表現人タル基礎ヲ裁裁シテ又自治表現人ナリ、皇国人カ輔翼者ト共ニ表現人タルヘキコトハ時々ノ大御心ニヨリ裁裁メテ定マルニアラス、是國法上当然ノ要求ナリ、神髓ヲノ本質ナリ、但シ自治表現人タルニ止マルヘキカ、或ハ天ニ違ミテ治地表現人タルノ存在ヲナスヘキカ、自他表現人トシテハ如何ナル制限ヲ有スヘキカハ完ク天皇ノ依サシ給フ所ニカ、如何ナル意味ニ於テモ天皇ト臣民トノ契約ニヨルラ性儀トセス、

以上ノ如クナレハ臣八國ノ本ナリト云フ外國僑民ノ恩惠ハ尚ホ意味ナレ

ヲ免レス、民本主義ナル言葉ヲ以テ皇國ノ根本ヲ云ヒ現ハヤントスルハ却テ皇國人ヲ輕蔑スルモノナリ、皇國民ハ天皇ノ輔翼者トシテ天皇ノ御近長タルヲ本質トナシ、斯ル存在トシテハ皆則チ皇國ノ表現人ナリ、皇國ソレ身ナリ、天皇ハ即チ皇國ニ在シマシ、臣民ハ天皇ノ御近長ナリ、故ニ天皇則チ皇國タラシ給フコトハ臣民モ亦皇國タラシ所以ナリ、天皇ヲ裁クト否トヲ問ハス、各個人即チ皇國ナリト云フニアラサレトモ分テ以テ天皇ニマツロヒ奉ル臣民ハ悉ク皆皇國ソレ自身ニ外ナラス、皇國民ハ皇國ニ都合ヨロシキモノナリト云フコトニモアラス、國政ハ人民ノタメニスヘキモノナリト云フコトニモアラス、又治メラル、臣民ナケレハ皇國ハ成立セスト云フニアラス、皇國民民ハ其分ヲ以テ則チ皇國大レ自身ナリ、大生命夫レ自身ナリ、ミコトナリ、神民ナリト云フコトナリ、大御田^{オホミタ}族^{ウヂ}ナリ、公民ナリ、天皇^{ミコ}人タル皇國人ハ独立人トシテ依リニ皇國ト相對應スルヲ得ルモ根本ニ於テハ皇國夫レ自身タルコト立國ノ精神ナリ、

第三項 永遠ノ分及ヒ根本性

臣民ハ天皇ヲ輔翼シ奉ルコトニ付キ表現人タルコトヲ永遠ノ分トシ、三
レヲ根本性トスルモノナリ、今之レヲ三條ニ分テテ説ス、

第二、天皇ヲ輔翼シ奉ルコトニ付キテノミ表現人タルモノ臣民ナリ

臣民ハ皆皇國ノ表現人ナリ、神ノミスヘナリ、ミコトナリ、ミコト、シ
テ唯一スニノ皇國ニ歸ス、而モ斯ノ如キコトハ自主表現人タル万世一系ノ
天皇ヲ仰キ其ノ依サシ給フ权限ニツキ輔翼シ奉ルコト、雖レス、臣民カ其ノ
分ヲ重ンシツ、天皇ヲ奉戴シ、天皇ノ御延長トナリ奉リツ、アルコト其ノ
依カ其ノ权限ニ付キ皇國ノ表現人タルコトナリ、臣民即チ皇國タルコトナ
リ、天皇ヲ仰クコト、天皇ヲ輔翼シ奉ルコトヲ前提トセヌシテ表現人タル
ニアラス、

第二、臣民ハ皇國ノ輔翼表現人タルコトヲ根本性トス、

天皇ノ輔翼者トシテ表現人タルコトヲ根本性トスルト否トカ皇國人ト外
國人トヲ區別セシムル要點ナリ、外國臣民モ亦或ハ領土内ニ居住スル等ノ
故ヲ以テ國際法ニ準拠シ日本臣民ト同様ニ取扱ハルノ事項ニ付テハ皇國ノ
表現人ニ準セラレ、コトアリ、而モ外人ハ表現人タルコトヲ根本性トナ
スモノニアラサルカ故ニ憲國法上ハ固ヨリ憲法上ニ於テスラ外國ニ付シテ
其ノ表現人タルコトノ保障ヲ設ケルコトナシ

第三、臣民ハ輔翼者タルコトヲ永遠ノ分トス

輔翼表現人タルヘキコトハ皇國臣民ノ永遠ナル分際ナリ、此ノ皇カ皇族
ト臣民トヲ區別セシムヘキ要點ナリ、皇族ハ皇皇ノ一員トシテモ皇國ノ一
員トシテモ常ニ天皇ヲ輔翼シ給フニヨリ表現人タルコトヲ根本性トナセト
モ一旦特定ノ事實發生スル時ハ當然皇位ニ就キ給フ御資格アリ、然ルニ臣
民如何ナル意欲ニテモ如何ナル場合ニモ如何ナル手段ヲ採ルモ永シテ皇位
ニ上ルヲ得ス

抑モ皇國內ノ分ハ天祖ノ靈位ニ就キ得ルモノト其永遠ノ補翼者トシテ
序ヨリ重キハナシ、此ヲ實ニスルニ付キ此ト相俟ツテ第一ニ現ニ天祖ノ靈
位ニイマシ御位種子之神ヲ本質トシ給フ統治者ト、第二ニ斯ル靈位ニ就ク
資格ヲ具備シ給フ皇族トク嚴別スルヲ要スヘシ、

現ニ天皇ハ天祖ノ靈位ニアリテ天祖ノ御延長ナリ、皇族ハ補翼者トシテ
統治大権ノ下ニアリテ天皇ノ依サシ給フマニマニ或ハ皇族ト共ニ或ハ臣民
ト共ニ諸般ノ輔翼表現人ヲ構成ス、而モ皇族ハ建國法ノ豫見スル事實ノ發
生ト共ニ當然自ラ皇位ニ就キ給フ、之ト趣ヲ異ニシ、臣民ハ永遠ニ皇位
ニ上ルヲ得入、之レヲ神隨ノ分トシテ開闢以來定マリ勤カサル也ナリ

皇皇典範ノ如キハ時々ノ要求ニ應シ神隨ヲノ違ヲ敷衍セルニ過キス、典
範ニハ皇族中ニ付キ皇位繼承ノ資格ニ範圍ヲ設ケス、臣民ヨリ立テタル皇
后及妃ヲ皇族ニ列ス、此ノ規定ニヨリ本来ノ皇族ニオハシナカラ皇位ヲ繼
承シ得サルコトアルモ臣民ヨリ立テタル皇妃カ天皇タルコトハナシ、而シテ
典範ヲ改正スルトニハ皇位繼承ノ範圍ハ更ニ擴張シ得ラレサルコトナキニ
アラステ此ノ場合ニモ決シテ臣民ハ繼承者トリ得ス、カレハ天皇ニアラ

サレハ臣民、臣民ニアラザレハ天皇ナルコトヲ前提トシテ皇族ハ天皇ニア
ラナル故臣民ナリトスルハ皇國体上ノ觀念ニフラス、天皇臣民ノ區別ハ統
治者タルモ尚事實ノ發生ト共ニ天皇タリ得ル資格アル皇族ト永遠ノ被統治
者タル臣民トアルナリ、

皇族ハ天祖ノ御本家タル方々ナリ、故ニ建國法ノ予見スル特定ノ事實發
生セハ当然皇位ニ就ク資格ヲ有ス、而モ之等ノ皇族中ニテ何人カ天皇タラ
セ給フヘキカハ自然ノ系統ニヨリ其ノ範圍内ニ於テハ天皇特ニ萬古一系ノ
天皇則天祖ノ御延長タル天皇ノ御認定ニヨリ定マル、皇皇典範ハ不変規律
意思トシテ有スル此ノ種ノ認定ナリ、一定ノ手續ヲ履カサレハ天皇ト雖モ
之ヲ變更シ給フヲ得ス、次ニ何人カ皇族タリ臣民タルカノ分界モ亦自然ノ
血統ヲ主トシ其範圍内ニ於テ万古一系ノ天皇ノ認定シ給フ也ニカ、リ、之
レ亦皇皇典範ノ定ムル也ナリ、

天皇ト皇族トノ分別ニ付テモ皇族ト臣民トノ差異ニツキテモ往時動カヤ
ル自然ノ系統ヲノミ標準トセル結果認定ニハ往々変例アリテ且ツ稀ニハ一

度ナセル^記變更セル例サヘアリシモ皇室典範ノ定ムル以上其ノ所定ニヨリ皇族ニシテ一度人臣ニ下レルモノハ如何ナル理由アルニ皇族ニ復籍シ給フヲ得サルヘク人臣ヨリ立テ皇位ニ就キ給フヲ得ス
女子タル皇族ハ臣籍ニ下リタルトキモ持旨ニヨリ尚内親王・女王ノ祿ヲ有シ得ヘキハ典範ノ定ムル所ナリ此ノ場合ニモ名稱ノ如何ニ關セス法理上ハ最早皇族ノ列ニ非ス

第二款 独立人トシテ見タル臣民

独立人タル皇國臣民モ亦常ニ單純人ニ限リ普遍我ヲ本質トスル自治團體集合我ヲ本質トスル私法上ハ何レモ臣民ニ非ス臣民ノ本質ハ天皇ノ御定長タルコトナレス皇國ノ表現人タルコトヲアル天皇ニまつり奉リツアル故ニ臣民ヲ独立人トシテ見ルトモハ先ツ皇室ノ一分子ナリ皇國ノ表現人ナル故此レヲ独立人トシテ見ルトモハ先ツ皇國ノ一分子ナリ臣民ハ先ツ皇室ニ並ニ國家ノ一分子ナルモ次ニハ自ラ獨立全部者トシ

テ皇室トモ皇國トモ他ノ獨立人タル臣民トモ相對ス

第一項 臣民ト獨立人タル存在

皇國臣民ハ輔翼表現人タルコトヲ根本性トスル獨立單純人ナリ其ノ獨立人タル存在ト表現人タル存在トハ矛盾スル事ナクヨリ相調和シ表象スルモノナルモ表現人タル存在ハ本ニシテ獨立人タル存在ハ末ナリ

第一 獨立人タル存在ノ必要

皇國臣民ハ人トシテ天皇ノ輔翼ヲ以テ永遠ノ分トセラルモノナリ此ノ分ヲ以テ表現人タラサルモノナシ此ノ神隨ヲ一心同體ノ存在スル所以ニシテ臣民ノ神ナカラノ職司ナリ其ノ根本性ナリ臣民ハ此ノ意味ニ於テ表現人タルカ故ニ必ス漏レナク獨立自由ノ存在ヲナスモノト認メラル蓋シ表現人トシテ凝然トシテ存在スル普遍ヲ代表スルモノニ非ス各人ノ

内部ヨリ湧キ出ツル神ナカラノ産靈ヲ以テ普遍的創設ヲ行フコトナリ。臣民ハ神皇産靈神ノ産靈ヲ已ノ内部ヨリ取出シ。此ノ神ノ美化作用ヲ行フナリ。

各臣民ノ生活活動ハ即チ皇國第一事實其レ自身ニ他ナラサルモノトス。此ニ於テカ、其ノ生活ノ事實ニ対シテ絶対ノ責任ヲ負ハシムルト共ニ、自己ノ自由心証ニ基キ皇國ノ自觀自創ヲ實現シ、又ニ此トシテ已ヲ牽揚スルコトカ、實ニ獨立自由ヲ是認セサルヲ得サラシムル所以ナリ。茲ニ消極的ナル責任問題ニ付テノミテラス、積極的ニ自己ノ創設セシ結果ヲ引受テ愈々此ヲ榮エシムルコトカ、獨立獨行ヲ必要トスルナリ。最モ近キ所、否自分自身ノ内部ニ隔ラナク、円満ナル産靈ノ全部ヲ見、何等ノ支障ナク、直接ニ之レヲ動かシメントスルコトカ自由ヲ必要トスル所以ナリ。表現トハ又他ノ人口ト相對立シテラ尚、之ヲ包容スルヲ要ス、滞リナク他人ト融通スルニハ心ズ他人ノ心ヲ我内部ニ置キカヘ、我内心ニ合一セシメテハラス、他人ノ精神ヲトラヘ得ルハ我カ精神トシテノミ成シ得、故ニ我カ獨立自由ノ尊重ハ則汎ク外部一切ノ人ト融通シ一切ノ人ニ已ヲ擴張シ得セシムルニ欠クヘカラサル資料ナリ。臣民カ愈々天皇ニまつろひ奉ラントセハ益々已ノ内部ヲ培養セサルヘカラス、之レヲ立國ノ精神ニ見ルニ獨立ハ先ツ先祖ノ御要求ナリ、天皇ハ先祖ノ御延長トシテ愈々此ノ御要求ヲ實現セシメ給フ臣民ヲシテ其ノみことタル本質、即チ表現人タルノ本質ヲ擧揚セシメ給フハ天皇御仁慈ノ極ナレトモ、斯クノ如キハ臣民ヲシテ獨立人トシメ給フ事トハナレヌ尚次ニ臣民ノ獨立ハ天皇ノ御人格ノ反映ナリ、天皇御自身カ自由獨立ノ存在ヲナシ給フコトノ反映ナリ、臣民ハ天皇ノ輔翼者トシテ、其ノ延長タル故、天皇ノ円満ナル御存在ノ各方面ヲ其ノ小存在ニ反映シツ、アルニ外ナラス。

第二、獨立人タル存在ノ地位

臣民ノ表現人タル存在ハ本ニシテ、獨立人タル存在ハ末ナリ。臣民ハ獨立人タルモ表現人タル基礎ノ上ニ獨立人ナリ。故ニ獨立人カ皇國ナル同一ノ分子タル方面ニ於テ生活ノ等級ハ其ノ表現人タル根柢ニ應シテ定マ

抑モ全部者トシテ全部者ニ対スル独立人相互ノ間ニハ價值ノ差等アルコトヲ是認スル能ハス。独立全部者トシテハ何人モ一切ヲ要求ス。独立全部者トシテハ、各々差別アル人格者ナル故相互間ニ差別ヲ設ケルヲ欲セス。各々不平等ナル存在タル故ニ平等ヲ要求ス。又各々絶対無限ナラスシテ、特定有限ナルカ故ニ、各自ノ絶対ナル自由ヲ主張ス。自由、主張ニ特定ノ範圍ナキ故ニ又、自由ノ問題ヲ超越ス。然ルニ全一タル、國家ト部分タル独立人トノ關係ハ直接ニ其ノ背後ニ存在セル表現關係ニ留意シツ、認メラレ、モノナリ。分子タル独立人ハ其ノ直接ノ背後ニ於テハ表現人タル存在ヲ有ス。表現人トシテハ、皆同シ大生命ニ歸一シツ、アル故ニ其ノ自由ハ即ハ大生命ノ自由ニシテ、悉ク平等無差別ナリ。自己ノ自由即チ大生命ノ自由タル故ニ、大生命ニ対シ自己ノ獨特ノ自由ヲ主張スルコトナリ。平等ナルカ故ニ、却リテ互ニ制限ノ程度、範圍ヲ異ニシ、相對立シ相保障ハ國家ノ分子タル独立人ハ新レ表現人ヲ直接ノ根柢トスル故、独立スルニモ拘ラス。已チ統轄セル全一ニ對シテモ、部分相互ノ間ニ於テモ、不平等ニ

シテ、特定ノ自由ノ範圍ヲ附與セラレ、且ツ自由ノ制限ヲ受ク。臣民ハ独立人トシテ、或ハ自ラ全部者ナリ、或ハ全一ニ對スル部分タル共、部分タル存在カ、基礎ニシテ、其上ニ独立ノ全部者タルヲ得ルモノトス。後テ全部相對者ノ独立自由ハ決シテ國家ノ部分トシテノ要求ヲ妨クルヲ許サス。分子トシテ、当然國權ニ服従スルモノナリ、独立全部者トシテ其ノ保護ヲ受ケン焉。依リニ國權ニ服スルニ非ス。臣民ノ独立カ絶対ニシテ、已ニ承諾ニヨリ、國權ノ支配ヲ受クルニ至ルニ非ス。輔翼表現人タルコトニ根柢シ、分子トシテ自由ノ範圍保障セラレ、其ノ上ニ全部者トシテ、獨立自存スルヲ認メラルヘナリ。輔翼表現人ノ間ノ分子ハ絶対永遠ノモノニ非ス。故ニ獨立人ノ間ニハ全部相對者トシテハ勿論、部分對分部ノ關係ニ於テモ固定セル階級ヲ認ムルヲ許サス。之レト同時ニ皆少クモ自治表現人タルカ故ニ其ノ特色ノ如何ヲ問ハス職業ノ如何ニ拘ラス。獨立人トシテハ皆同様タルヘシ。之レ臣民ノ間ニハ、永遠ノ區別ヲ設ケル事ノ不可ナル所以ナリ。

第二項 奉公及服従

第一 奉公及ヒ之レニ基テ服従

独立人タル臣民ハ皇國永遠ノ奉公人ナリ。之レハ臣民カ輔翼表現人タルコト、表裏シテ、独立人タルコトヨリ来ル当然ノ根本性ナリ。從テ独立人タル臣民ハ皇國ニ服従スヘキ義務ニ付テモ、又表現人ノ場合ニ説ケル所ト同様ナリ。臣民ハ建國法上天皇ノ依ヤセ給フ終ニ表現人トシテ活動スルヲ辞スルコトナシ。之レト同時ニ、独立人トシテハ、常ニ國權統轄ノ下ニ立

國權ニ服従スヘキコトハ、建國法ニヨリ服従スヘキコトヲ云フ。何等國法ノ根柢ナキ強カニ屈服スルノ意ニ非ス。然レハトテ、建國法下リ、憲法典範法令等ヲ標準トシテ、其ノ範圍内ニ於テノミ國權ニ服従スル義務ヲ有スト云フモノニモアラス。建國法ニヨリ之レト前後ナキ國權ニ服従スルコ

トナリ。此ノ故ニ建國法ヲ敷衍セル法令ニ從フハ則建國法ノ要求ニテ建國法ニ從フ所以ナリ。而シテ國權ノ行動ハ法令ニ違反セル場合ニ直チニ之レニ盲従セサルモ、建國法上ノ義務ニ違背スルモノト云フヘカラス。盲従ハ臣民ノ義務ニアラス。國權ノ違法ヲ救済セント勉ムルカ却テ建國法ノ要求ナリ建國法ヲ遵守スル所以ナリ。但シ國權ノ行動カ法令ニ違反スルヤ否ヤ認定スルモノハ、帰スル所、國家ニシテ、臣民カ終局的効カマテ決シ得ヘキモノナラス。國家ト臣民ト見ル所ヲ異ニスルトキハ、結局國家ニ從ハサルヘカラス。

臣民ハ表現人トシテ絶対ノ輔翼者タレトモ絶対ノ服従者タリト云フヲ得ス。之レト同時ニ、独立人トシテモ絶対ノ奉公人ナルモ絶対ノ服従者ナラ

ス。独立人トシテモ國家ノ一部分ナリ。國家ヲ愛シ、國ノ為メニ尽シ國ノ為メニ死ス。國ノ為メニ榮ユヘキモノナルカ、唯、絶対ノ服従者ニ非ラス。建國法ニヨリ自由ニ已ラ提ケ、独立シツ、服従スルナリ。自己ノ利益ヲ欲シ、其ノ保護ヲ得ン為メニ得失ヲ計算シテ、服スルノテモナレハ、弱者

トシテ、力足ラサルカ故ニ、泣クノ、強カノ、压制、下ニ立ツモノニモアラ
ス違國法ニ根柢シ憲法典範ヲ遵守シ更ニ之等ヲ基本トセル法律命令ヲ標準
トシツ、自ラ運シテ國權ニ服スルナリ、表現人タル臣民ハ、まことヲ以テ
天皇ヲ輔翼シ奉ルカトナリ、

之レニ相應シテ、独立人トシテモ、天地ノ公道ニ則リ、國家ニ己ヲ差出
シテ行動スヘキモノニシテ、此ノ種ノ行動ヲ奉公トイフ奉公トハ徒ニ服從
スルコトノ義ニ非ス、服從ハ奉公ノ要求ニシテ其ノ自身絶対ナラス而テ輔
翼表現人ハ天皇ヲ仰キテ常ニ從タル地位ニ立ツモノタルト共ニ、独立人ト
ル臣民ハ國家ニ對シテ常ニ從タル地位ニアリ、常ニ從タリト云フ事ハ、絶
對ノ服從者タリト云フニ同シカラス、違國法ニヨリ服從スルナリ、憲法並
ニ之レニ基ク法律命令ハ違國法ノ有権的解脫ヲナシ、之レヲ救済セルモノ
ナリ、故ニ此等ノ認定法ニ準據シテ行動スルカ違國法ノ要求ナリ、此ノ意
味ニテ独立人タル臣民ノ服從モ唯實際上強制力ノ尽ニ行動スルノ意義ナラ
ス

第二 臣民ノ服從

臣民ハ奉公ヲ其ノ性質トスル結果、第二效ニテ服從ノ義務ヲ有ス臣民ハ
領土ノ内外ニアルヲ問ハス、國權ニ服從シ、國法ヲ遵守ス、國權、國法ハ
臣民ノ到ル如クニ伴隨ス、外國人ハ赤カ輔翼表現人タルコト、永遠ノ奉公人
タルコトヲ其ノ根本性トセサル故ニ、日本領土内ニアルヲ條件トシテ、服
從スルノミ、而モ其ノ間ニテモ、根本ニ於テハ、常ニ其ノ本國法及本國ノ
國權ニ從フモノトシ、我國權ハ唯日本臣民ニ準シテ之レヲ遇スルノミ、故
ニ外國人ハ一生皇國內ニ在在スルモ、單ニ領土内ニアルコトヲ條件トシテ
依リニ表面ノミノ服從ヲナスニ過キス、從テ、憲法上ノ臣民ノ權利義務ノ
保障、如キモ、外國人ニ對スル認メタル保障ニヨラス、尙日本臣民ナラハ
其ノ臣民タル資格ヲ奪フヲ得ルモ、外國人ノ外國人タル資格ヲ奪フヲ得ス
皇國臣民カ、外國ニ在留スルトキハ、外國法ヲ遵守シ、外國ノ権力ニ服從
ス、之レ日本國カ是認スル根柢ト上ニ然ルヲ得ルモノナレハ、日本ノ國權

國法ノ効果ニ外ナラス。民事、商事ニ付テハ彼我認定法ノ矛盾スルニ當リ、斯ノ國法ニ準拠スヘキ場合ト我カ國法ニ明示セル場合モアリ（法例）然シ我カ國法、國權カ、外國ニ從テ非認スルトキハ、彼レヲ捨テ、我レニ從テハ明カナリ。日本臣民ハ常ニ天皇ヲ背負ヒ奉リ、建國法ト、國權トヲ提ケツ、世界ニ邁歩スルモノナリ。外國ニアルモ、常ニ天皇ノ輔翼者ナリ。皇國ノ奉公人ナリ。

事實上外國人ノ權力ニ強制セラレツ、アルコトハ、法理上、外國ノ權力ニ服従スヘキヲ意味セス。御ニアリテハ御ニ從フト云フ諺ハ此ノ本根ニ及ラ能ハス。

第三項 臣民ノ權利義務

臣民ハ皇國ノ奉公人ニシテ、建國法ニヨリテ已ニ自由独立スル權利義務ヲ有ス。建國法ハ國家ニヨリ定ムル法ニテ、建國法ニヨリ國家ナリ。天皇ハ建國法ヲ創始シ給ヘト建國法ニヨリ、天皇タラセ給フ此ノ建國法ニヨリ

確定セラレツ、アルモノカ臣民ノ自由独立ナリ。之レヲ外國ニ比較スルモ建國法ノ存在明確ナラス。從テ、或ハ臣民ノ自由独立ヲ否定シ、一ニ服従ノミヲ要求シ、臣民ヲ驅リテ、流ク奴隸ノ如クシ、或ハ臣民奮起シ、認定法ヲ越エ、天賦自由ノ人權ヲ高調ス。皇國ニテハ、天皇及皇國ト相離レ得サル建國法ニヨリ人民ハ当初ヨリ自由ナリ。独立ナリ。自由ニシテ獨立ナル故、天皇ノ輔翼表現人ナリ。

自由ナリ、獨立ナルコトハ、臣民ノ建國法ノ義務ナリ。權利タリ神隨ノ權利義務ニシテ、唯一時ノ便宜ニ應ジ、偶然ニ附与セラレタルモノナラス。皇祖、皇宗ノ認メ給ヒシ処ニシテ、皇國ト、其ノ存在ニ前後ナシ。但シ、此ノ自由獨立ハ、之レヲ時勢ニ適スル如ク規律スルヲ要スヘク、此ノ規律ト相俟テ始メテ完キテ致ス。自由獨立ハ唯偶然ニ附與セラレ、モノナラザルモ、規則ナキ絶対ノ自由、範圍ナキ自由獨立ハ既ニ自由獨立ノ觀念其レ自身ニ於テ矛盾ス、臣民ノ自由獨立ハ当初ヨリ建國法ニヨリ規律セラルヲ前提シ、其ノ範圍ノ存在ヲ要件トス。此ノ規律、此ノ範圍ヲ時勢ニ応ジ、敷衍シ給フハ一ニ天皇ノ統治大權ニ

八八
及ス。臣民ハ唯々之レヲ輔翼シ奉ルニ止リ。自ラ最高カヲ以テ。之レヲ規定
スルモノナラス。臣民自ラ最高カヲ以テ規定スルコトナシトモ。天皇ハ
常ニ臣民ノ輔翼ヲ以テ之レヲ行フ。臣民ハ常ニ之レヲ輔翼シ奉ル。従テ自
由独立ニ對スル範圍。並ニ規律ハ尚臣民自律ヲ高トスシテ普遍的自律ナリ

第二章 行政表現人

第一節 官制

天皇カ自主表現人トシテ。皇族臣民ノ輔翼ヲ要シ給ヒ皇族臣民ハ輔翼表
現人トシテ其ノ分担ニ付テ天皇ヲ輔翼シ奉ラントス。茲ニ於テカ。輔翼ノ
手段。即チ統治ノ手段トシテ諸般ノ治他表現人ヲ成立存在セシム。表現人
ハ目的ニシテ手段ニアラサレ共。更ニ其ノ内部ニ於テハ。尚。手段ノ性質ヲ

有スル表現人ヲ認め得ルナリ。官制トハ之等治他表現人ノ組織权限並ニ行
動一形式ヲ規定セル法ノ一捕ヲ云フ。

官制ハ表現法ナリ。直接ニ獨立人ノ意志發動ヲ規定スル認定法ニ非ラス
表現人ノ成立存在ヲ規定シ。其ノ表現行為ヲ規律スル認定法ノ一捕ナリ。
獨立人ノ權利義務ヲ定ムルヲ目的トセザルモ。單純ナル事實ノ宣告又ハ國
家ノ構造ノ意思ノ豫定ニ非ラス。尚法則ナリ。天皇ハ何時如何ナル輔翼表
現人ヲ設定シ給フカ。其ノ表現人ノ权限及ビ表現權利。表現義務ヲ定ムル
法則ナリ。

官制ハ治他表現人ノ成立及ビ活動關係ヲ規定スルヲ目的トス。皇族並ニ
臣民ハ愛國法ニヨリ一人トシテ。自治表現人タラサルモノナク。其ノ成立
存在ニ付テハ。特別ノ認定法。又ハ特別ノ処分ヲ必要トセス。特別ノ認定
法又ハ。処分ヲ必要トスルハ却テ自治表現人タル存在ヲ制限スルトキニ限
ル。自他表現人ハ之レト異リ。其ノ成立存在ニ關シテ法則ヲ必要トシ。
又國家ノ行動ヲ必要トス。官制ハ法則ナリ。自他表現人ノ成立存在ヲ定ム
ル規律意思ニ外ナラス。何々特定ノ場合。表現人ヲ成立セシムル行動ナリ

ス。官制ニ準拠シテ自他表現人ノ構成ヲ定ムルニヨリ、其ノ自他表現人カ
現実ニ成立スルニ至レハナリ。例ヘハ官制ヲ定メ内務大臣、内務次官等ヲ
置キタリトスルモ未ダ現ニ之レヲ構成スル独出タル官吏ノ任命ナキトキハ
内務大臣等アリト云ヘハ内務大臣等ハ單ニ認定法ノ規定ヲ指シテ云ヘルニ
モ非ラス。又、特定ノ事務ノ集リヲ云ヘルニ非テ、特殊ノ权限ニ付キ存在
スル人格者ヲ云フ。

表現生活ノ見地ヨリ特定ノ皇族又ハ臣民ヲ見レハ此ノ者カ即チ内務大臣
等ノ自他表現人タルモノナリ。
行政各部ノ官制ヲ定ムルハ天皇ノ大威ニ尊屬ス。天皇ハ之ノ他ノ治他表
現人ニ委任シ給フヲ得ス。之レト相俟テ、文武官ノ任免モ亦天皇ノ大威ニ
屬ス。但シ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲカケタルハ此ノ限りニ非ス。

第二節 行政表現人ノ概念

第一款 性質

行政表現人トハ特ニ行政行爲ノ表現ヲ其ノ存在ノ理由トスル輔翼表現人
ヲ云フ。尚ホ詳シク云ヘハ、カ、ル表現人ノ系統的全部ニ屬スル表現人ヲ
云フ。

第一、行政表現人ハ行政行爲ノ表現ヲ特ニ存在ノ理由トナス。抑モ國家ノ
表現人ハ皆其ノ权限ト高ルヘカラス。トモ人格者タル以上、唯單純
ナル活動ノ集リヲ云フニ非ス之等ヲ超越セル特殊ノ存在ナリ。活動ハ
人格者ヨリ發スルモ人格者活動タルニ非ス。故ニ表現人格者中ニハ、
或ハ頭初ヨリ性質ヲ異ニスル各種ノ活動ヲ兼ネテ权限トスルモノアリ、
或ハ先ツ特定ノ活動ノ表現ヲ权限トシテ成立セル結果從テシテ別種ノ
活動ヲ其ノ权限トスルニ至ルモアリ。帝國議會ノ如キハ豫算議定ヲ权
限トスルカ憲法改正ノ案ヲ議決スルコトモ、法律案ヲ協賛スルコトモ
皆权限ニシテ共ニ帝國議會ノ存在スル根本目的ナリ。故ニ行政表現人
ニ非ラス。司法裁判所及ヒ貴族院並ニ衆議院ハ何レモ行政行爲ヲ表現
スルコトアルモ司法行爲又ハ帝國議會ノ構成ヲ主タル权限トシテ成立

スルモノニテ一端表現人トシテ存在スルニ至レル以上之レニ附随シテ行政ニ関スル权限ヲ認メラル、ニ他ナラス、故ニ又行政表現人ト云ハハ、之レト趣ヲ異ニシ会計検査院、行政裁判所、各省大臣等ハ特ニ行政行為ノ表現者トシテ認メラレツ、アルモノ、故ニ行政表現人ト見ル行政表現人トハ國家ノ行政行為ヲ表現スル人格者ト云フニキ意味ヲ有セス、天皇ヲ輔翼シ特ニ行政行為ヲ表現スルコトヲ存在ノ根本的理由トスルモノヲ云フ、而モ之等ノモノハ相互ニ系統的全部ヲナシツ、存在スルヲ性質トス。

第二、行政表現人ハ特ニ行政行為ヲ表現スルモノトシテ系統的全一ヲナス、行政表現人ハ其ノ單純人タル団体人タルト行使表現人タルト内助表現人タルトヲ問ハス、相俟テ相輔ケテ系統的一因ヲナシ、行政行為ノ表現ニ付テ各々其ノ特殊ナル範圍程度ヲ分担ス、而シテ私法行為ヲ表現スルモノ、或ハ學者技術家トシテ、事實上ノ活動ヲ表現スルモノハ之レヲ單獨ニ見レハ行政行為ノ表現者ニ非サル如ク

ナルモ行政ニ關スル系統的全一ノ構成者タル莫ヨリ見レハ尚ホ特ニ行政行為ノ表現者タルヲ失ハス、行政表現人トシテ學問技術又ハ私法上ノ行動ヲ行ヒツ、アルモノナリ、此ノ種ノ权限ヲ行ヒ得ルモノナリ

第三

行政表現人ハ少クモ系統的全一トシテ常ニ直接又ハ間接ニ、天皇ノ指揮監督ヲ受ケ輔翼表現人ハ皆天皇統概ノ下ニ立テ總攬ノ下ニ立ツ事カ即チ輔翼シ奉ル所以ニシテ、輔翼シ奉ルコトヲ總攬ノ下ニ立ツ所以ナリ、帝國議會然リ、司法裁判所然リ、行政表現人ニ系統的全一トシ、又ハ何マトシテ其上以上ニ特ニ天皇ノ指揮監督ノ下ニ立ツ

行政裁判及ヒ会計検査ヲ除ケル行政行為、則チ總裁ノ行政行為ノ領域ニ於テハ各省大臣以下何々ノ行為表現人ハ大權ノ指揮監督ヲ受ケ、会計検査ハ自己ノ所見ニ從ヒ検査スルモ大權ノ指揮監督ノ下ニナセル總裁ノ行政作用ノ事後ノ検査ナシ、行政裁判所モ、又自己ノ

心証ニ從ヒ裁判スルモ、行政表現人ヲシテ、大赦ノ指揮監督ノ下ニ
天皇ヲ輔翼シ奉リ、其ノ表現行為ヲナス所以ヲ究フセシメンカ爲メ
ナリ、カレハ要スルトコロ行政表現人ハ少クモ一因トシテ直接、又
ハ間接ニ天皇ノ指揮監督ノ下ニアルコトヲ性質トスルモノト云ヒ得
ラルヘシ

第四、行政表現人ハ統一的全部トシテ見レハ常ニ憲法ノ律、勅令ノ範圍
内ニ於テ自由ニ行動スル表現人ナリ、然レモ、行政行為ハ、天皇カ自
由ニ勅令ヲ以テ設定シ給ヘル表現人ノ奉公スル也ニシテ常ニ法律、
勅令ノ範圍内ノ自由行動ナリ、從テ之ノ體ノ表現人ハ法令ヲ越エサ
ル限リ自由ニ目的ト手段トヲ設定シテ行動スヘキモノナリ又之等ノ
モノト系統的全一ヨナス、広義行政行為ノ表現人、即チ行政裁判所
及ヒ会計検査院モス、此ノ種ノ自由行為ヲ是認シ之レヲ可能ナラシ
ムル爲メ存スルモノ故行政表現人ハ全一トシテ自由行動ヲ性質トス
ル表現人ナリト云ヒ得ヘシ、

輔翼表現人中ニハ主トシテ非常行為對外行為、殖民地統治ヲ存在ノ
根本目的トスル表現人ナリ、例ハ元帥府、軍事、議員、戰時大本
營ニ於ケル幕僚及各機關ノ高等部ハ國家ノ非常行為ノ表現ニ付キ輔
翼ヲ限トスル表現人、又ハ表現人ノ集合ナリ、軍務行政ヲ行フ行
政表現人ニ非ラス大使及臨時外交調査会ハ對外行為ニ付キ、天皇ヲ
輔翼シ奉ル表現人ナルモ、外務行政ニ關スル行為ニ關スル行政表現
人ナラス、朝鮮總督、台灣總督、關東都督等ハ殖民地ノ統治ニ付キ
存スル輔翼表現人故、嚴格ナル意味ノ行政表現人ナラス、殖民地統
治ノ内即ニ於ケル殖民地行政ノ表現人ニ他ナラス

第二款 行政表現人ノ成立消滅

行政表現人ハ皆天皇ノ設定シ廢止シ得給フ所ニシテ憲法上時ニ例外ヲ認
メラレタル会計検査院及ヒ行政裁判所ノ外ハ悉ク皆帝國議會ノ協賛ヲ必要

欠

トセス、大権單獨ノ作用ニテ行フ操言セハ概義ノ行政行爲ノ表現ヲ其ノ存
存ノ理由トスル概義ノ行政表現人ニ付テハ法律ヲ以テ官制ヲ定ムルコトナ
リ、勅令ヲ以テスヘク、其ノ構成者ノ任免モ一ニ大権ノ自由ニ行フトコロ
ナリ、官制ノ廢止、変更ニヨリ、行政表現人ハ消滅シ、其ノ構成者ヲ失フ
ト共ニ又消滅ス、細リ表現普遍人ハ其ノ構成者ニ與テテ事實上一時具
ノ構成者ヲ失フトコトアルモ、前後ノ構成者ヲ通シテ同一ノ表現人タルナリ
構成者ノ變動ト共ニ成立消滅スルコトナシ、

(註) 構成表現人

内助表現人

合意表現人

補助表現人

審議表現人

豫備補助表現人

実行表現人

行役表現人

欠

他ノ表現ノ統轄ノ下ニアラス。輔翼表現人カ其ノ权限ヲ自認スルハ常ニ直接又ハ間接ニ自主表現人ノ認定ノ下ニ於テ行フ所ナリ。
要スルニ表現人ハ表現法及ヒ其上級表現人ノ解釈ニ從ヒ、其ノ权限ノ範圍ヲ明ニスヘキナルカ、其ノ範圍外ニテハ自ラ自由ニ認定法ヲ解釈シ、自己活動ノ範圍ヲ定ム、活動スヘク疑アルトキハ自己ノ自由心証ニヨルハナリ。

第三款 权限ト違法

権限ハ法ニヨリ存在シ、法ヲ離レテ权限ナシ。权限ハ自認ニヨリ完シト虽モ表現人、各自ノ偶然ナル認定ニヨリ存スルモノナラス、权限ハ之レヲ定ムル認定法アルコトヲ要求シテ、其ノ权限ニヨリ存在スル表現人自身カ自ラ其ノ法ヲ解釈シ、其ノ法ノ範圍内ニテ其ノ权限ヲ自認スルニヨリ完シ、之ノ权限ヲ定ムル法ヲ权限法ト云フ、权限法ハ定メラレタル权限内

ノ 活動ヲナスニ付キ表現人カ利用スハ、諸般ノ認定法、即チ利用法トハ
異ナル。利用法ニ違ヘルトキニ其ノ表現人カ違法行為ヲセルニ止リ、尚表現人
ノ表現行為タルヲ失ハサルモ、権限法ニ違ヘルトキハ又表現人ノ活動ニ非ラ
ス。

権限法ニ違ヘルトキニ表現人ノ行動ナラスト云フハ、客観的法理ニシテ
現ニ之レヲ何々特定ノ場合ニ応用スルニ当リテハ、主観的法理ニ由ラサ
ルヘカラス。客観的法理ハ一般原則ナリ、主観的法理ハ実行上ノ規範ナリ、
実行上ノ規範トシテハ何々特定ノ場合ニ客観的法理ニ基キ、異シテ、
認定メタル認定法ニ違ヘルヤ否ヤヲ決スルハ、若他表現人自身ナリ、故ニ
彼令客観的事実トシテ表現人カ其ノ権限法ニ違ヘルコトアルモ、其ノ表現
人カ自己ノ権限ニ屬スルモノト自証シテ行動セル以上、認定法上ノ上級表
現人ニヨリ、権限法ニ違フセリト認定セラル、
是ハ尚、有効ナル表現行為ナ
リ、從テ其ノ相手方タル人民ハ行政表現人カ権限法ニ違背セリト認定シテ
表現行為タルコトヲ制定スル能ハス、而シテ人民カ取消サルヘキ結果ヲ豫
想シテ之レニ從ハサルコトハ事實上之事ニシテ法理上ノ事ナラス。

利用法ハ、権限法ト異ナリ、権限法ニヨリ定ムル権限ヲ行フニ付キ準據セ
ラルヘキ規定ナリ。

凡ソ認定法ハ徒ラニ人格者及ヒ其ノ行動ヲ制限スルモノナラハ、其ノ主
トスル事カ却テ人格ヲ成立セシト、人格者ニ其ノ利用スル手段ヲ附与スル
ニアル。斯ル認定法、中ニテ権限法ハ特ニ表現人ノ成立要件ナルモ、利用
法ハ寧ロ其ノ行動ニ利用セラルヘキモノナリ。

故ニ権限法ニ違フセラル以上、彼令利用法ニ及セルトキモ、尚ホ表現違
法行為トシテ成立シテ、若シ其ノ表現人カ行政表現人タルトキハ即チ、
國家ノ違法行為タルヘシ。

表現人ハ性質上、私意ヲ挟ミテ行動スルモノナラス。表現人ノ権限ニ屬
スル事務ニ関シテモ、若シ私心ヲ以テ行動スルトキハ、又表現人カ其ノ権
限ヲ行フモノト云フヘカラス。私意ヲ以テ権限法ニ違フトキハ、表現人ノ
行動ニ非ラサルコト固ヨリナレモ、私意ヲ以テ利用法ニ違フスルトキモ、
又表現人ノ行動ニ非ス何レモ官吏等ハ不法行為タルニ止ルヘシ。
表現人ニ私意ナシ、私意ヲ挟ンテ違法ヲナシ得ルハ独立人タル官吏ナリ

但事實上私意ヲト否トヲ認定スルコトハ曠ル困難ニテ特別ノ規定ナキ限
リ官吏等ノ私心明白ナラサル以上、常ニ表現人ノ行動ナリト認メサルヘカ
ラス、官制並ニ任命ニヨリ現實ニ表現人存在スル以上其ノ構成者タル官吏
ハ原則トシテ、私バアルモノト推定スヘカラス、私心ヲ起ヘ、表現人トシ
テ其ノ權限ヲ自認シ、表現人トシテ其ノ權限ヲ行フモノト認メサルヘカラス

第四款 表現人ノ權利義務

權利義務トハ特ニ認定法ノ是認シ、又ハ要求スルニヨリテ、其ノ意思ノ
認定法上ノ帰屬者ノ有スル特定ノ自由意思ナリ

- (1) 特定ノ活動ヲナスニ付キ有スル意思タルコト
 - (2) 認定法ノ特ニ是認又ハ要求スルコト
 - (3) 其ノ意思ノ認定法上ノ帰屬者ノ有スル意思タルコト
- 之等カ權利義務ヲ成立セシムル要件ナリ

權利義務ハ固ヨリ認定法ト同シカラストモ、相表裏シテ離レルを得ヤ
ルモノナリ、認定法ハ規律普遍意思ニテ各人ノ意思中ニ活キツ、アルモ、
而モ各人ヲ超越スル客觀的存在ヲナス、權利義務ハ特定ノ場合ニ、特定ノ
人格者カ其ノ内外合一セル根拠、上ニ存シ得ル主觀的の意思ナリ、前者ハ各
人ノ主觀的存在ニヨリ成立シツ、アル客觀的の意思ナリ

各人ノ意思ヲ超越セル普遍意思ナリ、後者ハ其ノ普遍意思ニ基キ特ニ各
人ニ分配セラル、モノニヨリ有スル各人ノ自由斷行力ナリ、權利モ義務モ
歸スル所ハ表現人トシテ其ノ權限ヲ何々特定ノ場合ニ実行スルニ當リ規律
普遍意思ニヨリ特ニ保障セラレツ、アル自由斷行力ナリ、元來表現人ハ權
限内ノ行動ニ付キ常ニ普遍的保障ヲ有スルモ、特定ノ行動ニ對シテモ、規
律普遍意思ニヨリ殊更保障セラレ、コトナリ、之レヲ權利義務ト云フ、之
レヲ表面ヨリ見レハ孤立人ノ有スル自由斷行力タル場合ニ於テモ結局根本
ニ於テハ權限タルコトヲ性質トス、而シテ權限タル場合ニモ、權利義務ノ
外ニ權限ノ觀念ヲ認メ權限ノ外ニ權利義務ノ觀念ヲ認ムル必要アリ、權限
ハ一概ノ範圍ニテ權利義務ハ何々特定ノ場合ニ於テ爾實行力ナリ、之ノ根

此ノ種ノ表現行為ヲナスハ表現権利ナリ。又或ル事項ニ付キ上級表現人ノ命令ニ従ハサルヘカラス。又事務ノ執行ヲ爲サシムルヘカラスカ如キハ、家現義務ナリ。

行政裁判所カ、或ル事件ニ付キ判決ヲ下シ得又ハ爲サシムルヘカラス。其ノ表現権利ニシテ又表現義務ナリ。

会計検査院ノ要求ニ従ヒ、行政表現人カ特定ノ官吏ヲ処分セサルヘカラスルハ、其ノ表現人ノ表現義務ナリ。行政表現人カ自治表現人タル人民ト行政裁判所ニテ相争フコトモ、其ノ表現権利ニ付キテナリ。

斯クノ如クシテ、表現人相互ノ活動關係ハ必ズ表現権利、表現義務ヲ生セシム。國家ノ暴行ハ其ノ表現人ノ暴行ニ他ナラス。表現人ノ暴行ハ自治表現人相互間ノ權利義務ノ關係ノ暴行ヲ意味スルノミナラス。自然表現人相互間及ヒ自治表現人ト自治表現人間ノ表現権利、表現義務ノ暴行ニ他ナラス。

第五款 表現人ノ責任

第一項 責任ノ概念

第一、自由ノ意思ヲ有スルモノカ、自由ニ其ノ意思ヲ發動スルコト、心思ノ各方面カ円満ナル暴行ヲ遂ケサシムルハ、意思ノ自由ニ於テ完全ナルヲ得ス。又意思ハ自由ナルモノ、外部ノ強制ヲ受ケ、暴行スル如キハ、其ノ暴行ハ、自由ナリトハ云フヲ得ス。自由ナル意思カ、自由ニ暴行スルニ當リ、之ノ主体タル人格ノ完全ナル作爲、又ハ不作爲ヲ生ス。

第二、之ノ第一要件ニヨリ生シタル活動ノ直接、又ハ間接ノ結果トシテ、其ノ人格者カ屬シ、又ハ表現スル全部ヲ害シ、又ハ害セントスル虞アル事。

第三、既ニ生セル結果又ハ得ニ生セントスル害意ノ除去、又ハ教化引受ケシムヘキ統括的自由カアルコト

(註) 輕化ニテ、輕據ニ非ス、據ハ人ニナスリツケルナルノ意味ナリ

モ、輕化ハ害悪ヲ變シテ善美化スルコトナリ、

責任

(1) 自由者、自由行動

(2) 全部ノ害

(3) 全部ノ自由カ、統括カ

(4) 引受ケントスル自由カ

第四、問題トナレル活動ヲ爲セルモノカ之レヲ引キ受ケル自由意思ヲ必要トス、而シテ責任トハ、自己ノ爲セル活動ノ結果ヲ引受ケル自由意思ヲ主トシテ他ノ悉クノ要件ヲ満ス場合ニ存在スルモノトシ之等ノ各要件カ認定法ニヨリ定メラレツ、アル場合ニハ其ノ責任ハ認定法上ノ責任ナリ以下然ラ認定法ノ責任ニ付テ説明ス、
之ノ要件中、全部ヲ害シ、又ハ害セントスル事實、除去又ハ輕化ヲ引受ケル自由意思ヲ有スル人格者ハ則第一要件タル自由意思ニ基キ活動セル人格者ト同一ナラサルヘカラス、偶々他人ノ行爲ニ付キ責任ヲ負フ如ク見ル

モノアルモ、實ハ自己ノ延長タル人格者、或ハ自己ヲ構成スル人格者、行動ニ付キ責任ヲ負フモノニテ、結局自己ノ行動ニ付キ責任スルコトノ例外ヲナスモノニ非ス、行政官廳カ其ノ下ニアル補助表現人、行動ニ付キ責任負ヒ履主カ其ノ使用人ノ行動ニ付キ責任スルノ類ハ、自己延長トナリ、自己ノ構成スルモノ、行動ニ付キ責任ヲ負フモノナリ、後見人カ無能力者、行動ニ付キ責任ヲ負フ如キハ、自己カ構成スル人格者ノ行爲ニ付キ責任ヲ負フモノナリ、而シテ意思ノ自由ナルコト祭動ノ自由、如キハ、決シテ單一ノ尺度ニテ律スヘキナラス、行動ノ種類責任ノ種類ニ應ジテ自由、不自由ト認メラルヘキ標準ヲ異ニスルカ当然ノ事ナリ、

責任ノ基礎ハ之レヲ主観的方面ヨリ見レハ、自我ノ責任心ニアル之ノ責任ニヨリ從テ要件統一セラレテ存在ス、認定法及ヒ制裁法ハ一切ノ自我ニ普遍ナル責任心ニ基キ存在スルモノト云フヘク、之レニヨリテ益々各自ノ責任心ヲ保障シツ、アルモノトス、而テ責任ニ必要ナル各級ノ條件ヲ第三要件中ノ既成ノ害悪ノ除去、又ハ輕化ヲ引受ケシムヘキ自由カニ統ヘシメ、此ノ種類ノ自由ヨリ觀念スルトキハ、之ヲ社会ノ制裁カト云フ、

処罰権ハ之ノ制裁力ノ一種ニテ、社会ノ主観的ノ生活上既成害悪ヲ除去スルニ足ルヘキ精神、身体ノ苦痛ヲ科スルモノナリ、一般ノ制裁及ヒ処罰ハ之ノ制裁力及ヒ処罰権ニヨリ既成ノ害悪ノ除去又ハ教化ヲ引受ケシムル作用其レ自身ヲ終ス

第二項 表現責任

表現責任トハ、表現人ノ存スル責任ヲ云ヒ、独立人ノ間ニ存スル責任ト稱シ、其ノ趣ヲ異ニス

独立人間ノ責任ハ全部ト、部分トノ間ニ存スル公法上ノ責任タリ得ヘク又全部相對者間ニ存スル私法上ノ責任タリ得ヘキモ、何レニシテモ全部タル人格者ト其ノ分子タル独立人ト相對立ルコトヲ前提トス、即チ、根本ニ於テハ、第二要件トシテ全部タル独立人カ其ノ部分ノ行動ニヨリテ害ヲ受ケ、又ハ受ケントシツ、ナルコトヲ要シ、第一條件トシテ独立人タル

部分カ其ノ独立シテ有スル自由意思ニヨリテ、自由ニ行動スルコトヲ必要トス、斯ク、如キ場合ニ其ノ結果ヲ教化スルコトヲ引受ケル独立人ノ独立意思カ責任ノ本質ヲナス

然ルニ表現人格者ハ全部タル普遍我ニ歸一シ、其ノ权限ニ付キ之レヲ表現スルモノナリ、全部タル普遍我ヲハナレテ、別ニ独立ノ存在ヲナサズ、從テ表現人ニモ責任ヲ認メタルヘカラサルモ、独立人ノ場合ニ於ケルトハ、趣ヲ異ニス

第一 表現責任ノ各要件

表現責任ノ第一要件ハ、表現自由意思ノ存在ト、其ノ自由ノ發動ニシテ第二要件ハ其ノ表現人ニヨリ表現セラル、全部カ害ヲ受ケ又ハ受ケントシツ、アルコト第三要件ハ其ノ行動ヲナセル表現人ヨリモ更ニ上級ナル表現人ノ自由意思ニヨリ其ノ府ニ生セントシ、又ハ生シツ、アル害悪ノ教化、又ハ除去ヲ引受ケシメラル、コト、第四要件ハ始メニ、表現作用ヲナセル表現人カ斯クノ如キ教化、又ハ除去ヲ引受ケル表現自由意思ヲ有スルコト

ト必要トス

之ノ最後ノ表現意思カ表現責任ノ本質ナリ。斯クハ如ク表現責任ニ付テモ、独立人間ノ責任トシテ、其ノ根本ニ於テ四個ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス。之等ノ四要件ノ具備セルニ當リ、之レヲ第四ノ要件ヲ主トシテ見ルトキハ、表現責任ニテ之レヲ第三要件ヨリ見レハ表現人ノ有セル表現監督ノ作用トセル。

表現監督ハ既ニ生セル害悪ノミナラス、將ニ生セントスル害悪ノ輕化ヲ引受ケシムル表現自由カナリ。而シテ表現監督権ニヨリ既成ノ害悪ノ輕化又ハ除去ヲナサシムルニ付キ、表現制裁ヲ生ス。

第二、表現責任ノ罰

表現人ニハ表現監督ノ下ニ立テ、其ノ行動ニ過誤ナク、害悪ノ未ダ生セス、以前ニ害悪ヲ生セシメ得ル事柄ヲ材料トシ却テ、善美ヲ實現セシムヘキナリ。之レト同時ニ既ニ生セシメタル害悪ニ付テハ、特ニ表現監督権ニヨリ、其除去又ハ輕化ヲ引受ケシメタルコトアルヘシ。之レヲ表現人ノ受ケル表現制裁トス。

然レ共表現人ハ独立人トハ異リ、処罰ヲ受ケルコトナシ。

斯ノ如キハ自他表現人ニ付キテノミナラス、自治表現人ニ付キテモ同様ナリ。処罰ハ独立人ニ対シテ行ハル、モノニテ、表現人ニ討シテ存在スルモノナラス。特ニ身心ノ苦痛ヲ感セシメ、之レヨリ脱却セシムルニヨリ、社会ノ害悪ヲ輕化セシムル高メ、人格者ニ加フル苦痛ナリ。斯ル苦痛ハ、独立人ニ於テノミ認メラレ得ヘキモノニテ、苦痛ヲ超越シ、平ケテ、安ラケキ心持ヲ以テ、普通我ニ歸一シツ、アル表現人ニ加ヘ得ヘキ性質ノモノナラス。國家カ其ノ表現人ノ表現作用ニヨリ害ヲ蒙レルカ故ニ、其ノ表現人ニ苦痛ヲ加ヘントスルモ得ヘカラス。唯僅カニ國家カ再ヒ自ラ自己ニ苦痛ヲ加フルカ、又ハ表現人ヲ構成スル独立人ニ苦痛ヲ加ヘ得ルノミ。國家カ自己ニ加フル苦痛ハ、最早処罰ニ非ラス、其ノ独立人ニ課スルハ最早表現制裁ニ非ス。要スルニ國家ハ其ノ表現人ヲ処罰シ得ヘキ性質ノモノナラス。表現人ハ処罰問題ニ超越ス。上級表現人カ一層有効ニ全部ヲ表現スル自由カヲ以テ下級表現人ニ臨ミ、下級表現人ノ行動ヲ取消、又ハ停止シ、又ハ下級表現人ニ命ジテ其ノ為セル結果ヲ除去シ、或ハ之レヲ輕化シテ善

トナシムルコトハ、表現制裁トハ云ヒ得ルモ、処罰トハ云ヒ得ス。

第三、表現責任ト表現義務

表現義務ト表現責任トハ實質ニ於テハ相関聯スルモ、其ノ主トスル所ヲ異ニスル故、自ラ別個ノ觀念ナリ、此ノ異ニ依テ、義務及ヒ責任ニ於ケル同異、並ヒニ關係ト異ナル所ナシ、義務ト云ハハ責任カ伴ヒ、責任ト云ハハ、先ツ第一ニ義務ヲ怠レルヲ意味シ、次ヲ生スル、第二ニ義務ト違脱ス、然レ共、責任ト義務トハ、觀念ヲ別ニシ、第一、第二ノ義務ニ對シテ、責任ヲ認ムルコトヲ要シ、責任ノ外ニ第一、第二ノ義務ヲ認ムル必要アリ。

抑々義務トハ認定法ニヨリ、自由ヲ有スルモノカ、其ノ認定法特別ノ要件ニ基キ特定ノ事項ニツキ、自由行動ヲナサントスル、意思ヲ云フ此義務ヲ怠レルトモハ多ク認定法上制裁ヲ伴フ、從テ義務ハ前述セル責任ノ四要件中、第一要件ニ当ル自由ニ舉動スル、自由意思ヲ本質トナシ、多クハ其ノ背後ニ他ノ三要件ヲ包括スルモノナリ。

然ルニ、責任ハ第四要件タル害意ヲ除去、又ハ輕化ヲ引受ケントスル自由意思ニヨリテ他ノ要件ヲ包括シツ、アルモノ致歸スル所、同一人格者ノ意思ナルモ、其ノ意思トシテノ存在ヲ異ニス、若シ此ノ第一義務違反ニ付テ、責任、即チ第一義務ヲ怠レルニ付テ生セル害意ノ除去、又ハ輕化ヲ引受ケル意思ヲ、第一、第二、第三ノ要件ヨリ離シテ独立ノモノトシテ見ルカ、又ハ更ニ生スル第一要件トシテ新ナル、第二、第三、第四ノ要件ヲ包括セシメテ見ルトモハ、第二ノ義務モ亦、第三、第四ノ要件ヲ包括スルコトアルカ故ニ、此ノ義務ニ違背スルトモハ、更ニ第二ノ責任ヲ生スルコトアルヘク、之ノ第三、責任モ亦、第三義務トシテ認メラル、コトアリ得ヘシ。

斯クノ如ク、義務ト責任トハ相連続スルモ、各々其ノ包括スル所ト、其ノ主トスル所トヲ異ニスルカ故ニ、仮令義務ト責任トカ實質ヲ同シクスル場合ニ於テモ、尚一方ノ觀念ヲ以テ他方ノ觀念ヲ廢止スルヲ得ス。

認定法上ノ義務ハ、第一要件ヲ根柢ト認ムルハ勿論ナルカ、第二要件以下ハ特ニ認定法ニテモテ規定セス、社会的事實ノ實際ニ依テ生スルコトアリ

一ニ二
リ、又ハ之等ノ要件ノ規定ヲ欠カサルモノニテモ、義務違背ニ伴ヒテ、第一ノ要件以下ノ要件ヲ豫期スルニ止ル、此ニ反シテ、責任ハ必ス第一以下ノ各要件ノ發生シタルコトヲ現ニ之レヲ第四要件ニヨリ包括シツ、アル事ヲ必要トス、既ニ義務違背ナル故、責任ヲ生スルナリ、
責任トハ既ニ起リシ認定法上ノ害意ヲ除去、又ハ輕化ヲ引受クル意思ナリ、義務ハ其ノ結果カネタ起ラサルモノニシテ、將ニ実行セラルヘキ意思ナリ

第五節 表現法律關係

第一十款 表現人ノ監督及指揮

第一項 監督及指揮ノ概念

人格者ハ必スシモ自己ノ範圍ヲ一定セス、時トシテハ他人ヲ以テ自己ノ延長トナス、從テ概テ自己ノ行動ニ付キ、其ノ責任ニ任スルノミナラス、自己ノ延長タルモノノ自由行動ニ付キテモ、亦其ノ責任ニ任ス、之ニ於テカ之ト相俟テ統轄者タル人格者ハ自己ノ延長タル統轄セラレツ、アル人格者ヲ指揮監督ス、

第一、監督ノ概念

(1) 意義

監督トハ被統轄者ヲシテ、兵ノ屬シ、又ハ表現スル全部ヲ害スルコトナカラシメン為メ、被統轄者ニ對シテ為ス、統轄者ノ行為ナリ、故ニ監督ハ教育其ノ他ノ奨励ヲ性質トスル行為トハ異リ積極的ニ被統轄者ヲシテ、善美ナル行動ヲナサシムルコトヲ目的トスルモノニ非ラズ、先ツ被統轄者ノ自由行動ヲ尊重シ、之レヲ侵犯セサルコトヲ趣旨トシ、喧過談ナカラシムル事ヲ期スルノミニシテ、此ノ場合ノ強談トハ統轄者、並ニ被統轄者ノ相互カ歸一シ、構成、又ハ表現スル全部ヲ害スル虞アルモノ

タルコトヲ要ス。之ノ全部ノ性質、種類ニ應シ。監督ハ或ハ表現人間ノ監督トナリ、或ハ公法上ノ監督トナリ、又ハ私法上ノ監督トナル。及ニ監督トハ必ス統轄者カ統轄セラル。モノニ對シテ行フモノニシテ、統轄關係ニ立ツ人格者ノ對立ヲ要件トス故ニ監督者ハ上級者ニシテ監督セラ。ル。モノハ下級者ナリト云フ。臣民カ國家ヲ監督スルコトモ、帝國議會カ國務大臣ヲ監督スルコトモ、府縣知事カ各省大臣ヲ監督スルコトモ、之レヲ認メ得ヘカラス。社会生活ノ實際ニ於テハ、時ト場合トニ應シ。事實上、各人ノ統轄關係カ絶エヌ變化シツ、アル故。相互ニ或ハ監督トナリ、或ハ監督セラレ、モノニナルト雖モ、認定法上ハ之レニ一定ノ規律ヲ具ヘツ、アル故ニ。此ノ規律ヲ離レテ、認定法上ノ監督關係ヲトフ能ハス。

(2) 種類

監督ニハ表現派上ノモノト、独立法上ノモノトアリ、後者ニハ更ニ公法上ノ監督ト、私法上ノ監督トアリ、表現派上ノ監督ハ、同一ノ普通我ヲ表現スル人格者間ニ存在スルモノニテ、此ノ場合ニハ認定法上一方ノ

表現人カ他方ノ統轄タルコト、從テ其ノ權限ニ付キ更ニ有効ニ全部ヲ表現シツツアルコトヲ必要トス。換言セハ認定法ニ、特定ノ活動事項ニ付キテ、人格者ノ等級別價值ノ差等豫定セラレ居ル場合ニ上級表現人カ其ノ下級表現人ヲシテ、其ノ權限ノ行使ニ過誤ナカラシムル高メニ下級者ニ對シテ行フ作用カ、表現人間ノ監督ナリ。而モ、臣民ハ悉ク皆國家ノ表現人ナル故、國家カ臣民ヲ監督スル背後ニハ必ス其基礎トシテ、表現人間ノ監督ヲ伴ハシム。

公法上ノ監督ハ、全一者自身カ其ノ構成分子タル独立人ト全部對部分ノ關係ニ於テ相對立シ、自己ノ構成者ヲシテ、過誤ナカラシメントスル行動ナリ。例ヘハ國家カ自治団体ヲ初メ、民事商事、会社、其ノ他、人民一般ニ對シテ其ノ誤ナカラシメント期シテ行フ權力ノ行使、並ニ其レ以外ノ行動ハ皆、公法上ノ監督ニ屬ス。私法上ノ監督、即チ全部相對者間ニ於ケル監督ハ以上ノモノト其ノ趣ヲ異ニシ、第一級ニ於テハ、各自ヲ屬シ、又ハ表現スル全部ヲ見サルノミナラス、相對立スル人格者ニ延長關係ヲ認ムルヲ得サレ共、第二級ニ於

ラハ第三者ニ対シテ必ス、相互ノ合一スル全部ノ存在ヲ成立セシメ、且相互ノ間ニ延長關係及ヒ統轄關係ヲ有シツ、アリ、故ニ尙ホ監督タルヲ失ハス、蓋シ監督ハ元ト表現法上及ヒ公法上ノ觀念ナリ、私法上ニ存スル監督ノ觀念ハ之レヲ拡張セルモ、外ナラス、斯クノ如ク監督ニハ種種アレ共、其ノ或ル者ハ、特別ニ相伴隨シ、或ハ表象ス、例ハハ、天皇ト治他表現人及ヒ治他表現人相互ノ間ノ監督ハ国家ト官吏トノ間ノ公法上ノ監督ト相伴ヒ、治他表現人ト自治表現人トノ間ノ監督ハ国家ト人民トノ間ノ公法上ノ監督ト表象ス、

第二、指揮ノ概念

指揮ハ統轄者カ、統轄セラル、モノニ余シ統轄ノ意思ヲ遂行セシムル働ナリ、或ハ作爲ヲ余シ、或ハ不作爲ヲ余スルモ、共ニ積極的ニ活動ノ内容ヲ示シ実行ヲ要求スルモノニテ積極的ナル監督ト同シカラス、指揮権ト監督権ト同一人ニ屬スル場合ニ於テモ之等ノ双方ヲ混同スヘカラス、

第三、干渉

指揮モ、監督モ、嚴格ニ干渉ト區別スルヲ要ス、干渉トハ、指揮、又ハ監督ヲ蒙ヒテ非ナルモノヲ云フ、故ニ干渉ニハ統轄者ヲラサルモノカ、統轄者タルカ如ク、其ノ自由カヲ以テ他ノ自由行動ヲ制スルモノアリ、

或ハ統轄者タルニモセヨ、其ノ权限外ノ事項ニ互リ、又ハ認定法ニ全部ヲ害スル虞レナキ行動ニ対シ、監督権ヲ濫用スルヲ云フ、

人格者ハ、表現人タルト、独立人タルトヲ問ハス、干渉ヲ爲ス権利ナク而シテ干渉ヲ甘受スヘキ義務モ亦ナシ、

但シ如何ナル場合ニ統轄カヲ有スルマ、何事カ权限ニ屬スルマ、適法ナルマ、又ハ或ル行為カ全部ニ対スル害悪ノ防止トナルカハ、結局認定ニ屬スルカ故ニ柱メテ後述ナリ、而シテ原則トシテ、最後ニ有効ニ之レヲ認定シ居ルモノハ、表現人間ニ於テハ上級表現人ナリ、独立人ノ間ニテハ國家ナリ而モ全然之レヲ上級表現人、又ハ國家ノ認定ニ放任シ置クヘキモノニ非ラ

サレリ故ニ。認定法中、此ノ種ノ認定ニ關シ一定ノ規律ヲ置ク。
 認定法ノ牽連ハ表現人間ノ監督ノ牽連及ヒ独立人間ノ監督ノ牽連ヲ要求
 スルモ、各人格者間ノ^{監督}牽連モ亦其レヲ規定セル認定法ノ牽連ヲ前提トス。
 指揮権ニ監督ハ總括セラレ、人格者ノ自由ヲ尊重スルニヨリテ存在ス。
 上級表現人トシテ下級表現人トシテ各々侵スヘカラサル権限ヲ有シ此ノ権限
 ニ付キ、存在スル、各別ノ表現人ナリ。上級表現人、故ナリ下級表現人ノ
 権限ニ干渉シ、又ハ、下級者ノ事務ヲトリテ行フ能ハス。

第二項 行政官廳ノ指揮權及監督權

第一 總說

國家カ其ノ分子タル人民及各種ノ団体ニ對シテ爲ス指揮及監督ハ甚々復
 雜ニシテ行政行為ノ大部分ヲ占ム表現人間ニ存在スル監督ハ表現人ノ總テニ
 渡リ存在スルモ行政官廳ニ對スル監督ヲ以テ其最モ顯著ナルモノトス而シ
 テ表現人ニ對スル指揮ハ特ニ國家ノ自由カヲ表現スル行政表現人ニ付キ顯

著ナレトモ道理又ハ需要ヲ表現スルモノニ對シテハ認めラレズ、蓋シ國家
 ノ自由カヲ表現シ政策ヲ定メ認定法ヲ利用シテ活動スルコトヲ主トスルモ
 ノハ自由カノ性質トシテ總テ自由カニヨリ統一セラル、コトヲ要求ス自
 由カハ各自ノ内部ヨリ察スルト共ニ更ニ總括的ナル自由カニヨリ統一セラ
 ルヘキモノナリ此ト異リ道理ハ本来一ニ歸スヘキ性質ノモノニテ需要ハ各
 自之ヲ異ニスルノミナラス異ルマ、ニ此ヲ主張スルコトカ大切ナリ故ニ道
 理モ需要モ自由カニヨリ左右セラレサルコトヲ要求トス彼ツテ國家ノ自由
 カノ表現ヲ制限トスル表現人ハ其官廳タルト其狹義ノ補助表現人タルト實
 行表現人タルトヲ問ハス其表現人ノ内部ヨリ湧キ出ス第一事實タル自由カ
 ヲ長認スルト同時ニ必ス自由カニヨリ此ヲ總テルコトナケレハナラズ理法
 又ハ需要ノ何タルガヲ表現スルモノ認定法ヲ辯解シ法ノ保持ヲ職トスル表
 現人ハ其団体タルト單純人タルトヲ問ハス上級者ノ指揮ヲ受テサルヘキコ
 トヲ性質トス例ヘハ審議表現人學官教官技師官、如キハ之ナリ行政表現人
 間ノ指揮監督ハ行政官廳ノ間ニ於テ特ニ著シ行政官廳ハ各々特殊ノ事項ヲ
 活動ノ範圍トシテ相互ニ保障スルノミナラス、其ノ権限ノ大小及表現程度

ニ高下ノ分担アリ此ヲ以テ相保障ス而モ亦キ权限ト高キ表現力ト有シ他ノ多数ハ行政官廳ヲ統ヘ此等ノ認定ヲ統一調和セシム且國家ヲ富スル如キ課十カラシムルハ上級行政官廳ナリ行政官廳ノ發達セザルニ當テハ指揮監督ト干渉トノ區別ナク從テ下級官廳ト上級官廳ノ意思ヲ執行スル器具概テ區別ナシ從テ行政表現人格者ノ觀念ナシ稍々違テ此ニ兼然タル意思ヲ認ムルニ至リテモ、單ニ上級者ノ意思ノ成立及奉動ヲ補助スルニ過キストセラレシ間ハ表限責任ノ主体ニ非ス從テ行政官廳ニ非スシテ補助有以上ニ出ラス

行政官廳ノ指揮監督ハ國家ニ非ス上級官廳ナリ此ノ上級官廳ヲ補助スル行政表現人ハ多々マレト、之等ノ表現人カ直接ニ下級官廳ヲ指揮監督スルニ非ラス、例ヘハ府縣知事ハ國家ニヨリテ監督セラル、ニ非スシテ各省大臣ノ指揮監督ヲ經テ各省次官局長カ、府縣知事ノ指揮監督者ニアラス、各省大臣カ府縣知事ニ對シテ指揮監督スルヲ補助スルノミ

第二 指揮權

上級行政官廳ハ其ノ政策ヲ統一シ又ハ其ノ要求ヲ実行スル爲メニ下級官廳ニ下令シ得ルヲ通常トス指揮トハ下級表現人ノ权限ヲ探テ上級者自行ノコトニ非ス上級表現人下級表現人ノ权限ニ屬スル事項ニ付キ上級者カ自由認定ヲナシ下級者ヲシテ此ニ從ヒ行動セシムル意思表示ナリ下級表現人ノ事務ノ執行ニ關シ其行爲ノ準據タルヘキ認定ヲナスニ過キス從テ指揮ニ基キ行動スル表現意思ノ主体ハ常ニ命令ヲ受ケタル下級表現人自身ナリ而指揮ニハ特定ノ下級表現人ノ向ヒテ以テ察スル解答モアリ或ハ伺ヲ待タズ察スル命令モアリ前者ヲ特ニ指令ト云ヒ後者ヲ訓令ト云ヒ又此等ノ概括テ指令トモ云フ廣義ノ指令ニハ一般的法則タル指図タルコトモアル可ク事務ノ一級方針ニ關スル指図タルコトアルヘシ法令ノ解釈運用ニ關スルコトモアルハシ、イソレニモセヨ訓令ハ表現人間ニ於ケル意思表示ニテ表現人間ニ效スアルニ止リ直接ニ独立人ヲ拘束セズ独立人タル人民ハ官廳ノ訓令違反ヲ理由トシテ國家ノ行政行爲ノ可否ヲ主張スル能ハス故ニ訓令ハ公布ヲ要件トセス公布スルト否トハ實際ノ便宜問題ニ過キス又獨立人タル官吏ハ間接ニ訓令ニ準拠スヘシト雖モ此ヲ官吏ニ對スル服務命令ト視スヘキニアラス

訓令ハ上級官廳カ下級表現人ニ対スル指揮ノ命令ナリ下級表現人ハ直接ニ此ニ拘束セラレ當然此ヲ遵守スヘク上級表現人タルカ否カノ疑ナル外自ラ従フヘキカラ決スル餘地ヲ有セス蓋シ下級表現人ハ上級表現人ノ延長トシテ此ト対立スルラ性質トセル故ナリ。アタカモ其政ニ下級者カ上級者ニ意見ヲ述ヘ注意ヲ促シ得ヘキハ明文ノ有無ニ拘ラスモトヨリ為シ得ヘキトコロナリ。

上級官廳ハ一般ニ意見ヲ有ストモ明文上スハ性質上他ノ行政表現人ノ指揮ヲ受ケス行動スヘキ行政表現人アリ此等ノ表現人ヲ権限ノ独立ヲ有スル表現人トイフ

下級官廳ヲ訴訟ノ裁判ヲナスニ当リテハ権限ノ独立ヲ認メラルカ如ク見ユ然レトモ独立ヲ有セス。上級官廳ハ自ラ其事件ヲトリテ裁判スルヲ得ズモ裁判ニ適用スヘキ法ノ解釈ヲ示シ又ハ方針ヲ指図スルハ裝支ナシ。此レ訴訟ト訴訟ノ異ルトコトナリ訴訟カ良ニ上級官廳ニ提出シ得トイフコトハ上級官廳ノ下級ノ訴訟官廳ニ指揮シ得ストノ理由トハナラス。

第三 監督権

上級官廳カ監督権ヲ有ストイフハ下級表現人ノ権限ヲ以テ直ニ自己ノ権限トナシ得ル義ニアラス下級官廳ノ故ナルヲ以テ其ノ下級表現人ノ権限内ノ事項ヲトリ自ラ此ヲ行フコトヲ得ス其ノ下級官廳ニ委任セル事項トモ委任ニヨリテ受任者ノ権限ニ移ル故委任ヲ取消セム限リ委任官廳自ラ其事ヲ行フヲ得ス而モ立法上下級官廳カ其権限ニ属スル事務ヲ行フヲ得サル事由マル場合ニ限リ上級官廳カ其事務ヲトリ行フコトヲ定ム得サルニ非ス之レ非常監督ナリ我現行法ニハ斯ル非常監督ヲ規定セス監督ト云ハハ常ニ通常ノ監督ヲ行フヲ意味ス監督ニハ一般監督マリ特別監督アリ一般又ハ特別ノ行政事務ニ関シ特定ノ下級官廳ヲ有スル官廳ハ一般ニ監督ヲ行フコトカ出来ル且指揮シ得ルヲ通常トスルモ特別ノ行政事務ニ関シ且ツ一般ノ官廳ニ対シテ監督権ヲ行フ官廳ハ唯テ特別ノ監督ヲ行ヒ得ルノミニテ其上級シテ指揮スルヲ得ス一般監督ヲ行フ官廳ハ特定ノ下級官廳ニ対シテ居ル故上級官廳タルコト一見明瞭ナリ而モ特別監督ヲ行フ官廳ハ一般ノ官廳

ニ対スル故監督事項ニ関シテハ上級者タルニモ拘ハラズ之ヲ特定ノ官廳ノ
上級官廳ト觀念セラル。必要ナシ例各省大臣ハ府縣知事ニ対シ府縣知事ハ
部長ニ対シテ特別上級官廳タル故一般監督ヲ行フ会計検査院及行政裁判所
ハ一般官廳ニ対シテ特定ノ事項ニ限リ特別監督ヲ行フ今次ニ一般監督ヲ就
明ス此ヲ三種ニ分ツ

第一種、公益及認定法ヲ保持スル爲メノ監督

此種ノ監督ハ或ハ上級官廳カ自ラ行ヒ行政処分ヲ受ケタルモノ、請求ヲ
俟テ行フ

(1) 行政官廳ノ能動的ニ行フモノ監督官廳ハ其下級官廳ノ命令又ハ処分ノ
正規ニ違ヒ又ハ公益ヲ害スルモノアリト認ムルトキハ事後ニ於テ其行動
ノ全部又ハ一部ヲ取消シ又ハ効力ヲ停止セシムルコトヲ得取消ノ命令又
ハ処分ノ効力ヲ既往ニ遡リ消滅セシムルヲ云フ停止トハ單ニ一時命令及
処分ノ効力ヲ中断セシムルノミニテテ中斷解除ト共ニ其効力ヲ回復セシム
ルモノヲ云フ此場合ハ監督者カ自ラ追テテ取消又ハ停止スルモノニテ當
該行政官廳カ自ラ取消又ハ停止セシムルモノニ非ス下級官廳ハ場合

ニヨリ自ラ其行爲ヲ取消又ハ停止シ得ヘク監督官廳モ亦此ヲ指揮シ得ヘ
シト虽モ此等ハ此所ニ述ヘツ、マレ監督作用トシテ行ハレ、モノニ非ス

(2) 上級官廳セテ動的ニ行フモノ上級官廳ハ下級官廳ノ処分ニ受ケケモノ
ヨリ処分ノ違法又ハ不当ヲ事由トシテ取消又ハ変更ヲ乞フタメ提供セラ
レタル訴被ヲ請求ス此種ノ請求モ亦下級官廳監督方法ノ一トシテ存在ス
ルモノニモリ

二種 権限ヲ保障スル監督

上級官廳ハ又下級表現人ノ権限ノ範圍ヲ明確ニシ相互ニ其权限ヲ侵犯ス
ルコトナク其範圍ニテ自由ニ活動シ得セシムル爲メニ監督権ヲ行フ之レカ
高メニ

(1) 越権行爲ノ取消停止ノ爲、上級官廳ハ下級官廳ノ命令又ハ処分ノ其
限ヲ越エタルコトヲナシタルトキハ命令又ハ処分ヲ取消又ハ停止スルコ
トヲ得、此場合ハ必ス違法ノ問題ナルモノ不当ノ問題ニ非ス

(2) 主管爭議ノ裁決権、行政官廳ハ数多ノ官廳ノ权限ニ干渉スル事件ニ付
テハ相互ノ協議ニヨリ其所屬ヲ決シ協議ナラサルトキハ上級官廳之ヲ裁

次ハ上級官廳ハ下級官廳ノ間ニ起レル積極的又ハ消極的主管爭議ヲ裁決
 ス積極的爭議トハニ以上ノ表現人カ同一事項ヲ以テ各々自己ノ权限ニ屬
 スト主張スル事ヲ消極的主管爭議トハ同一事項ヲ各自ノ权限ニ屬セス
 ト主張スル結果其所屬ナキニ至ル事ナリ一旦爭議セル官廳カ其ノ一般監
 督ニ付テ上級官廳ヲ同シクセサルトキハ双方ノ上級官廳ノ協議ヲ以テ決
 スヘク協議調ハサルトキハ更ニ共同ノ上級官廳ノ裁決ヲ乞ハネハナラヌ
 行政官廳ハ其ノ一般監督ニ付キテハ統括制ヲナシテ存在シ最高ノ行政官廳
 ハ各省大臣ナリ若シ各省大臣ノ間ニ主管ノ事ナルトキハ協議ニ於テ決ス
 尚上級官廳ト下級官廳トノ間ニ於テ其ノ事務カ何レノ权限ニ屬スルカノ
 疑起レルトキハ結局上級官廳カ此ヲ認定スヘキモノ故上級下級官廳ノ間
 ニハ主管爭議ヲ生スル餘地ナシ

第三種 下級官廳ノ行動ニ注意シ此ヲ詳ニスル行爲

監督トハ下級者ノ行動ニ注意スルコトナリ其當然ノ結果トシテ上級官廳
 ハ常ニ下級官廳ノ行動ニ注意シ且之ヲ詳ニセズハナラヌ此目的ヲ達スル手
 段トシテ

欠

欠

故ニ受任者カ、第三者ト法律關係ヲ生スルコトヲ委任ノ眼目トスル場合ニ於テモ、第三者カ其相手方ノ受任者タルヲ知ルト否トニ拘ハラズ、其ノ事件ニ付キ代理關係成立シ之等ノ人格者ヲ拘束ス。

第二・表現委任

委任ハ代理ト異ナリ私法生活ニ於テノミナラス、表現生活ニ於テモ性質上存在シ得ヘキモノナリ、此ノ後ノ者ヲ特ニ表現委任ト云フ表現委任ハ一表現人カ自己ノ权限ノ一部ヲ割合ヒニテ下級表現人ニ附与スル一方的行為ナリ。

委任ニヨリ权限ハ受任表現人ニ移転スル故具ノ委任關係ノ存続スル間ハ委任表現人ハ其範圍ニ屬スル事務ヲトリ行フヲ得ス、尚ホ表現委任ニアリテハ、當事者カ表現人トシテ相對立スル故、私法上ノ委任トハ趣ヲ異ニシ其ノ行為ノ結果ヲ委任者ニ移転スルヲ必要トセス、自ラ爲セル表現行為ニヨリ直チニ國家ヲ表現シ、國家活動ヲ成立シ得ヒシムルモノトス、表現委任ハ表現人ノ設定及ヒ其ノ权限ノ附与並ニ官吏任命トハ異ナル之レ

等ノ行動モ建國法上ヨリ見レハ、皆天皇カ輔翼表現人ニ輔翼ノ权限ヲ委任シ給フモノニ他ナラス、然シ行政法上特ニ表現委任ト称スルハ斯ウノ如ク分配力定マル上ニ於テ隨時ニ表現人ノ間ニ生スル關係ヲ云フモノナリ

(1)、表現代理ニアリテハ少クモ本人ト代人トカ权限ノ同一ノ範圍ヲ有スルモノト認メラル、コトヲ要スルモ、委任ニ於テハ之レヲ必要トセス、委任ニヨリテ委任者カ受任者ニ其ノ委任ノ範圍ニ付キ权限ヲ附与スルモノトス

(2)、故ニ受任者ノ行為ノ效力ハ受任者ニ付キ生シ委任ニ及ハス、從テ活動ノ形式ニ於テモ、代理ニ於テハ本人ノ名ヲ以テスルニ反シ委任ノ場合ニハ受任者ノ名ヲ以テス

(3)、表現代理ニハ純然タル法定ノモノアリ、委任ニハ法定ノモノナク、委任者ノ意思ニヨリ成立スル事独立人ノ間ニ於ケル委任ニ等シ、但シ表現委任ニアリテハ、委任者ノ意思アルヲ以テ足レリトシ、受任者ノ承諾ヲ要件トセス

(4)、委任者ハ委任ト共ニ其ノ事項ニ付キ权限ヲ失ヒ、受任者ハ之レヲ獲得

(5) ス
表現人任ハ委任者ノ有セル权限ヲ受任者ニ授与スルモノ故一度与ヘタル以上ハ委任關係ヲ消滅セシムルコトナリ、濫リニ受任者ノ事務ヲトリ行フヲ得ス、從テ本人ノ意思ハ代人ノ意思ヨリ優等ナリト云フ代理ノ原則ハ委任ノ場合ニ適用スルヲ得ス、

(6)、表現委任ハ表現人ノ性質上ナシ得ヘキ如ナルモ既ニ官制ニヨリ定ムル权限ヲ法令ノ根拠ナク任意ニ移転スルコトハ許スヘカラス、故ニ特ニ明文ニ許セル時ニ限り行ヒ得ルモノナリ、法ノ明文ヲ要スト云フコトハ代理ト同シナルモ、其ノ理由ニ至リテハ全然同一ト云フヲ得ス

第三章 行政法上ノ独立人

表現人ハ其ノ权限ト離レスニ存在スルモノナル故、其ノ有スル权限ニ對スル關係ニヨリ特ニ行政表現人ト号シテ前章ノ表現人ト區別スヘキモ

ノアリ、及之独立人ハ权限ヲ有セス、故ニ特ニ行政行為ノ管轄ニノミ屬ス
ヘキ独立人ナリ、特ニ行政行為ト際キ關係ヲ有スルモノニアリテモ、行政
独立人ト呼フハ不當ナリ、而シテ又國法上苟モ独立人ト認めラレツ、アル
モノハ盡ク行政法上ノ独立人タラサルハナシ
今之ノ章ニ於テハ特ニ行政行為ト密接ノ關係ヲ有シ、法學ノ他ノ部ニ於
テ説明セラレサルモノノミヲ精究ス

第一節 自治団体總論

第一款 自治団体ノ性質

自治団体トハ自主権ノ主体タラサル國法上ノ独立普通人ヲ云ヒ、公法人
又ハ公法団体ノ名称アリ、普通人トハ多數人ノ本來ノ一心同体タル事ハ本
來ノ一心同体タルヘキ事實ヲ根據トシ、國法ニヨリ認定セラレタル人格者
ナリ、各独立人ノ自由ニ依リ一體ヲ爲シツ、アル人格者ニハ非ラス、從テ

自治団体ノ意思ハ本來ノ一心タル普通力ニシテ單純ナル集合カト異ナリ、
其ノ目的ハ各個人ノ目的ニ超越シ、其活動ノ特色ハ支配ニアリ、但シ自ら
自主権ヲ有セス、自主権ノ保障ノ下ニ於テナス支配ナリ、

自治団体トハ自治行政ノ主体タル団体ノ義ニシテ、自治行政団体ノ畧稱
ナリ、今其ノ性質ヲ

- (1)、人格者タルコト、
 - (2)、普遍我タル事、
 - (3)、自治権ノ主体タルコト
- 此ノ三點ニ分テ説明ス

第一項 自治団体ハ人格者ナリ

第一目 自治団体ノ人格實在ノ意義

自治団体ハ人格者ナリ、人格者ハ絶対ニ自然ナルモノニ非ラスシテ必ズ

又自己内部ノ認定ト外部ノ認定トヲ成立、存在ノ條件トス、然レ共又絶対ニ仮説セラレタルモノニハ非ラズシテ必ラス、自然ノ事實ニ根拠シ、自然ノ事實トシテ存在スルモノナリ、通俗ニ自然ト云フハ一個ノ肉身ヲ具ノ存在ノ範圍トスル單純人ノ義ニ他ナラスシテ尙ホ認定法上ノ存在ヲ為ス法人ト称スルモ亦多數人ノ一心同体タル事實ニシテ、団体人トシテ自然ノ存在ヲナスト共ニ事實上ノ單純人、団体人タル自然ニ根拠シ之レヲ利用シツテ認定法ニヨリ、其ノ人格ヲ在ラシメツ、アル場合ニ認定法上ノ人格者トシテ確實ニ存在スルニ至ルナリ、要スルニ人格者ト云フ觀念ハ認定法上ノ觀念タルニ止マラス、尚事實上ノ存在ナリ、事實上ノ存在ナレ共、又決シテ認定ヲハナレテ存在スルコトナシ

第一、自治団体ハ其ノ分子タル各個人ヲ捨離シテ存在シ得ハキ人格者ニ非ス、

自治団体カ団体人格者ナリト云フハ、之レヲ其ノ内部ヨリ見レハ單純人ノ集合ト云フ事ナリ、故ニ原始的個人的觀察ニノミ拘泥スルモノハ之等ノ個人ニ超越スル人格ヲ見ルコト能ハスシテ、自治団体ノ人格ヲ以テ

自然ノ事實ニ非ラズトナシ、只個人生活ノ便宜ニ基ク個人間ノ权力關係權利關係ノ集合ニ外ナラズトス、從テ之レヲ唯一ノ人格者ト見ル事ヲ以テ或ハ無用ナリト論斷シ、或ハ認定法ノ擬制ニ外ナラズト弁明ス、蓋シ此ノ思慮カ法律制度ノ背後ニ存スル之レト離レサル自然ノ事實ニ重キヲ置カントスルハ可ナレ共、其ノ卑近ナル見解ニ拘泥スルカ為メニ却テ大イニ自然ノ事實ニ背馳シ之レヲ輕視スルニ至ルハ又点ナリ、

第二、自治団体モ亦創設セラル、カ故ニ人格者トシテ存在ス、
 (一)、認定ト創設

人格者ハ總テ具ノモノ自身ノ内部ヨリスル認定及ヒ長ノ物以外ノ認定ニヨリテ存在スルモノニシテ独リ自治団体ノミニ限リタル事ニ非ラズ、加之人格者相互間ノ活動關係ノ複雜及ヒ性質具ノ目的物、之レヲ規律スル認定法ニ至ル迄一トシテ認定ニヨリテ存在スルニ非ラナルハナシ、吾人ハ認定ニヨリテ自カラ存在シ他ヲ存在セシメ、目的物ヲ創造シ、法ヲ制定シ活動ヲ自由ナラシメ、更ニ之レニ基キ之レヲ利用シテ愈々世界ヲ創設ス世界ハ純客觀的ニ斯クノ如ク存在スルモノニ非ラズ

自治団体モ亦絶対ノ自然事實ニ非ラス、其ノ内外ノ認定ニヨリテ存在スルモノニシテ、之レカ爲メニ其ノ人格ヲ以テ擬制 又ハ、虚構ニ出ツルモ、ト云フヲ得サルナリ、認定ニヨリテ始メテ實在タリ得ルナリ、實在トシテ發生シ確定スルナリ、認定ハ人格者内部ノ、眞ノ存在ノ表現ニシテ之レニヨリ愈々其ノ存在ヲ要ニス、自然事實ノ智識ハ智識界ノ範圍内ニ於テ核リ有效ナルカ如クナレ共之レヲ人生ノ全体ヨリ見レハ一トシテ認定、利用スル道具ナラサルハナク、認定ノ資料タラサルハナシ、故ニ自治団体ノ人格カ絶対ノ實在ナルカ如ク思フモ素朴旧思想タレテ免カレサルモ又、其ノ擬制タルヲ主張スルモ無意味ナリ、先ツ擬制説論者カ認定ニ此ノ種類ノ創設カヲ認メサレハ法ノ擬制ヲ以テ任意ノ虚構トナスヘク、法ノ本質ニ依スヘク、若シ認定ニ此ノ種ノ力ヲ認ムレハ認定ニヨリ人格者ノ實在スル事ヲ認メサルヘカラサルニ至ルヘシ、次ニ絶対實在説論者カ、若シ認定ニ此ノ種ノ創設カヲ認メサレハ變更ニ認定法上ノ、人格者ヲ認ムル必要ナカルヘク、 更ニ進ンテ、認定法、

法律關係等ヲ認ムルコトノ無用ナルヲ論結セサルヘカラス、若シ認定ニ此ノ種ノ創設カヲ認ムレハ人格者外物法則其ノ間ノ關係ト同様ニ自治団体モ亦認定ヲ准レテ只外部ニ存在スル實在ニ非スト言ハサルヘカラス、要スルニ自治団体ノ人格ハ虚構セラレタルモノニ下ラサレハトテ又吾人ノ創設ヲ離シタル純客觀的ノ存在ニモ非ラス、

(2) 普遍的存在

認定ハ無數ノ人格者ニヨリテ行ハルレト、各自ノ偶然ナル認定ハ只其ノモノニ對シテ偶然ナル效力ヲ有スルニ止リ、普遍的ノ效力ナシ認定ノ眞ノ價值ハ宇宙ノ創設作用ノ表現タル處ニ存シ、普遍的認定ト離レサル所ニアリ、各人カ其ノ内部ヨリスル認定ハ必ラス法律生活ノ全部ヲ統一スル普遍的認定ト合セサルヘカラス、人格者カ其ノ内部ノ認定ニヨリ有效ニ已テ創設シ之レニヨリテ世界界ヲ生ミ出サントスルナラハ、其ノ認定モ亦一貫セルモノナラサルヘカラス、外ニ對シテハ天地ノまこと其ノモノニ合シ内ニ對シテハ最高ノ效力ヲ以テ一切ノ人格者ヲモ包含統一シツ、アル普遍的理想ニ根拠シ其ノ保障ヲ有スル認定

ラカレヘカラス、此ノ種類ノ普通の理想ト離レサル普通の認定ニシテ始メテ実在ノ創設者タルヲ得ルナリ、

(1) 自治団体モ亦自然事實ニ基キテ存在スル人格者ナリ、人格者ハ認定ニヨリテ存在スルコトヲ得レ夫、人格者ニヨリ認定セラル、ナリ、兩者ノ向ニ帯ニ本末ノ關係ヲ認メ得ヘクシテ、而モ必ラス一切一時ノ存在タルコトヲ失ハス、人格者トハ認定ノ主体ノ義ニシテ認定ノ主体トハ別、人格者ノ義ニ歸ス、

認定ノ主体タル人格者ハ彼ニ個々別々ナルモノ、ミニ限ラスシテ、又種々、本末ノ一体ヲ為ス各何ノ單純人カ國家ノ内部ニ於テ更ニ幾多ノ段階ノ本末ノ一心同体ヲナス事ハ單純人ニ伴ヒ、之レト離レ得サル根底ノ事實ナリ、

之等ノ國家内部ノ一心同体ハ皆自然事實トシテ實在シ、其ノ内外ノ認定ニヨリ愈々其ノ存在ノ事實ヲ完成ス、外部ノ國家ノミナラス、自カラモ其本末ノ一心同体タル事實ニ基キ之レヲ利用シ愈々一心同体ノ事實ヲ創設シ、事實ヲシテ益々事實ナラシム、斯クノ如クニシテ認

定法上ノ存在ト自然ノ存在トハ相離レタルモノニ非ラス、自然ハ實ニ認定ノ所造ニシテ認定ハ實ニ自然ノ所産ナリ

第二目 自治団体ノ能力

自治団体ハ完全ナル人格者ナリ、事實上人格者ナリ、此レヲ認定法上ノ人格者ナリト云フハ單純人ヲ認定法上ノ人格者ナリト云フト製ナラス、從テ完全ナル意思能力ヲ有シ完全ナル行為能力ヲ有ス

法律上ノ無能力者ハ意思ヲ有セサルニ非ラストスルモ、認定法上ノ者ノ事實上ノ意思ノ不完全ナルヲ認メタルモ、故、單独ニテハ他人ニ對シテ有效ナル法律行為ヲナシ得サルナリ、自治団体ハ無能力者ニ非ス、事實上完全ナル意思ヲ有スルコトヲ認メラル、固ヨリ一定ノ目的ニ付キ存在スル自治団体ハ其ノ目的ノ範圍ニ應シテ其ノ意思能力ヲ有スルモノナルモ斯クノ如キハ決シテ其ノ無能力者ナルコトヲ意味セシムルモノニ非ラス認定法ハ皆自然ノ事實ニ根據シテ法人ノ能力、無能力者等ヲ定ム自然ノ事

一五六
実ヲ願ミス意思ノ有無意思ノ完全不完全ヲ規定スルモノナラス、自治団体ハ事實上完全ナル意思ヲ有ス、此ノ表現人ノ意思カ則チ自治団体ノ意思ニシテ、其ノ表現人ノ行為カ則チ自治団体ノ行動ナリ、表現人トシテ有スル意思及ヒ其ノ舉動ハ則チ自然ノ事實トシテ自治団体ノ有スル意思及ヒ其ノ舉動ナリ、故ニ例ヘハ未成年者ノ如キ無能力者先ツ存在シ其ノ不完全ナル意思ヲ代理スルモノカ有スル独立意思ト根底ヲ異ニス、代理ノ場合ニハ先ツ無能力者ト代理人カ相對立シテ存在シ然ル後或行動ノ範圍ニ付キ代理人カ本人ニ歸一シ本人ヲ補ヒテ行動スル關係ヲ生ス、從テ無能力者ハ、何処マテモ無能力者ナリ、此レニ反シテ自治団体ト其ノ表現者トハ先ツ歸一スルコトニヨリ其ニ存在シ得ルモノナリ、其ノ存在ニ前後ナキヲ性質トス、表現人アル故ニ自治団体アリ、自治団体アル故ニ其ノ表現人アリ、二者相隨レテ存在シ得サルコトヲ本來ノ性質トス

第二項 自治団体ハ普遍我ナリ

第一、自治団体ハ本來ノ一體ナリ

自治団体ハ多數人ノ本來ノ一心同体タル人格者ナリ、普遍我則、普遍人ナリ、普遍我ハ普遍意思ノ主体トシテ支配權ニヨリ其ノ分子ヲ統括ス此ノ真カ自治団体、私法人ト大イニ異ナル所ナリ、私法人モ亦多數人ノ一心同体タル事實ニ根據シテ存在スル認定法上ノ人格者ナルモ、其ノ一心同体タルコトハ、其ノ自身ノ本來ノ要求ナラス先ツ存在スル多數人、各個ノ利益目的ニ基キ、其ノ範圍内ニ於テ假リニ一心同体トナリツ、アルニ過キス、故ニ其ノ人格ハ集合人ニテ其意思ハ集合意思ナリ、固ヨリ單ニ多數人ノ集合ニ止マルモノニ非ラス、其ノ意思モ亦多數意思ノ集合ノミニ非ラサルモ普遍我及普遍意思ト歎スル能ハス、之レニ反シテ自治団体ハ本來ノ全部ニテ各個人ハ本來其ノ分子ナリ、本來ノ全部カ本來ノ分子ニ対スル關係ハ支配關係ニテ本來ノ分子カ本來ノ全部ニ對スル關係ハ奉公關係ナリ、支配奉公ノ關係ヲ規律スル法ハ公法ニテ、公法トハナラス、之レニ存存スル人格者ヲ公法人ト云フ、集合我ハ依リノ全部ニシテ其ノ団体員カ各々

一五七

本系ノ全部者ナリ、数多本系ノ全部者各自ノ意思カ依リニ合成セラレ立歸
リテ各全部者ニ對シ働キカクルカ故ニ一見全部對部分ノ關係ナルカノ如ク
ナルモ實ハ全部相對關係ノ範圍内ニ於テル集合カト共ニ個々ノカトノ關係
ニ外ナラス、各個人ノ利益目的カ常ニ根柢ヲナシ具ノ統括方面ヲナス、從
テ之等ノ關係ヲ規律スル法ハ私法ニテ之レト離レス、之レニヨリ存在スル
人格者ナル故ニ私法人ト云フ、

斯クノ如ク公法人ト私法人ハ人格異レ自身ノ本質ヲ異ニスル故ニ其ノ存
在ニ付キテモ、公法人ハ無期ヲ常トスルニ反シ、私法人ハ有期ナルヲ常ト
シ其ノ能力ニ付テモ顯著ナル差アリ、

(11) 自治団体ハ団体員ノ加入ヲ強制出來ル法ノ定ル如ク從ヒ一定ノ資格ヲ
有スルモノヲ以テ當然其ノ団体員トナシ、得ルヲ云フ、然ルニ私法人ハ
常ニ各人ノ意思ニ基ク加入ト否ト、自由ヲ認メ得ルニ止マル、尤モ自治
団体トモモ、財団法人ノ如ク性質上必ラスシテ、団体員ノ加入ヲ強制ス
ル必要ナキモノアリ得ヘケレトモ私法人ニ至リテハ決シテ強制シ得ル場
合ナシ

(12) 自治団体ハ其ノ分子ノ任意ノ脱退ヲ拒ムヲ得、然レトモ、私法人ハ結
局団体員ニ對シテ其ノ脱退ヲ拒ム力ヲ有セス、加入ノ自由ト同シク脱退

モ亦団体員ノ自由意思ニ基キ行ハレ得ヘシ

(3) 自治団体ハ其ノ分子ノ悉皆ヲ以テ、其ノ自治表現人ノ構成者トシテ居
ルモ私法人ニ付キテハ之レヲ認ムル能ハス、

(4) 自治団体ハ其ノ分子ヲ強要シテ其ノ治他表現人ノ構成者タラシメ得ル
モ、私法人ニハ之ノ權ノ力ナシ

(5) 自治団体ハ其ノ自由決定ニ付キ其ノ分子ノ財物ヲ以テ団体ノ財物トナ
スヲ得ヘク、且ツ自カラ強制徴収ヲナスヲ得、然レ共私法人ト団体人ト

ハ元素全部相對關係ニ立テルモノ故、私法人カ任意ニ団体人ノ財産ヲ以
テ己ノ有ニ屬スヘキコトヲ定メ得タルナリ

(6) 自治団体ト具ノ分子トノ間ニ生スル争ニ付キテハ其ノ事件カ全部對部
分ノ關係ニ屬スルモノナレハ、行政上ノ救済手段ニヨルヲ常トシ、民事

ニヨルヲ要セス、或ハ自治団体自カラ之レヲ決定シ或ハ行政訴訟等ノ手
段ヲ有ス

新クノ如ク公法人タル自治団体ト、私法人トハ具ノ能力種々ノ差アリ、
尤モ自治団体ト雖モ具ノ各極力悉ク以上ノ能力ヲ具備スルヲ要セザルモ
少クトモ具ノ何レカヲ有シ得ヘク私法人ハ此レニ反シ具ノ如何ナルモノ
モ有シ得ス

第二、自治団体ハ多数人、帰一セルモノナリ

自治団体ハ一方ニ於テハ本来各個人ヲ超越スル一體ナルモノ、同時ニ他ノ
方面ニ於テハ具ノ内部ノ各個人カ本来已ラ擴張シ、相互ニ合スルニヨリ存在
ス、各個人ノ任意ニヨリ擴張ヲナス、本来、要求ニ出ツルナリ
本来相離レタルモノニ非ラサルカ故ニ、各自、擴張ヲ必要トスルナリ、
故ニ歴史上見ユルカ方団体ノ總テカ自治団体ト云フモノニ非ラス、少数者
カ強制力ヲ以テ是ノ団体員ニ臨ミツ、アル団体モ団体員全般ヲ以テ具ノ自
治表現人トナシ、之レニ基キ、其ノ治他表現人ヲ定メツ、アルモノナラス
ンハ自治団体ニ非ラス、普遍哉ニハ非ラスシテ、权力服従ニヨリ成立スル
特殊ノ団体ナリ、從テ団体ト云ヒ得ヘクシテ、未ダ団体人格者ト云フヲ得

ナルヘシ、自治団体ハ之レト莫ノ懸キヲ異ニシ、故ニ具ノ内部ニ权力服従
ノ關係ヲ持チ居ル団体ヲ云フニ非ラス、其レ自身カ人格者ナリ、自由成立
ノ要求ヲ以テ自ら支配スル各個人カ本来已ニ拘泥スルコトナク、相互ニ已
ヲ擴張シ、更ニ大ナル人格者トシテ歸一シツ、アルニヨリ、成立存在スル
団体ナリ
之レヲ一言ニシテ云ハ、权力關係ニ団体ヲ加ヘタルモノ、義ニ非ス普
通哉ヲ意味ス

第三項 自治団体ハ自治行政ノ主体ナリ

自治団体ハ自主權ノ主体ニ非ラス、唯自治行政ヲ行ヒ得ルモノニテ自主
団体タル國家ノ自治表現人ヲ構成シツ、アルニ過キス、今此レヲ國家ノ自
治表現人ノ構成者タルコト自治行政ノ主体ニシテ自主權ヲ有セヌコトノニ
莫ニ分説ス

第一目 自治団体ハ國家ノ自治表現人ノ構成者ナリ

自治団体ハ普通我ナルモ自主自足ノ存在ヲナスコトナク、少クトモ必又國家ノ自治表現人ノ構成者ナリ、自治団体トシテハ独立人ナルモ自己ノカニヨリ特色ヲ發揮スルコトカ則チ國家ノ自治ヲ表現スル自治団体カ自己ノ目的トスル事業ハ國家ノ奉還ニ欠クヘカラサルモノニテ是ノ表現人ナリ從テ自治団体カ其リナク、自治表現人ヲ構成シテ活動スルコトハ國家ニ對スル義務ニシテ國家ノ監督ノ下ニ立ツ、但シ斯クノ如キハ概リ自治団体ノミニ限ルコトニアラス、アラユル独立單純人及ヒ独立団体人ニ付キテモ認メラル、所ナルカ、自治団体ハ独立人トシテ特ニ存在ヲ永遠ニシ、其ノ範圍ヲ拡大ニスルヲ通常トスル故之、其カ一層顯著タルナリ、自治団体ハ其ノ存在ヲ永遠ヲ以テ國家ノ自治ヲ表現スルコト特ニ顯著ナリ從テ特ニ嚴重ナル國家監督ノ下ニ立ツ加之自治団体ハ國家ノ自治表現人ノ

構成者タル所以ヲ披展シテ國家ノ自治表現人トシテ行動スヘキ場合アル故此ノ莫ヨリモ本國家ノ特殊ナル監督ヲ受ク私法人モ亦稀ニハ國家ノ自治表現人ノ構成ヲ命セラル、コトナキニ非ラサルヘシト云モ、極メテ稀ナリ、自治団体ノ一部分ニシテ國家ノ監督ノ下ニアリ、國權ヲ持タズ、自ラ國家ノ自治ヲ表現ス、然レモ此ノ莫ノミヲ以テ自治団体ト云フニ非ラス、自ラ國體ノ總テヲ以テ自治表現人トナシ、之レニ基キ存在スル自治表現人ニヨリ自ラ支配權ノ主体トシテ、自治行政ヲ行フヲ必要トス、自治行政ノ主体トシテ、公法上ノ人格者タル公法人ナリ、而モ公法人ハ又其ノ分子ニ對シテモ他ノ自治団体ニ對シテシカノミナラス、國家ニ對シテモ、之レト全部相對關係ニ立チ得ルモノニテ此ノ場合ニハ私法上ノ人格者タル公法人ナリ公法人ト云フ意味ハ其ノ団体人トシテ成立存在ニ又クヘカラサル内部ノ法カ公法タルコトヲ要スル意味ニテ、公法上ノ人格者、則チ公法ニヨリ規律セラル、人格者ノコトニ非ラス

第二目 自治団体ハ自治行政ノ主体ナリ

自治団体ハ自治行政ヲ行フモノナリ、自治トハ自己ノ自力ニヨリテ振振シ兵ノ基礎ノ上ニ国力ニヨリ自己ノ特色ヲ發揚スルコトヲ云フ苟クモ、孤立人格者タル以上ハ兵ノ單純人タルト、団体人タルトヲ選バス兼合人タルト普通人タルトヲ向ハス、皆自治スヘキモノニシテ皆國家ノ自治表現人ノ構成者ナリ、亦ク云ハハ自主団体タル國家モ亦自治者ナリ、然シ、自治行政トハ自治ヨリ選カニ具ノ範圍ヲ決クシ特ニ普通我トシテノ自治ヲ云ヒ尚ホ國家ノ認定及監督ノ下ニ行ハル、自主者ニ非ラサル普通我ノ支配權ニヨル自治行為ヲ意味ス

支配權ノ主体タリ得サル單純人及ヒ兼合人ハ 權ノ下ニ於テ自治スルモ自治行政ヲ行フコトヲ得ス

第一、國法上自治行政ト云フモノハ、人格者カ自力ニヨリ已レテ國家及ヒ上級団体ニ振振シ、自己ヲ監督シツ、自力ニヨリ職ヲ善ヲ助長スル行為ナリ自治トハ何處迄モ自己ノ主觀ヲ主トスルモノニテ其ノ主觀ヨリ出發シ先ツ之レヲ自己ヲ統治スル、更ニ大ナル普通我タル客觀的存在ノツ、バ、

レツ、アルモノタル事ヲ以テ自任シ己ノ主觀ノ發揚ヲ通シテ其ノ普通我ノ第一事實ヲ表現シ創造作用ヲ行フ感ナリ、自治ハ主觀ヲ主トスルモ、振振アル主觀ナリ、唯自己ノ偶然ノ要求ナリ、更ニ大ナル普通我、普通的要求ノ現ハレナリ、普通我ノ普通的第一事實ハ普通我ノ創造作用ハ萬我ノ自治ヲ除キテ認テ得ヘキモノニ非ラス、此ノ普通我ノ存在發達カ則チ其ノ内部ノ団体人及ヒ單純人ノ独立自治ヲ要求セシメテ止マサシムルナリ、而シテ各人格者ノ自治ヲ欲求シテ止マサルコトカ、更ニ統一的ナル普通我ノ發達ヲ表現スルモノニ外ナラス、夫ノ治他表現人ノ存在ノ如キモ實ニ此ノ自治ノ一方面ヲ發揚シテ認定セルモノニテ常ニ其ノ知照ノ自治者カ己ヲ振振シテ自ラ監督スル所以ヲ保障スルコトヲ分担スルモノナリ

各人ノ主觀ハ彼ヲニ唯タ孤立シテ存在スルノミニ非ラス、各級ノ程度ニ於ケル本末ノ一心同體タル主觀ニ歸一ス、此ノ一心タル主觀ハ各自ノ主觀ヲ超越スル大主觀ニテ常ニ各自ノ主觀ニヨリ表現セラレタリ、主觀ニ大小アリテ而モ大小ヲ絶シスニ、存在ニ歸ス、之ノ意ノ大主觀ニヨリ自治スルコトヲ自治行政ト云フ

第二、國法上、自治行政ト云フモノハ、

自カニヨリテ已テ國家及ヒ上級ノ
団体ニ擴張シ自カニヨリ行動スルニ必要ナル内部ノ意思組織ヲ具備シ且
ツ外部ヨリ之レヲ保障スル國家ノ制度ヲ用スルモノヲ指シ、單ニ自己ヲ政
政シ自ラ監督シテ己ヲ美化スルコトハ道徳上、意味ニ於ケル自治ナリ之レ
ニ必要ナル制度ヲ有シ自己内部ノ各種ノ表現人ニヨリテ相互ニ課ナヌコト
ヲ保障スルコト及ヒ國家並上級団体ノ監督ヲ受ケ兵ノ保障ノ下ニ立テ自己
ノ擴張ヲ完成シ得ル制度ヲ具備スルニトカ國法上、自治行政ノ一要件ナリ
自治トハ自カニヨル行動ナルモ外部ヨリ之レヲ保障スルコトハ自治ヲ實
スルモノテナク却テ其ノ要件ナリ蓋シ自ラ己ヲ擴張スルコトハ自己ノ特色
ニ拘充セズ己ヲ公平無私ノ地位ニ置クモノナリ、苟モ自ラ公平無私ノ存在
ヲスルトセハ、他ノ公平無私ナル力ニテ之レヲ保障スルモ、毫モ其ノ妨テ
トナラサルノミナラス、愈々之レヲ完全ナラシム、擴張セハ自己ノ擴張ニ
付テハ自カト他カト力合ハスハ其性質ヲ有シ之ノ合ハニヨリ完成スヘキモ
ノタルカ故ニ他カヲ以テ自カヲ保障スルモ、自カヲ主トシテ見レハ尚自カ
ニヨル自己擴張タルコトヲ失ハス、國家ハ國法上、其ノ外部ニ兵ノ自己、故

擴張ヲ保障スル制度ヲ與メス故ニ自主団体ト云フヘク、自治団体ト云フヲ稱
ス、

第三、自治行政トハ自己ノ支配權ヲ以テ団体實ヲ支配スルモノヲ云フ自己
ヲ國家ニ擴張シ國家ノ監督及ヒ保障ヲ受ケ自カニヨリ其ノ發達スルコト
ハ總テノ人格者ニ共通ナルトコロニテ、故リ自治団体ノミハ限ラス、國家
ノ自治表現人タル限極、上ニ具備成者トシテ自治スルモノハ、特ニ自治団
体ノミニ非ラス、而モ普通意思タル支配權ヲ以テ自治スル所自治行政ノ特
色ヲ有ス

第四項 歐洲ニ於ケル自治団体ノ發達

自治団体ノ性質ハ其ノ歐洲ニ於ケル發達ニ微シテ分析シ觀念スルヲ得、
歐洲ニ於テ國家ノ普通我タル不實カ自覺セラレツ、實現セラレ、ニ込レル
ハ彼ノ立憲制度發達ノ微ニ屬ス、其ノ以前ハ概シテ超越的君主カ其官位ヲ
隨ヒ自カニヨリ人民ヲ服從セシメツ、アリシモノナリ、偶々然ラサルモノ

ハ、共和的ノ小ナル國ニシテ未タ着シキモノニ非ラス、國家既ニ然リ、都
 市ニ非ラサル國內ノ小団体モ亦之レニ類似シテ普通我タルノ自覚及ヒ事實
 ラズキ優カニ諸侯ノ権力ニヨリ統ハラレルニ過キス、自己ノ内部ノ力ニ
 ヨリ自ラ己チ支配セシ都市ハ自己ノ私ニ拘泥スルノミニテ之ヲ監督スル國
 家ノ制度ヲ缺キ普通我タル突アルモノ、自治団体タルノ事實ヲ確證ニセヌ
 而シテ國家内ノ諸団体ハ都市ノミニ限ラス、觀レモ國家中ニ於ケル國家ト
 モ云フヘキモノナリシナリ

國家ノ奉還シ立憲制度ヲ採用スルニ至レルト前後シテ其ノ内部ノ団体モ
 又國权ノ下ニ立チ國权ノ表現者タル普通我、其ヲアクルゴト、ナレリ、斯
 ル奉還ニハ國家ニ對シテモ、自治団体ニ對シテモ一方ニハ団体内部ノ力ニ
 ヨリ自ラ己チ支配スヘキ事ノ自覚並ヒニ事實ノ奉還ヲ必要トヒシム、他方
 ニ於テハ各人ヲ超越セル本末ノ一心同体タル存在ノ自覚並ニ事實ノ奉還ニ
 必要トヒシム、而シテ此ノ兩方面ノ奉還ハ當然ニ國家内部ノ団体ヲシテ國
 家ノ表現者ノ構成者タルヘキコトヲ自覚シ、實行セシム、団体の内部ノ力
 ノ奉還ニ重キヲ置キ、自治制度ヲ奉還セシメタルハ英ニテ各人ヲ超越セ

ル団体ニ重キヲ置キ自治制度ニ貢獻セルハ政大政ナリ、

第一、英國ト權力内在ノ思想

英國ハ既ニ政大政ニ元々超越的若權ニヨリ國家ノ統一ヲ成シ得タレ夫早
 タヨリ或ニ建ミテ内政的權力ノ奉還ヲ要求シ、大ハ國家ヨリ小ハ地方ニ至
 ル迄人民ノ責任ヲ以テ統治セラルヘキコトヲ主張シ着々實行ノ多ヲ進ム、
self government 之レニ於テ起ル *self government* トハ今日
 ノ自治行政ト同シカラス、君主及ヒ官僚ノ支配ニ對シ、責任官民ニ非サル
 人民ヲシテ公事務ヲ行ハシムルヲ以テハ、詳説セハ一般人民トシテ國权ノ
 下ニ立チ其ノ特色ヲ察揚シ、アルモノ、中ヨリ之等ノ者ヨリ選ハレタレ
 名譽職支負ヨリ、又ハ其ノ參與ニヨリ行フ國权ノ行動ヲ意味ス、之等ノ參
 与者ハ君主及ヒ官僚ニ對シ各權ノ成立シ得ヘキ條件ヲ有シ、國权ノ内在
 人民自治ノ實ヲアフルヲ得セシメタリ、之レ自治ハタ、ニ中火及ヒ地方ニ
 於ケル行政行為ニ付テ行ハレタルノミナラス、立法行為、司法行為、領域
 ニモ行ハル、國會議員ノ立法行為ニ於ケル、陪審員ノ裁判行為ニ於ケルハ

皆之ノ例ナリ、

斯ク、如ク英國ニ於テモ十九世紀ノ始ノ迄ハ國法ニ從ヒ名譽職ニヨリ行ハル、國家行政ヲ指シテ自治トスヒ、未ダ嚴格ナル意味ニ於ケル自治行政ナカリシカ第十九世紀前半ノ思潮、並利度ノ改革ニハ其ノ内ヨリ純然タル自治行政ヲ發生セシメ、爾後次第ニ自治團體カ其ノ支配權ニヨリ行フ自己ノ行政タルコトヲ意味スルニ至ラシム

同世紀ノ後半ニ於テ英國行政及ヒ自治ノ學理的的研究者トシテ卒老若タリシ故ノ *great* カ自治ヲ以テ地方稅ニヨリ使用支辨シ國家ノ法律ニ從ヒ名譽職ニヨリ行ハル、郡市町村ノ行政ナリトセシモ次第ニ進歩セル英國新自治行政ノ觀念トミナスヲ得ス

第二、政大陸ト團體的自治ノ思想

政大陸ニテハ近世ノ初期ニ至リテモ尚ハ……國家中國家アルノ狀態ニテ近世の國家ノ成立ハ遂カニ英國ヨリ後レタリ、郡市及ヒ貴族、大地主ハ國權ノ監督ヲ離脱シテ自ら地方ノ小團體ヲ始メシコトヲ詠リ貴族大地主ハ

自己ノ權力ニテ人民ノ服從ヲ強要スルコトヲ常トセリ、此等ノ諸團體ヲ以テ或ハ國家ノ監督ノ下ニ置キ、或ハ國家ノ一地方行政區域トセルハ國民外ニ超越セル專制君主ノ功績ナリ、從テ國家ト其ノ内部ノ團體ト之等ノ團體ト其ノ團體員トモ唯タ權力服從ノ關係ニ於テ結合シツ、アリシ傾向ヲ有シタリ、然シ第十九世紀ノ開明專制思想ニ次キ第十九世紀ノ始メマテニ勃興セル民主主義ノ思潮ハ一方ニ於テハ專制國家ヲシテ立憲制度ヲ採用セシメ他方ニ於テハ小團體獨立ノ精神ヲ嚆化セシメ自治團體建設ヲナサシム、之レニモ拘ラス國權及ヒ各小團體ノ權力ハ之レヲ英國ニ比スレハ尚ホ外部ニ超越セル傾向ヲ有ス、佛國ハ政治上ノ自由ニ熱望セルモ、開明專制君主ノ實ヲ掃ケタル *Napoleon* 第一世ニヨリ行政統一カ企圖セラレシノミニテ自治行政ノ充分ナル發達ヲ見ス、今日ニ至ル迄、依然トシテ其ノ中央集權ノ影響ヲ受ケツ、アリ

故乙國ニ於テハ第十九世紀ニ入りテヨリ直子ニ自治制度ノ確立ニ多大ノ力ヲ注ケルモ、其ノ國家ノ監督ノ下ニ成立自存ヲナス地方團體カ浴ホク其ノ團體員ノ力ニテ行政スルニ至レハ漸ク十九世紀ノ終リナリ、而シテ英

國境ノ权力内在ノ思想ヲ以テ故ニ自治制度ノ改善ニ勉メシ學者ハ *quasi* ナリ

悉レトモ試リ団体自治ノ思想モ又英國ヲ刺戟シ彼レノ自治制度ヲ完成セシノ長ノ地方団体、地方議會ヲ牽連セシメタリ

之レヲ要スルニ自治行政トハ國內内部ノ普遍我カ國家ノ監督ノ下ニ於テ自ラ己ヲ擴張シ其ノ基礎ノ上ニ自力ニヨリ己ヲ支配スルヲ云フ、從テ少クモ英國ノ权力内在ノ思想ト、拙ニ等ノ団体自治ノ思想トヲ欠クヲ得ヌ又國政排斥ノ沿革ヲ脱シ、完ク國家監督ノ下ニ立テ國家ノ表現人トナリ、存在スルヲ要ス

自治団体ハ支配権ノ主体タル故ニ団体人ナルモ國家ノ表現人ヲ構成スルト共ニ、其ノ団体人ヲ以テ己ヲ表現セシムルコトヲ其ノ性度トナスヘキヲ云フ

第二 自治団体ノ種類

自治団体ハ自治権ノ主体タル普遍我ナリ、然ルニ此ノ種ノ人格者ハモ人格ノ成立要素カ相互ニ主トナリ、被トナリ、或ヒハカクテ或ハ現ハルノ關係ニヨリ、種々ノ類別アリ、其ノ主ナルハ人格者ノ内部ノ成立要素ニ關スルモノナリ

第一項 社團公法人及財團公法人

公法人即チ普通人ニモ又私法人則チ集合人ニ於ケル如ク社團財團ノ二種ヲ認ナルヲ得、財團トハ人格者ノ内部ノ成立要素中ノ客觀的要素ヲ主トナシ此ニ對スル主觀的要素ヲ從トセシ場合ニ存在スル団体人格者ナリ社團トハ其ノ反對ニ人格ノ内部ノ成立要素中ノ主觀的要素ヲ主トシ此レニ對スル客觀的要素ヲ從トセル場合ニ存在セル団体人格者ナリ、

而シテ其ニ一要素ノミヲ撰取シテ他ヲ排斥スルモノニアラズ、唯ソノ何レヲ主トシテアヲハス力從トシテカクスカヲ同シクモ又ノミナリ、而シテハ団体人格者ニ社團財團ノ別ノ存在スルコトハ自然事實上ノ要求ニシテ認定

法ハ此ノ事實ニ根拠シ凡テ利用シテ認定法上ノ社団ヲ創設スルニ外ナラズ
 抑モ人格者ハ自己内部ノ要件ト自己外部ノ要件トヲ具シ候ヘドモ
 タル存在ニヨリ統一融念セシメツ、アルニヨリ存在ス、換言セハ一切ノ外
 物ノ利益タリ包蔵者タリ創設者タルニ至ルト同時ニ存在ス、此ノ場合ノ自
 己ノ内部ノ成立要件ニモ終局スルトコロ主觀的要素ト客觀的要素トアリ、
 主觀的要素トハ精神的存在ヲ云ヒ客觀的要素トハ物質的存在ヲ云フ、然ル
 ニ此ノ主觀的要素中ニモ亦重ネテ主觀的方面ト客觀的方面トヲ具備スハク
 此ニ対スル物質的存在タル客觀的要素ヲモ更テニ客觀的方面ト主觀的方面
 トニ分析スルコトヲ要ス、然ルニ社団法人ハ人格者ノ内部の要件中、主觀
 的要素ヲ主トシテ具人格ノ性質及範圍ヲ定メツ、アルモノニシテ客觀的要素
 而テ無用トスルニ非サルモ單ニ從屬ノモノトシテ認ムルニ過ヤス從テ社団
 ニアリテハ具ノ団体人ノ範圍ヲ明確ニシテ物ノ性質並ニ範圍ハ人ニ伴ヒテ
 定ル、之レト趣ヲ異ニシ社団法人ハ人格者ノ内部の要件中其ノ客觀的要素
 ヲ表面ニ現ハシ主觀的要素ヲ背部ニカクシテ存在スルモノナリ、故ニ物ノ
 範圍性質ヲ明瞭ニスルモ団体員ノ範圍ヲ特定セズ唯僅力ニ団体ノ役員及ヒ

財物ノ利用者ヲ以テ財団ノ主觀的要素ト認ムルニ止ル但財団ノ中心タル財
 物ハ單純ナル物質ヲ云フモノニアラス設定者等附者等ノ意見ニヨリ性質及
 範圍ヲ定メラレツ、アルモノヲ云フ、故ニ人格ノ内部の要件ノ客觀的要素
 中、主觀的方面ニ重キヲ置キ認メラル、モノナリ、設定者等ノ意見ヲ離レ
 テ存在スル財物數ニ認定ヲ除キ認識セントスル財物ニ非ス、財団法人ノ中
 心タル物ハ唯ノ財物ニ非ス認定法上ノ財物ヲサレハカラス、認定法上ノ
 財物タルノミナラス設定者等附者又ハ此ニ準スルモノ、意思ニヨリソノ性
 質範圍及使用目的ヲ特定セラレ爾後ノ此ヲ是認スルモノタルヲ要ス而シテ
 財団ノ役員及此ヲ使用スル不特定ノ人々モ亦總ニス其意思ヲ財団設定者ノ
 意思ニ合一セシメツ、アリテ社団ニ於ケル如ク財団員ノ自由意思ニ基キソ
 ノ財物ヲ使用処分スルヲ得ス、故ニ歸スル如ク財団設定者ノ意思ノミニヨ
 リ財団ノ使用目的等力定マリツ、アルニアラズ役員及ヒ使用者ナトノ多數
 ノ人々カ總ニス此レヲ實現スルコトヲ要シ設定者ノ意思ト此等ノ人々ノ意
 思トノ合一スルトコロニ財物ノ成立要素タル意思ヲ認メ得ルナリ、換言セ
 ハ、財団法人ノ主要ナル要素則ケ客觀的要素中、主ナル主觀的方面ハ設定

者、意思ニヨリ統治セラレツ、アル級貸用者等ノ意思ナリ、斯クノ如ク
ニシテ一定セル財物カ財団法人ノ中心ナリ、財物別法人ナリ、財物カ財団
法人ノ存在ヲ表現ス、然レトモ財団法人財物タルニ非ス人格有テルコトハ
独リ財産ノミヲ存シテ其内部的要件中ノ主觀的要素タル人的要素ヲ欠クコ
トハ出来ズ財団ノ不特定ナル使用有及ヒ具ノ級貸力此ノ人的要素ナリ、財
団法人ニアリテハ主觀的要素カ幾タル地性ニ立ツ故ソレ自ラ一定セル財団
人ヲ有セザルノミ、之レト同時ニ財団法人ハ又団体意思ヲ欠クコト能ハス
シテ其意思モ尚全然財団自身ヲ超越シテ外部ニ存在スルモノニ非ス、財物
ソレ自身カ其ノ内部ノ成立要素トシテ設定者ノ意思ヲ包含スルノミナラス
財団ノ人的成立要素タルソノ級貸及ヒ不特定ナル使用有、意思カ設定者ノ
意思ヲ實現シツ、アルコトヲ要ス財団ニ内在セル設定者ノ意思カ之等ノ人
々ノ意思中ニ生キ之等ヲ意思ヲ通シテタラキツ、アルモノ級貸タルニ財団
ノ意思カ財団外ニ存在スルモノト云フヲ辨ス若シ財団外ニ存在セハ財団ヲ
以テ人格有トスルコト不都合ナレハク然レ自自治団体ト認メ得ハキモノニ非
サレハシ

社団ニ在リテハソノ存在ノ中心トシテ常ニ確定セル団体員ヲ有シ、団体
員ハ凡テ、アル程度ニ於テ団体ノ意思ヲ表現シ得ルモノトシテ社団ノ団体
意思ハ其ノ団体員ノ意思ニヨリ表現セシムルヲ不悞トス、從ツテ其ノ団体
意思ノ内在的ナルコトハ最モ顯著ナリ、社団財団ノ異同ハ以上ノ如クナル
カ公法上ニハ両方ヲ兼テ具ヘテ、アルモノモアリ社団法人ノ著シキハ公
共組合ナリ、財団公法人トシテ、アルヘキハ神社ナリ、而シテ社団、財団兩
者ノ性質ヲ兼テ合ハセツ、アルハ地方自治団体ナリ

第二項 地方自治団体及ヒ公共組合

第一 地方自治団体

地方自治団体トハ一定ノ土地ヲ標準トシテ定マリツ、アル多數人ノ本系
ノ一心同体ヲ云フ、地方自治団体ニモ或範圍ノ人民カ本系ノ一心同体ヲナ
スニヨリ存在スルモ其ノ人民ノ範圍ヲ定ムルニツイテハ土地ヲ要件トシ一

定ノ地域ニアル人々カ時ト知トニ通シテナシツアル一団ナリ地方自治団体ハ社団ト同時ニ財団ノ性質ヲ兼テ備ヘ而モ之等ノ何レニモ超越セル公法人ナリ

先ツ地方団体ハ設定者ノ認メタル一定ノ土地ヲ主トシテ存在シ現ニ存在スル一定ノ団体負ノミニ重キヲ置クモノニアラズ其ノ土地ニアリテ一定ノ要件ヲ具備セルモノハ當然ソノ団体負トナルノミナラス、偶々其土地ニアリテノモ尚臨時ニソノ一分子ニ準セラレ其支配ノ下ニ立ツ而シテ此土地ハ居住ニ必要ナル空間ト財物トノ性質ヲ兼テ其ノ公有物ニテ其上ニハ私法上ノ所有物モ公法上ノ公用物モ成リ立子ツ、アルモノナリ、此ノ其ニ於テハ財団法人ノ性質ヲ有ス、次ニ自治団体ハ一定ノ土地ヲ不特定ノ人々ニ使用セシメ之ニ対シテ支配権ヲ行フニ止マラス特定セル団体人ヲ有シ団体人ハ自由ニ加入又ハ脱退シ得又ハ勿論之等ノ人々ノ本来ノ一心同体タルコトヲ其本質トス、故ニ社団ノ性質ヲ欠カス、預カモ之等ノ団体負カ其他域外ニ移住スルハ自由ニテ此ノ専断ニヨリ当然ソノ団体負タル資格ヲ失フ人ハ亦リ人ハ去ルモ其リ是マルモ、ハ其土地ナリ、故ニ財団ニ似ル、但シ一定

ノ土地ヲ劃スルハ之ニヨリ人ノ範圍ヲ劃スル趣旨ニテ人ノ不特定ナル範圍ニ満足スルモノナラス故ニ社団ニ類ス、要スルニ社団ヲ排斥シテ認ムル財団ニ非ヌ又財団ヲシリソケテ認ムル社団ニ非ヌ之等ノ形式ニヨリ制限セラヌ、双方ヲ含ミ且超越セル莫ニ根本的概念的ナル公法人ナリ

(1)、地方自治団体ハ人ヲ主トシテ一心同体タルコトヲ認ム土地ノミヲ主トシテ人ヲ從トスルニ非ラス、例ハハ歐ノ中世及近世ノ初期ニ在リテハ土地ノミカ主要ノ地位ヲ占メ人民ハ土地ノ附屬物ニシテ地方団体ノ實ハ聚落ニシテ大地主ノ家産ト認メラレシコトカムシ口通例ナリモ現今ノ自治団体ト称スルハ普通人ニシテ人ヲ以テ主腦トナス

(2)、地方自治団体ハ人々ノ特定セル範圍ヲ中心トシテ存在シテ居ルソノ一心同体ナリ、然シ其人ノ範圍ニ定マル主タル要件ハ一定ノ土地ナリ生活ノ各方面ニ於テ使用スル土地及居住ニ必要ナル土地ハ平等ナル皇國臣民中ニ付キ特定ナル本系ノ一心同体ヲ區別セシムル要件ナリ、人民各個カ相互ニ不平等ナリシモノト認メラレシ時代ニハ屬人主義行ハレ同一ノ地域ニ居住スルモ之レニヨリ当然一団ヲナスヘキモノ及ヒナシツ、アルモ

同体トシテ私利事業ヲ行ハサルヘカラサルコトニ歸着ス、此ノ公共組合ハ
例ヘハ此ノ外ニ北海道工組合、商業會議所、農會、耕地整理組合等アリ

第三項 成立原理ニ基ツテ自治団体ノ種類

自治団体モ亦人格者ナリ、其成立要素ヲ審査スルトキハ極メテ複雑ナリ
殊ニ団体人格者故之レヲ單純人ニ比スルトキハ一屬錯綜ス而モ普通或タル
力故ニ必ス本系ノ一心同体ノ事實ニ基キ此ノ事實ノ認定セラル、ニヨリ成
立シ否定セラル、ニヨリ消滅ス此ノ認定ハ自治団体ソレ自身ノ内部ヨリス
ルヲ要スルモ更ニ統一的効力ヲ以テ國家ニヨリナササル可ク、之等ノ
内外ノ認定力相合一スルトコロニ自治団体ノ存在確定スルナリ、換言セハ
自治団体ハソノ社団タルト財団タルトハス其ノ内部的要素トシテ第一
各個人、第二其ノ本系ノ一体タル存在ヲ要シ其ノ外部的要素トシテ國家ノ
認定ヲ要ス之等ノ三者ハ相俟ツテ存在スヘク、ソノ一ヲモ欠クヲ得ス而モ
其ノ成立ニツキ何レニ重キヲ置クカニ從ヒ其ノ種別ヲ求ムルヲ得、或ハ固

然前ノ認定ニ重キヲ置キテ成立ヲ認メ或ハ普通体ソレ自身ノ起點存在ノ
事實ニ重キヲ置キテ成立ヲ認メ或ハ國家ノ認定ニ重キヲ置キ団体ニ成立セ
シム、但シ法理上ハ之等ヲ如何ナル場合ニモ國家ノ認定力最高ナル統一的
効力ヲ有シ或ハ認定法ヲ以テ此ノ認定ヲナシ或ハ行政処分ニヨリ此認定ヲ
行ヒツ、アリ

第一種、既存セル一体タル事實ニ重キヲ置キ認メラレ自治団体

本系ノ一心同体タル事實力先ツ既存ノ事實タルトキ又ハ少クモ先ツ發生
スヘキニトヲ要求セラル、モノニ付テハ國家ハ單ニ認定法ニヨリ其存在ヲ
認ムルニヨリ國法上ノ自治団体ヲ認定スルコトヲ常トス、其ノ著シキモノ
ヲ例スレハ一般ノ目的ヲ有スル地方自治団体、如ク多數人カ從來ノ共同生
活ノ歴史的事實並ニ土地ノ自然狀態ニヨリ愛ラサル本系ノ一心同体ヲナシ
ツ、アルコト又ハ為スヘキコトニ基ツキ之ヲ利用シテ認定セラル、ヲ通例
トス、アタカモ單純人カ法律ノ定メト相違テ出生ノ事實ニヨリ認定法上ノ
人格者タルカ如シ

第二種、団体人ノ認定ニ重キヲ置キテ認メラル、自治団体

多致ノ關係人ハ其普通目的ヲ中心トシテ本系ノ一心同体ヲナスコトアリ
此ノ場合ソノ普通目的ハ極メテ複雜ニテ一概ニ定メ難カルハク特定ノ活動
目的ニ付キ關係者カ本系ノ一心同体ヲ爲スヘキヤ否ヤハ活動目的ニ應ジテ
差違アルヘシ、或ハ國家カ豫メ普通目的ナリト認定スルモノニ付テモ仍々
ノ場合ニ異シテ此種ノ普通目的ヲ認定スルヤ否ヤニ付テハ一定シ難カルヘ
シ、此ノ故ニ活動目的ニヨリ本系ノ一体タルコトヲ定ムル公法組合ニ依
リテハ概シテ認定セラレハキ團體ノ分子ノ認定ニ重キヲ置キ之等ノモノヲ
シテ其活動ノ必要ト否ト其範圍ノ如何トヲ認定セシメ自治團體ノ成立ヲ統
モ設立及ヒ許可ニアツテ之レヲ觀察スルヲ得、設立ハ團體ノ成立ニ必要
ナル内部ノ認定法ノ一部分並ヒニ意思表識ヲ定ムル行為ニシテ許可ハ設立
行為ニヨリ定メラレタルモノニ效力ヲ附与スル行為ニテ設立ト許可トニヨ
リテ團體ノ人格始メテ成立スルナリ許可ナル行政処分ニヨリ認定法上設立
ニヨリ定ムル内部ノ要件カ國家ノ認定ヲ繼續トスル外部ノ要件ト有効ニ合
一シ得ルナリ、但シ契約等トハ異リ、國家ノ行政処分カ包括的ノ效力ヲ以
テ設立行為ヲ拒否シ得ルコトハ云フマテモナシ、此ノ種ノ自治團體ハ、其

團體ノ目的ノ廢止及ヒ変更ニ付テモ其團體員ノ自由認定ニ重キヲ置ク然シ
一定ノ資格ヲ有スルモノハ其設立行為ニ加ハルト否ト之レニ反對セシト否
トヲ向ハス團體ノ成立セシ以上ハ原則トシテ加入ヲ強制セラレ其ノ然ラザ
ル場合ニ於テモ少クモ國家カ必要ト認ムルトキハ加入ヲ強制シ得ヘク且常
ニ任意ノ脱退ヲナスヲ得ス、蓋シ加入ヲ強制セサル場合ニ於テモ各人ノ利
益目的ヲ主トシテ依リノ一体ヲ認ムルノ趣旨ニアラス本系ノ一体タル事實
又ハ必要ヲ國家カ認定スルニ付キ又其ノ團體員ノ範圍ヲ定ムルニ付キ各個
人ノ自由意思ヲ斟酌スルモノニ外ナラス從テコノ場合ニモ一度加入セル以
上ハ其任意ノ脱退ヲ許サレモノトス、而シテ團體ノ解散ニモ其ノ團體員
ノ決議ヲ要スルノミナラス必ス國家ノ許可ヲ要ス、之等ハ何レモ私法人ト
其性質ヲ異ニスルトゴロニシテ本系ノ一体即チ當然ノ一体ヲナス所以ナリ
普通我々タル所以ナリ
斯クノ如ク自治團體員タル可キモノ、意思ニ基キ設立ヲ許可スルコトモ
之レ等ノ各員ノ認定スル目的ニ付キ依リニ之レ等ノモノヲ一體ト認ムルニ
非ス、唯特定ノ普通目的ヲ認定スル必要ノ存否ヲ認メン爲メナリ、普通目

的ノ範圍並ヒニ之レト雖レサル意思組成ヲ定メシテナリ、団体員ノ意思ニ基キ解散ヲ許可スルコトモ亦之レト精神ヲ同シキ在普通目的ヲ維持スル必要ナシトノ認定ヲナスニ外ナラザルハ任意ノ脱退及ヒ解散ヲ許サス自治団体ニハ全然団体員タルヘシモ、任意ニ成立消滅セシメ得ラル、モ、ナシ、カクノ如キモ、下ラハ公法人ニ非スシテ私法人ナリ

第三條、全ク國家ノ任意ニ設定スル自治団体
人格者ハ單純人タルト団体人タルト同ハス何レモ國家ノ許可ヲ以テ成立要件トセサルモノナシ、而モ前述セル第一第二ノ場合ト趣ヲ異ニシ國家カ強制的ニ普通目的ノ存在ヲ認定シ、強制的ニ個人団体ノ設立ヲナスコトアリ、

強制的トハ國家カ外部ヨリスル認定ニヨリテ団体内部ノ認定ヲ余儀ナクセシムル義ナリ、此ノ場合トテモ自治団体内部ノ意思ヲ無視スルコトナシ從ツテ其成立手續モ概シテ設立及ヒ許可ニ分ツテ解、假シ具ノ加入ハ強制的ニテ具ノ解散又モトヨリ任意ニ非ス
之レヲ例スレハ水利組合、水害豫防組合ヲ設置セントスルトキハ府縣知

事ニ於テ組合區域ヲ指定シ關係地ノ郡長市町村長ヤ一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘク、此ノ創立委員ハ組合規約案ヲ調成シ關係者ノ總會議又ハ總代人ノ會ニ附ス、而シテ此ノ場合規約力議決ヲ經タルトキハ創立委員ヨリ府縣知事ニ申請シ其ノ許可ヲ乞フ、但シ此ノ總會等成立セス又ハ議決スヘキ件ヲ議決セス又ハ議決スルモ其ノ議決カ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ之ノ議決スヘキ事件ヲ処分スルヲ得、コノ中ニテ組合規約ヲ許可セルニヨリ団体ノ成立セルトキハ団体員ノ認定ニ宜キヲ置クモノ、如クナルカ結局府縣知事カ法律ニ基キ一ニ行政処分ニヨリ之レヲ成立セシメ得ル故ニ之レ等ノ凡テノ場合ヲ不可分ノモノト見テ此ノ団体ハ全ク國家ノ任意ニ設定スルモノト云ハサル可ラス、而シテ此水害豫防組合ノ設置分合及其ノ區域ノ変更ニ至リテモ組合員ノ意見ヲ徵スルモ府縣知事自ラ之ヲ行フモノニテ普通水利組合ノ如ク組合會議決又ハ協議ニヨリ府縣知事ノ許可ヲ受クルトハ異ル此ノ外郡組合モ亦此種ノ自治団体ニ屬ス、郡郡ヲシテ特定ノ事務ヲ共同処理セシムル必要アル場合ニハ府縣知事ハ干渉アル郡縣事會ノ意見ヲ徵シ府縣事會ノ決議ヲ得内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置

スルヲ得。郡組合ノ廢止若クハ變更ニ付テモ亦同シ。
 以上ノ三種ハ成立原理ニ基キ存在スル自治団体ノ種別ナリ。自治団体タル以上ハ如何ナルモノニテモ結局其団体自身ノナス認定ト其ノ団体員ノ認定ト國家ノ認定トノ三者ヲ具備セサルナク莫ク一ヲモクテ得ス。而モ団体ノ種類ニヨリ夫等ノ認定中主従ノ差ヲ有シ之ニ從ヒ其ノ成立消滅ノ形式ヲ異ニス。但シ其ノ何レノ場合ニ於テモ國家カ最高ノ認定者タルヲ夫ハ其認定ハ或ハ認定法ソレ自身ヲ以テシ或ハ認定法ニ根據シ行政処分ヲ以テ之ヲ行フ。自治団体ノ成立ヲ定ムルハ法律ヲ以テスルコト帝國憲法ノ精神ナリ。憲法一八條ニハ日本臣民タル要件ハ法律ノ定ムルトコトニヨルハモ定ムルノミニテ自治団体ニ關スル直接ノ規定ナキモ此ノ條文ノ精神ニ從ヘハ日本臣民カ本來ノ一心同体タル人格者タル要件ヲ又法律ヲ以テ定ムルコトヲ旨トスルモノト解セサル可カラズ集合人ノ如キハ第十八條ニヨルハ又限リニ非レハ別ニ二十九條ニ規定セラル。モ自治団体ハ各臣民ノ自由ニ結社スルモノニアラザル故。之レト趣ヲ異ニスルナリ。

第三款 地方自治団体

地方自治団体ハ之レヲ普通地方自治団体ト特別地方自治団体トニ大別スルヲ得。特別地方団体トハ特別ノ活動目的ヲ限リ存在シ、一般ノ事項ニ互リ本來ノ一心同体ヲナスモノニアラス。即チ特定ノ範圍ヲ持ツ事勢ニツギテ各個人ノ一心同体タルコトヲ認メラレタル地方団体ナリ。普通地方団体トハ特ニ除外セラレザル事項ハ皆之レヲ活動目的ノ範圍トシテ左ク一般ノ活動ニ付テ各個人ノ本來ノ一心同体タルコトヲ認メラレツ、アル地方団体ナリ例ヘハ府縣郡市町村等。北海道及ヒ其ノ下ニ在ル區町村ハ普通地方団体ニテ府縣組合及市町村組合等ハ特別ノ地方団体ナリ。

第一項 普通地方団体ノ種類及沿革

第一 府縣及北海道

府縣及北海道ハ國家ノ行政區劃タル府縣及北海道ヲ以テ領域トスル最高級ノ地方自治団体ナリ、府縣ノ存在其ノ事務並ニ行動ノ準則ハ府縣制ト稱スル法律ニヨリ定マル其效ハ現ニ三府四十三縣アリ其自治事務ノ範圍ハ市町村ニ於ケル如ク広カラスシテ団体自身ノ事務及ヒ分子ノ權利義務ニ關シ條例ヲ設クルニトモ認メラトス又自己ノ選任又ハ推薦セルモノヲナフ事ニ國家力任命セル官吏ニヨリ構成セラル、國家ノ表現人ヲ以テ府縣其レ自身ノ主眼ナル表現人トス、斯クノ如クニシテ府縣ハ國家ノ行政區劃トシテ殊ニ主要ノ地位ヲ占ムルカ其ノ範圍ノ廣大ナルト共ニ自治団体トシテ却ツテ余リニ顯著ニアラス、

府縣ハ明治二十三年法律第三十五号ノ府縣制ニヨリ自治団体ト認めラレタル以前ニ於テ独立普通ノ事案ヲ準備セラレタリ、既ニ明治十一年ニ發布セラレタル府縣會規則以下ニヨリ府縣會ヲ設ケ豫算ヲ議定セシメ常置委員會ヲ設ケ地方稅ヲ以テ支弁スヘキ事務ノ執行ヲ定メシメ府縣カ獨立シテ財產ヲ所有スルコト及ヒ自己ノ行動ヲ行フコトヲ是認シマス又自治タル事實ヲ助成センコトヲ努ム、明治二十三年ノ府縣制ハカクノ如クニシテ

マ、舊道ニ來レル自治団体ノ事實ヲ確定的ニ認定セルモノナリ、而モ當時尙早シト認めル地方ニ付テハ此ノ制度ノ執行ヲ補助スル方針モトリ府縣知事ノ上申ニ基キ内務大臣ノ決定ニヨリ次第ニ之レヲ施行スルコト、ス、明治三十三年府縣制全部ヲ改正シ翌三十三年即チ府縣制々定後約十年ニ至リ沖繩縣ヲ除ク外全國各府縣ニ完全ナル自治制度ヲ施行スルコト、ナリ、沖繩縣モ亦明治四十一年法律第二号、明治四十二年勅令第二十号ニヨリ今年四月一日ヨリ府縣制ニヨリ自治団体ト認めラル、ニ至ル、但シ全縣ニテハ尚他ノ府縣ト異ナリ、縣務事會ノ权限ヲ以テ縣知事ノ权限ニ屬セシム、

北海道ハ特別ノ事情アル故明治三十四年ノ法律北海道會法、北海道地方費法ヲ以テ今年四月ヨリ自治団体ト認めラル而モ現今モ尚ホ各府縣ト同シク府縣制ヲ施行セラル、ニアラス特別法ニヨリ道トシテ認めラレツ、アル特殊ノ自治団体ナリ、

第二、郡

自治団体タル郡ハ行政區劃タル郡ヲ其ノ領域トシ府縣ヲ以テ其ノ上級自

治団体トシ、町村ヲ以テ其ノ下級自治団体トスルモノナリ、明治三十三年法律三六号郡制發布ノ際マテハ純然タル行政区劃ニ止マリ府縣及七市町村ノ何レニ比ナルモ最モ普通我々タルノ事實ニ乏シク只之レ等ノ諸種ノ自治団体ノ連鎖トシテ認めテレタルニ止マル、郡制ハ町村制ヲ施行セル各府縣ニ施行スルモノトスレトモ其施行時期ハ府縣知事ノ具申ニヨリ内務大臣之ヲ定ムルコト、シ大ニ郡ノ配置分合及ヒ境界ノ変更ヲ行ヘリ、明治三十二年ニ至リ府縣制ノ改正ト共ニ郡制ヲ改正シ、尔後引續クテセル内務大臣ノ指定ニヨリ沖繩縣ヲ除外悉ク郡制ヲ施行スルコト、ナレリ、

第三 市町村

市町村ハ其ノ内部ニ更ニ自治団体ヲ有スルコトアレトモ概シテ云ハソレ自身カ下級地方自治団体ナリ、市町村ハ明治二十一年法律第一号市制及ヒ町村制ニヨリ自治団体タル存在ヲ認めラレタルモノナルカ其以前ヨリ次第ニ其ノ実ヲ發達セシメラレモナリ、明治四十四年法律六八号ハ此ノ市制町村制ノ全部ヲ改正シ今年十月一日ヨリ之ヲ施行スル現行法ナリ、

此ノ外北海道ニハ区制、北海道一級町村制、北海道二級町村制ヲ以テ區町村ト云フ下級自治団体ヲ認ム、北海道ノ區ハ府縣ニ於ケル市ニ相当ス、又沖繩縣及ヒ島嶼ニ對シテハ沖繩縣區制及ヒ沖繩縣島嶼町村制ニヨリ下級町村制ヲ認ム、市ト町村トノ區別ハ政大體ニ於ケル如ク特別ナル歴史的事實ニ基キ存在スルモノニモ非ラヌ又法理上性質ヲ異ニスルモノニモアラヌ、市ハ市街地即チ人口稠密シテ夥多ナル地方団体ニテ郡ノ區域ニ屬セヌ府縣ヲシテ直接上級地方団体トス、

此以外ニ在リテ小市街ヲナシ人民ノ職業心理、經濟ノ事情市ニ類スルモノヲ町トナシ、然ラサルヲ村トナス、町ト村トハ共ニ町村制ニヨリテ存在シ同一ノ制度ヲ有ス、市ハ町村ト異ナリ其直接ノ監督者ヲ別ニスルノミナラス、其ノ執行者ヲ異ニシ其ノ構成ノ方法ヲ別ニシ、其ノ議決表現人ノ構成者ヲ選舉スル方法ヲ異ニス、市ノ中ニハ勅令ヲ以テ指定スル市即チ東京、京都、大阪ノ三市モ内務大臣ノ指定スル他ノ市ト制度ヲ別ニセヌ、明治二十一年市制制定ノ際ハ三市ニ限り、明治二十二年法律第十

一九四
ニ号ヲ以テ特別市制ヲ認メ三府ノ知事ヲシテ市長ヲ兼テシメタルカ明治
三十一年法律第二十号ヲ以テ同年九月限り特別市制ヲ廢止シ一級ノ小市
ト等シク市制ニヨルコト、シテ現今ニ及フ、

第四、市町村内ノ区及市町村内ノ一部

勅令ヲ以テ指定スル区即チ東京、大阪、京都ノ区ハ公法人ニシテ區長
區收入役ヲ置キ且區会ヲ設クルヲ得、其ノ財産及ヒ營造物ニ關スル事務
其他法令ニヨリ已ニ關スル事務ヲ処理ス、之レト異ナリ其他ノ市及ヒ町
村モ又処勢ノ便宜ノタメ區ヲ劃シ區長及ヒ其ノ代理者ヲ置クヲ得ルモ公
法人ヲナク市町村ノ行政區劃ニ適マス、市町村内ノ一部ニハ或ハ財産ヲ
有シ或ハ營造物ヲ設ケタルアリ其財産又ハ營造物ノ管理及ヒ処分ニ付テハ
原則トシテ市町村ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニヨラシメ必要アリト
認ムル場合ニ限リ之等ノ一部分ニ特別ナル治他表現人ヲ設置ス、市町村
ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニヨル場合ニ於テモ市町村ノ一部カ府縣

知事又ハ郡長ノ処分ニ不服アルトモ其モ、監督官庁ニ訴願スル概アリ、
市町村ノ一部ニ特別ニ治他表現人ヲ置ク必要アリト認ムルト又ハ、町村
ヲトリテ例スレハ郡長カ町村会ノ意見ニ倣ヒテ町村條例ヲ設定シ區会又
ハ區總會ヲ置キ町村会ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシム、市ニ在リテモ亦
大略之ニ等シ、之等ノ何レノ場合ニ於テモ市町村ノ一部ハ其ノ有セル財
産又ハ營造物ニ關シ特ニ必要トスル費用ヲ負擔スヘシ且其全計ヲ分別セ
サル可カラズ又之等ノ區ノ區域ニ居住シ又ハ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業
ヲナス事實ニ伴ヒ當然其ノ部ノ一員トナリ費用ヲ負擔セサルヘカラスシ
テ之レ等ノ事實ニシテ消滅セサル限リハ任意ニ之等ノ部ヨリ脱退シ得サ
ルハシ、茲ニ現行法カ此ノ種ノ市町村内ノ一部ヲ法人トナス事ヲ規定セ
ス又其部ニ特別ナル治他表現人ヲ設ケタルヲサケタルハ成ル可ク市町村ヲ
以テ最下級ノ自治団体トスルノ趣旨ニ出ツ、市町村ノ一部ヲ独立人格者
トスルトキハ勢ヒ市町村其レ自身ノ統一ヲ阻害シ分裂ヲ助長スル故特別
ノ理由アル外之レヲ認メサルコトヲ欲スルナリ、併シ苟モ法律カ自己ノ

一九六
財産ヲ有シ、管造物ヲ設クル事ヲ認メ、訴訟提起ノ権利ヲ附與シ、特別會計
ヲ有シ、公ニ費用ヲ徴収スル権利ヲ認ムルハ、則チ公法人タルコトヲ認メ、タ
ルモノト云ハサル可ラス、現在ノ行政上ノ取扱モ亦公法人トス。

第四款 公共組合

第一、公共組合ノ例

公共組合ハ活動目的ヲ中心トシテ成立スル公法人ナリ、地域モ亦直接又
ハ間接ニ公共組合及ヒ其目的ト爲ルヘカラサル干渉ヲ有スルコトアルモ市
町村ニ於ケル如ク公共組合ノ中心トナルモノニアラス、從テ單ニ住所ヲ占ム
ルノミノ事實ニヨリ当然公共組合ノ分子ト認メラル、コトナシ、此種ノ公
共組合ニ屬スルモノニハ水利組合聯合會、北海道土功組合、商業會議所、
重要物產同業組合、農會、耕地整理組合、森林組合、畜産組合、水産組合、
水産組合聯合會、外國領海水産組合、外國領海水産組合聯合會、漁業組合、
漁業組合聯合會、酒造組合、酒造組合聯合會等ナリ。

第二、公共組合ニ非サル組合

一、同業組合、準則ニヨル同業組合及同業組合聯合會、産業組合、医師會
弁護士會等ハ其目的夫レ自身カ本来共同ヲ要求スルモ尚ホ共同タルコト

リ自ラ人格者ツレ自身トシテ存在スルコトナシ、本来ノ共同タル故ニ会
又ハ組合トシテ営利事業ヲ行フヲ得サルノミナラス凡テ必要的ニ其会員
又ハ組合員ノ加入ヲナサシム、而シテ人格者ニ非サル故直接ニモ間接ニモ
法人タルコトヲ認メ得ヘキ規定ナシ

二、産業組合ハ公益上認メラル、モ、故其設立ニ付テ組合員ノ數ニ付テ組
合員ノ持分ノ讓渡ニ付テ取得税營業税ノ除外其他ニ付テ特別規定ヲ存ス
ルモ純然タル私法人ナリ、組合員トシテ意思ニ反シテ加入スヘキヲ要求
セラル、コトナク脱退モ亦自由ナルノミナラス組合トシテ営利事業ヲナ
スコトヲ得、無限責任組合ニ加入セントスルトモハ然組合員ノ同意ヲ必
要トシ組合員ノ出資ニハ原則トシテ差等アルコトヲ認ムル如クハ私法人
ノ特質ナリ、産業組合法第五條ニ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除外高
法及商法施行法中商人ニテスル規定ヲ準用ストアルハ仮リニ公法人ヲシ
テ商人ニテスル規定ヲシテ依ラシムルモノニ非ス、元來公益ノ為メニ認
メラル、私法人タルコトヲ明カニセルモノト云フヘシ、

第五款 神社

第一項 神社ノ性質

神社トハ特定ノ設備ニヨリ公ニ奉斎セル建屋ノ根本タル神祇ニ合一シツ
ツアル不特定ナル多數人ノ本來ノ一心同體ヲ云フ、
第一、神社ニハ公ニ建屋ノ根本タル神ヲ奉斎スルコトヲ要ス、神ノ觀念及
七如何ナル神ヲ以テ建屋永遠ノ神ト見做スヘキカハ認定法ヲ以テ定ムヘキ
ニアラス、皆認定法ノ根柢タルヘキ民族信仰ノ事實及ヒ要求ニ基キ定ムル
ハキモノニ外ナラス、故ニ神社ノ成立存在スル基ハ民族ノ信仰ニアル建屋
土地等ノ設備ハ神ヲ奉斎スルタメ存在スルニ外ナラスシテ、神此ノ処ニ在
ス、コトノ信仰ニヨリ之ヲ、設備カ皆神ノ延長擴張トナリ存在シ居ルニ外
ナラス、設備並ニ之ニヨリ神ニ奉仕シ神ヲ崇敬スル人々ノ会体ヲ神ノ延長
ト見ルトキハ神ハ即チ神社ナリト觀念セラレ得ヘシ、認定法ハ此ノ神ノ信
仰ニ根柢シテ神社及其設備ヲ認定シツ、アルニスキス、